

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第125集

吉 野 遺 跡

2004

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

序

吉野遺跡の所在する瀬戸市は、「せともの」のまちとして古くから窯業生産が盛んです。愛知万博「海上の森」として有名な里山が続く地区の一角に吉野遺跡があります。

愛知県埋蔵文化財センターでは、国道 248 号線建設に先立ち、埋蔵文化財調査を実施いたしました。

発掘調査の結果、縄文時代から中世にいたる多大な成果を挙げることが出来ました。なかでも、縄文時代後期前葉については、隣接する大坪遺跡の前段階の集落遺跡として貴重な資料を得ることが出来ました。古墳時代前半期と考えられる柵状遺構は、当時の灌漑設備を考える上で貴重な発見となりました。これら多岐にわたる調査成果を本書に掲載することが、地域誌研究の一翼を担い、多くの方々に活用され、ひいては埋蔵文化財保護に寄与することを願ってやみません。

最後になりましたが、吉野遺跡の発掘調査を実施するにあたり、各方面の方々にご配慮いただいたこと、関係者および関係諸機関のご理解とご協力に対して、厚く御礼申し上げる次第であります。

平成 16 年 8 月

財団法人 愛知県教育サービスセンター
理事長 古池庸男

例言

1. 本書は愛知県瀬戸市吉野町・屋戸町に所在する吉野遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は国道 248 号建設に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間、調査面積および調査担当者は平成 13 年 1 月 26 日～3 月 30 日、540 m²、北村和宏（主査／当時）・小澤一弘（専門員／当時）・魚住英史（調査研究員／当時）、平成 13 年 11 月 5 日～12 月 17 日、890 m²、服部信博（主査／当時）・宇佐見守（調査研究員／当時）・藤岡幹根（調査研究員／当時）、平成 14 年 10 月 2 日～平成 15 年 2 月 6 日、2,300 m²、藤岡幹根（主査／当時）・鶴飼雅弘（調査研究員）・永井宏幸（調査研究員）である。調査面積の合計は 3,730 m²である。
4. 調査にあたっては、愛知県埋蔵文化財センター運営協議会委員、同専門委員ならびに次の各関係機関のご指導とご協力を得た。（順不同）
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター、
愛知県建設部道路建設課、瀬戸市教育委員会
5. 調査および本書作成において、次の方々、関係機関のご教示、ご協力を賜った。
（敬称略・順不同）
青木 修 天野賢一 伊藤正人 井澤 純 伊丹 徹 岩瀬彰利 岩野見司
岡本直久 長田友也 恩田 勇 春日井 恒 金子健一 河合君近 黒尾和久
額 額 茂 佐野 元 田村陽一 野口哲也 林 芳樹 藤澤良祐 増子康眞
松井直樹 松田光太郎 山下勝年 山下峰司
関西縄文文化研究会 （財）瀬戸市埋蔵文化財センター （財）かながわ考古学財団
知多市歴史民俗博物館
6. 調査と遺物整理および本書の作成に関わる作業において、次の方々、関係機関の助力を得た。
中村たかみ 三浦里美 山口きみ代 山口典子 アジア航測（株）
（株）シン技術コンサル （株）アイシン精機
なお、出土遺物の写真撮影は金子知久氏（写真工房 遊）の手を煩わせた。
7. 本書の執筆者は、目次に示した。とくに明記していない場合は、永井宏幸が執筆した。本書の編集は永井宏幸が担当した。
8. 発掘調査および本書で使用了方位は、国土座標第Ⅶ系、基準高は東京湾平均海面（T.P.）に基づく。ただし、表記は「日本測地系」とした。
9. 図版に掲載した遺物実測図および拓本の縮率は、原則として 1/3 を基本に、それ以外のものは、その都度明記した。
10. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いた番号を用いた。
11. 発掘調査の記録（実測図・写真など）は愛知県埋蔵文化財センターで保管、出土遺物（本書付属 CD-ROM に保管箱番号・登録番号対照表を収録）は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目次

1. 調査の概要【1】

- 1 調査の経緯
- 2 調査の概要
- 3 基本層序
- 4 遺跡の立地と環境

2. 調査の成果【5】

- 1 縄文時代の遺構
- 2 弥生時代の遺構
- 3 中世以降の遺構
- 4 自然流路に伴う柵状遺構（小澤一弘）
- 5 縄文時代の土器
- 6 弥生時代以降の土器
- 7 縄文時代の石器（川添和暁・原田幹）

3. 自然科学分析【31】

愛知県北西部、瀬戸市吉野遺跡における堆積環境
（鬼頭 剛・古澤 明・森 勇一・堀木真美子）

4. まとめ【40】

- 報告書抄録
 - 図版
 - 写真図版
-

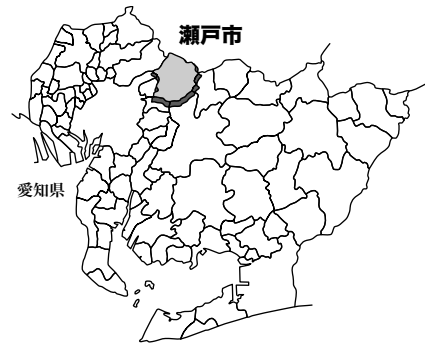
図版目次

遺構図版 01	00 区上面遺構全体図
遺構図版 02	00 区下面遺構全体図
遺構図版 03	01 区遺構遺構全体図
遺構図版 04	02A 区中世以降遺構全体図
遺構図版 05	02B 区中世以降遺構全体図
遺構図版 06	02A 区縄文上面遺構全体図
遺構図版 07	02A 区縄文下面遺構全体図
遺構図版 08	02A 区縄文遺構全体図
遺物図版 01	縄文土器 (1) 遺構資料
遺物図版 02	縄文土器 (2) 遺構資料
遺物図版 03	縄文土器 (3) 遺構資料
遺物図版 04	縄文土器 (4) 遺構資料
遺物図版 05	縄文土器 (5) 遺構資料
遺物図版 06	縄文土器 (6) 遺構資料
遺物図版 07	縄文土器 (7) 遺構資料
遺物図版 08	縄文土器 (8) 遺構資料
遺物図版 09	縄文土器 (9) 遺構資料
遺物図版 10	縄文土器 (10) 遺構資料
遺物図版 11	縄文土器 (11) 遺構資料
遺物図版 12	縄文土器 (12) 遺構資料
遺物図版 13	縄文土器 (13) 包含層資料
遺物図版 14	縄文土器 (14) 包含層資料
遺物図版 15	縄文土器 (15) 包含層資料
遺物図版 16	縄文土器 (16) 包含層資料
遺物図版 17	縄文土器 (17) 包含層資料
遺物図版 18	縄文土器 (18) 包含層資料
遺物図版 19	弥生土器
遺物図版 20	中世土器
遺物図版 21	縄文石器 (1)
遺物図版 22	縄文石器 (2)
遺物図版 23	縄文石器 (3)
遺物図版 24	縄文石器 (4)
遺物図版 25	縄文石器 (5)
遺物図版 26	縄文石器 (6)
遺物図版 27	縄文石器 (7)
遺物図版 28	縄文石器 (8)
遺物図版 29	縄文石器 (9)
遺物図版 30	縄文石器 (10)
遺物図版 31	縄文石器 (11)
遺物図版 32	縄文石器 (12)

写真図版目次

写真図版 01	遺構写真 (1) 00 区 SA01
写真図版 02	遺構写真 (2) 02 区縄文遺構
写真図版 03	遺物写真 (1) 縄文土器 (1)
写真図版 04	遺物写真 (2) 縄文土器 (2)
写真図版 05	遺物写真 (3) 縄文土器 (3)
写真図版 06	遺物写真 (4) 縄文土器 (4)
写真図版 07	遺物写真 (5) 縄文土器 (5)
写真図版 08	遺物写真 (6) 縄文石器

1 調査の概要



1. 調査の経緯

吉野遺跡は、北緯 35 度 11 分 31 秒（世界測地系：35 度 11 分 43 秒）、東経 137 度 06 分 39 秒（世界測地系：137 度 06 分 29 秒）、標高 100 m 前後（現況）、愛知県瀬戸市吉野町から屋戸町にかけて所在する。遺跡周辺の現状は、水田と畑地、および宅地、南西方向に愛知環状鉄道が接する。

今回の調査は、国道 248 号線建設に先立つ事前調査である。本調査に先立ち、試掘調査および遺跡範囲確認調査が行われた。その結果、吉野遺跡と屋戸町遺跡にまたがる範囲に遺跡のひろがりが見えられた。範囲確認調査の結果、調査対象範囲が決定し、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じた委託事業として、愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査は、2000（平成 12）年度に 540 m²、2001（平成 13）年度に 890 m²、2002（平成 14）年度に 2,300 m² の 3 度にわたり、合計 3,730 m² 行った。

ところで、瀬戸市教育委員会の遺跡分布地図によると、2000（平成 12）～2001（平成 13）年度の調査区は吉野遺跡、2002（平成 14）年度の調査区は屋戸町遺跡として登録されている。今回の調査を進めるに当たり、愛知県教育委員会文化財保護室、瀬戸市教育委員会文化財課をはじめ関係機関との協議の結果、2 つの遺跡名をまとめて吉野遺跡として調査を進めることになった。

表 1 調査進行表

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
00区 (540m ²)				■	■	■
01区 (890m ²)		■	■			
02区 (2,300m ²)	■	■	■	■	■	

2. 調査の概要

発掘調査は、2000（平成 12）年度に 540 m²、2001（平成 13）年度に 890 m²、2002（平成 14）年度に 2,300 m²の 3 度にわたり、合計 3,730 m²行った。（表 1）

00 区の調査は、中世以降と古墳時代前後の都合 2 面おこなった。

2000 年度 中世以降は水田など生産域に関連する溝が中心に確認された。古墳時代前後は、自然流路とこれに伴う柵状遺構が確認された。柵状遺構は、数本の芯持ちの丸太杭と横木を組み合わせた柵状の構造物で、東西約 2 m、南北約 10 m にわたり確認できた。

01 区の調査は、農業用水路を挟んで東側を 01 A 区、西側を 01B 区として進めた。

01B 区では、00 区で確認した柵状遺構（SA01）を伴う NR01 の延長を捉えた。調査
2001 年度 区西北端から弥生時代中期初頭と考えられる水田を確認した。同時期と思われる水田は 02 B 区に隣接する瀬戸市 A 区からも確認された。

2002 年度 02 区の調査は、農業用水路を挟んで東側を 02 A 区、西側を 02B 区として進めた。

02 区は過去の調査区では確認されなかった縄文時代後期を中心とした遺構群が見つかった。四方を自然流路または後背湿地に囲まれた、約 1,500 m²ほどの微高地に遺構は展開する。方形と円形プランの竪穴住居を確認した。

3. 基本層序

基本層序は、概ね 00 区と 01 区、そして 02 区で大きく異なる。

00 区と 01 区は、耕作土層を取り除くと旧耕作土面あるいは近世から近代の耕作土面にいたる。さらにこれらを除去すると中世の遺構面が確認できる。最終的に耕作土から約 60 cm ほどで弥生から古墳時代の自然流路および水田面となる。

02 区は、表土層を除去すると暗褐色土層が広がる。ここに灰褐色の粘質シルトの埋土をもつ中世遺構がある。つぎに暗褐色土層（10 ～ 15 cm）を除去すると、青灰色～暗青灰色土層（20 cm 前後）が続く。そして縄文時代後晩期から弥生時代前期の包含層（黒褐色土）と縄文時代前期から後期の包含層（黒褐色土）が各 15 cm 前後堆積する。これら包含層の下位に基盤層（遺構検出面）の鈍い黄褐色砂層がある。

4. 遺跡の立地と環境（図 2）

吉野遺跡は、現標高 100m 前後の沖積地に位置する。北側には海上の森へと遡る矢田川があり、東西には中世を中心とした窯業地帯である丘陵地がせまる。南側は、丘陵地に挟まれた細長い谷底平野が二筋見られる。この細い谷底平野がひとつになった地区がちょうど吉野遺跡である。遺跡の南西には吉田川が位置し、00A 区の柵状遺構を伴う自然流路（NR01）はこの吉田川の支流であろう。周辺の縄文遺跡は、大坪西遺跡（28）、大坪遺跡（21）、大六遺跡（21）がある。これらの遺跡は吉野遺跡の存続した中期後半から後期前葉に続く遺跡である。

瀬戸市域をはじめ愛知県内の内陸部における縄文遺跡の調査が近年増加しつつある。こと瀬戸市域の沖積地の調査事例は海岸部との比較検討する好資料を提供してくれよう。



図1 調査区位置図 (1:2,500)



写真1 00区 SA01 木材サンプル採取作業



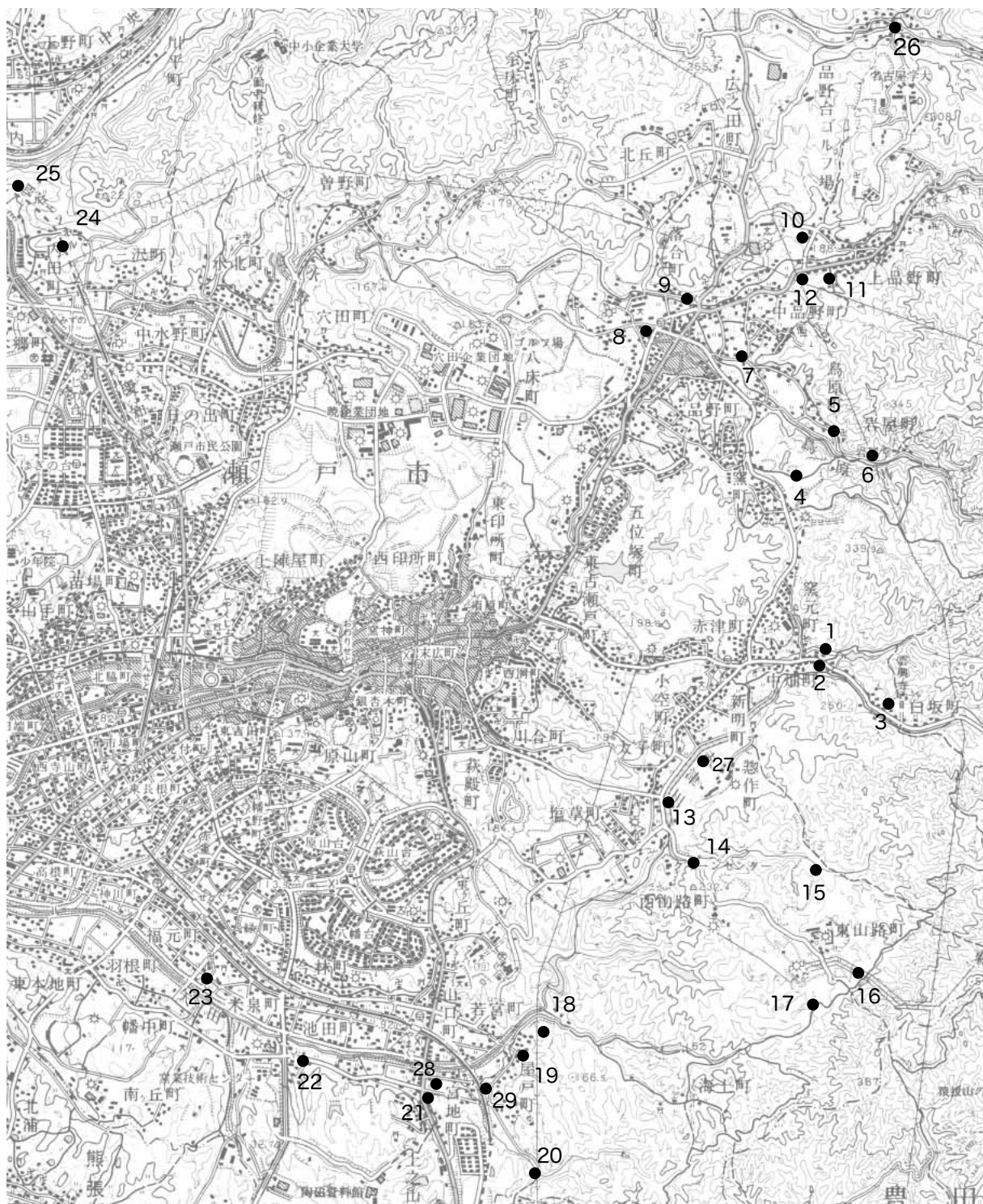
写真2 01B区包含層掘削作業



写真3 02A区遺構掘削作業



写真4 吉野遺跡を北西上空から望む



- | | | | | | |
|-----------|------------|-----------|-----------|----------|------------|
| 1.長谷口遺跡 | 6.岩屋堂遺跡 | 11.中洞遺跡 | 16.山路縄文遺跡 | 21.大坪遺跡 | 26.上半田川遺跡 |
| 2.八王子遺跡 | 7.境井遺跡 | 12.上品野遺跡 | 17.大平縄文遺跡 | 22.大六遺跡 | 27.惣作・鐘場遺跡 |
| 3.白坂雲興寺遺跡 | 8.品野西遺跡 | 13.太子縄文遺跡 | 18.屋戸遺跡 | 23.西米泉遺跡 | 28.大坪西遺跡 |
| 4.針原遺跡 | 9.落合橋南遺跡 | 14.太子遺跡 | 19.屋戸遺跡 2 | 24.四ッ谷遺跡 | 29.吉野遺跡 |
| 5.鳥原遺跡 | 10.上品野蟹川遺跡 | 15.山路遺跡 | 20.吉田奥遺跡 | 25.岩割瀬遺跡 | |

図2 瀬戸市内の縄文遺跡 (1:25,000)

2 調査の成果

1. 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は、02 調査区のみ確認できた。02 調査区は北と西から南側に矢田川へ続く自然流路と東側にある丘陵地との間に挟まれた後背湿地から埋積谷に囲まれた微高地に位置する。面積にして 1,500 m²前後の非常に狭い独立した微高地であるといえよう。ここに、縄文時代前期末（十三菩提式併行）、中期後葉（咲畑式併行）、中期末から後期前葉（林ノ峰G層～広瀬土壙 40 段階併行）を中心とした遺構、遺物が認められた。

ここでは、これら縄文時代に属する遺構のうち、注目できる遺構を取り上げて報告する。

(1) 02B 区 SB02

2.7 × 2.7m、深さ 10 cm前後を測る方形プランの竪穴遺構。中央に花崗岩で四方を囲んだ施設がある。囲まれた内部の堆積は焼土および炭が含まれる。また、花崗岩は被熱して表面がもろい。以上の要素から石囲炉とした。この竪穴遺構にはピットがない。つまり石囲炉以外に内部施設が無い。

(2) 02B 区 SB03・SK83

長径 4.5 × 短径 4.1m、深さ 15 cm前後を測る円形プランの竪穴遺構。内部に 7ヶ所のピットがある。このうち、P97・98・100・102 の 4ヶ所については、15 cm前後掘り込みのあるピットであった。柱穴の可能性を指摘しておく。前記した SB02 は柱穴を確認できなかった。SB03 の場合、中央に炉と考えられる施設はなかった。出土遺物の中に、褐鉄鉱が 2ヶ所で確認された。遺跡から産出されるものではないので、ベンガラ原料として持ち込まれたのであろうか？また、1ヶ所円形プランに切り込む土坑 SK83 がある。無紋の深鉢が正位で埋設されていた。

(3) 02A 区 SK14・17・70

3 基の土坑から中期後葉咲畑式に併行する 4 個体分の土器が埋設されていた。詳細は写真 13～16 および解説に載せた。いずれの土器も形をとどめることなく押し潰れた状態で確認した。したがって、容器内に土など内容物を伴って埋設された可能性はない。

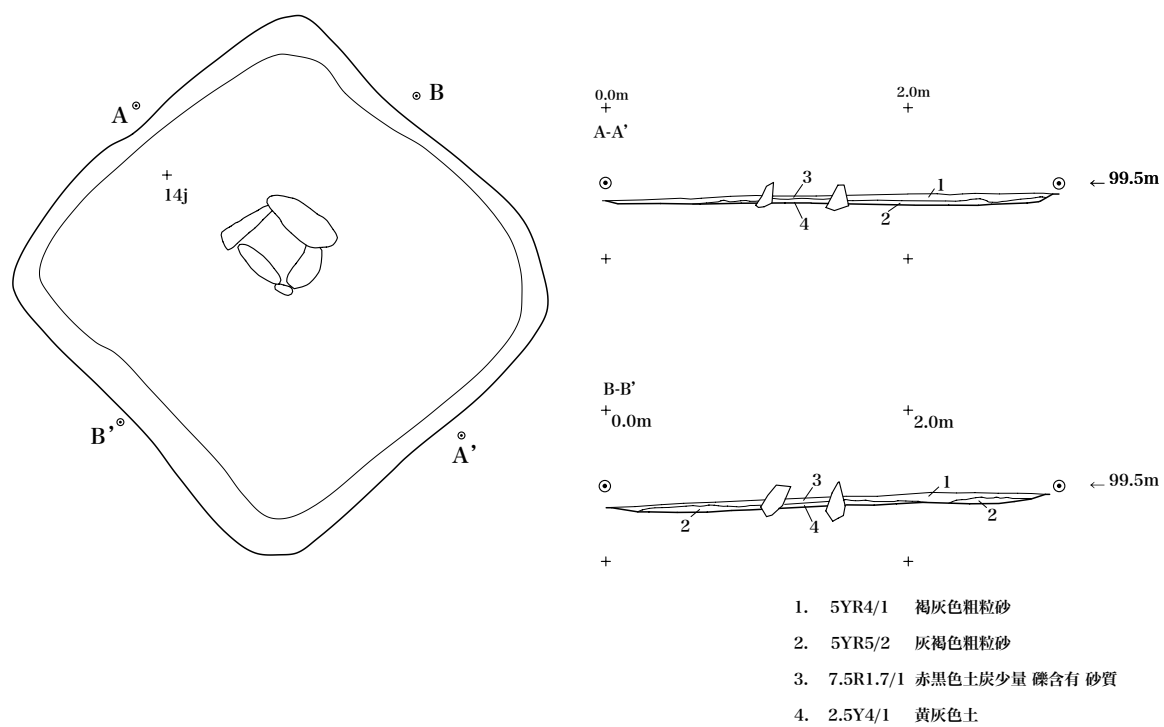


図3 02B区SB02平面および断面図(1:50)

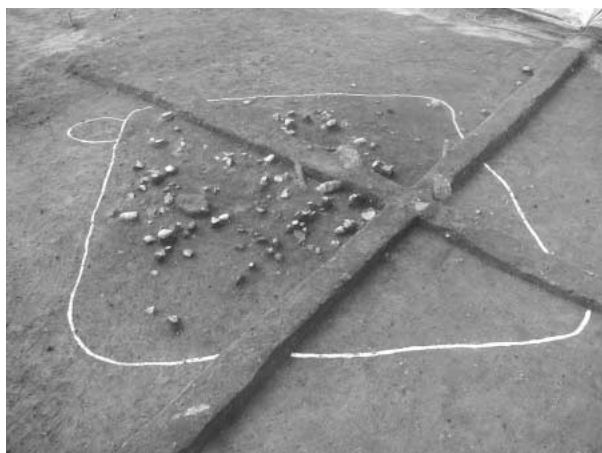


写真5 02B区SB02遺物出土状態



写真6 02B区SB02石囲炉出土状態



写真7 02B区SB03遺物出土状態



写真8 02B区SK83遺物出土状態

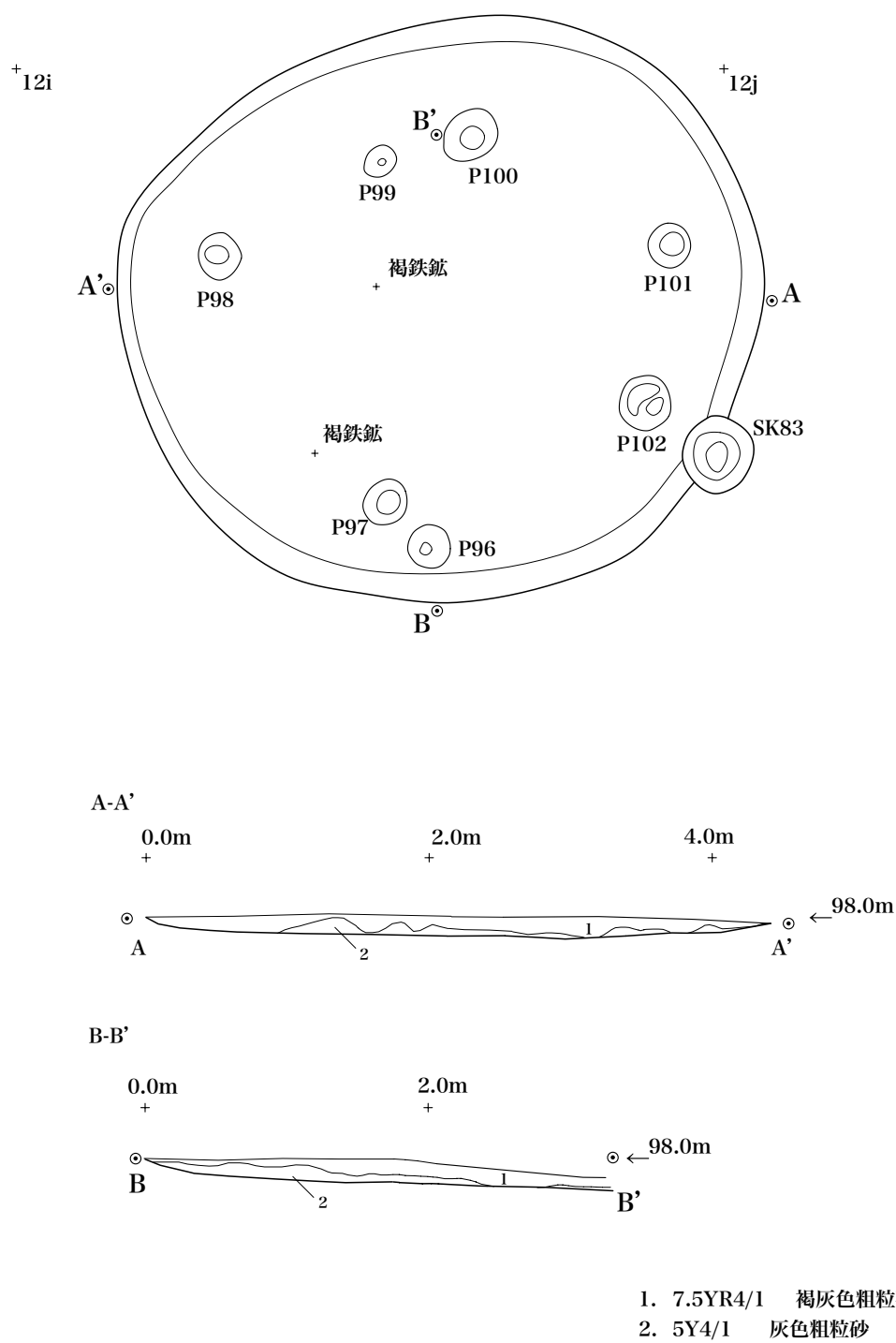


図4 02B区SB03平面および断面図(1:50)

(4) その他の遺構

縄文時代のその他の遺構は、大型石器類などを埋設した土坑や、風倒木痕が多い。

特に大型石器類を埋設する土坑は、7ヶ所確認できた。なお、ここでいう大型石器類とは石皿・台石を指す。写真9・11・12で示したように土坑の端に寄せたように埋設されていることが多い。大型石器類のうち、20 kgを越えるものが5点確認できるが、このうち3点はSK59（写真59）から出土している。また、SB03からは、石皿・台石とセットとして捉えたい磨石・敲石が出土している。

埋設土器としては、02A区SK06がある。1／3程度の残存ではあるが、口縁部を下位にした逆位で出土した。



写真9 02ASK48

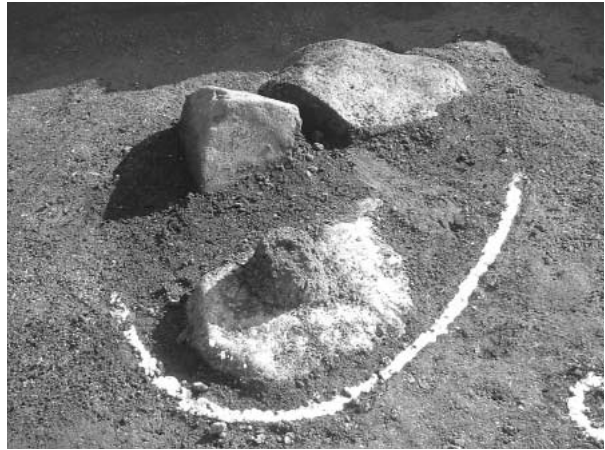


写真10 02ASK59



写真11 02BSK90



写真12 02BSK128



写真 13

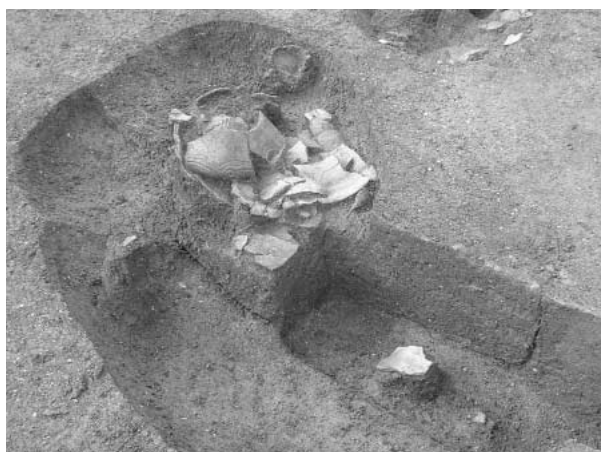


写真 14



写真 15



写真 16

写真 13～16 の解説

写真 13：SK14 の確認面、遺物 12 は胴部下半を欠き、逆位で埋設。

写真 14：SK14 の埋土を掘り下げるとさらに別個体の土器が確認できた。土坑も SK14 → 17 → 70 の順に、3 基重複することが判明。

写真 15：遺物 12 を除去すると遺物 10 と 11 が部分的に欠くもののほぼ全形が遺存していた。埋土の濃い部分が SK17。

写真 16：遺物 10 を除去後、新たに遺物 13 を確認。都合 4 個体となった。10、11、13 は新たな土坑掘削の度に破損したと考えられる。



写真 17 復元した土器群

2. 弥生時代の遺構

弥生時代の遺構としては、01B区下層で確認した水田関連遺構と02B区SK84とSK142がある。

遺構図版3 水田遺構については、01B区の北東隅に確認したのみであったが、2002年瀬戸市埋蔵文化財センターのA区から同時期に比定できる水田遺構が確認された。この市A区の東に隣接する02B区では水田遺構は確認できなかった。01B区の水田は北東に向かって緩やかに傾斜している。市A区も02B区の西側に位置し、微高地が緩やかに市A区向かって傾斜している。つまり、微高地の縁端に带状に続く水田と想定できる。水田遺構からの出土遺物は市A区から岩滑式が確認されている。

02B区SK84は壜王式の深鉢変容壺と深鉢、さらに石匙が出土している。石匙については、遺構確認面の上位にあたるので確実に共伴するかは不明である。土器は2個体確認できたが、いずれも破片資料であるので土器棺と認定するにはいたらない。

SK142は長楕円のプランで、A・Bと切り合い関係をもつ二つの遺構からなる。弥生時代に属するのはAで、Bからは縄文時代後期の土器が出土しているので、弥生時代に属するかは不明である。ただし、遺構の埋土とA・Bともに相似するプランであることから、ほぼ同時期の遺構である可能性が高い。出土遺物は馬見塚式の新相に比定できる深鉢が出土している。



写真 18 01B区ST01断面



写真 19 01B区ST01・02とSD02

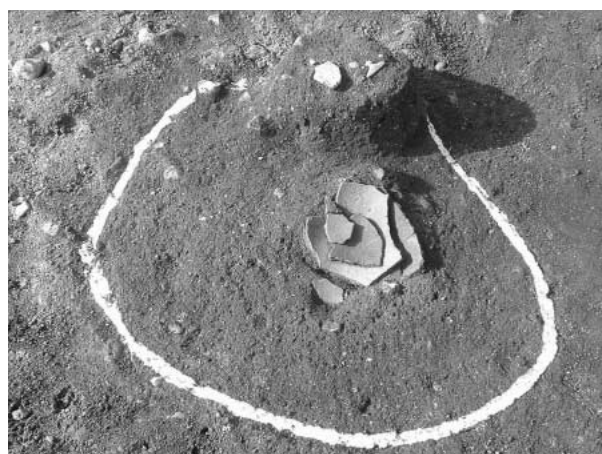


写真 20 02B区SK84遺物出土状態

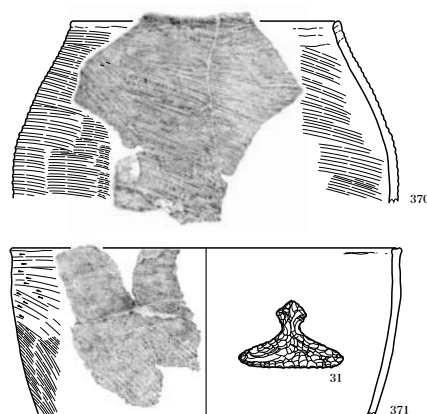


図 5 02B区SK84出土遺物

3. 中世以降の遺構

各調査区から少量ながら溝や土坑を中心に確認されている。その多くが耕地整理により削平され痕跡程度になっている。

02B 区 SD03 は調査区をほぼ東西に横断する幅 1.5 ～ 2m、深さ 35 cm 前後を測る。西側に隣接する瀬戸市 A 区へと続く。溝の下位に砂礫層が堆積し、ここから尾張型 4 ～ 5 型式を中心とした碗と皿類が出土した。

02B 区 SK71 は SD03 の南側、調査区のほぼ中央からみつかった。径 1.2m、深さ 52 cm を測る。土坑の底から尾張型 4 ～ 5 型式を中心とした碗と皿類が出土した。SD03 が水路とするならば、これに伴う井戸と推定できる。

02A 区で中世に発生したと考えられる礫質流路を確認した。写真 23 から黒褐色の縄文後期以前の包含層を切り込むように、数条の白色の礫混じりの流路が、北東側、つまり矢田川に向かって続く。堆積層から数片の中世陶器が見られたことから、中世以降に形成された小規模な土石流の痕跡と考えた。

土石流



写真 21a 02 B 区 SD03 東からみる

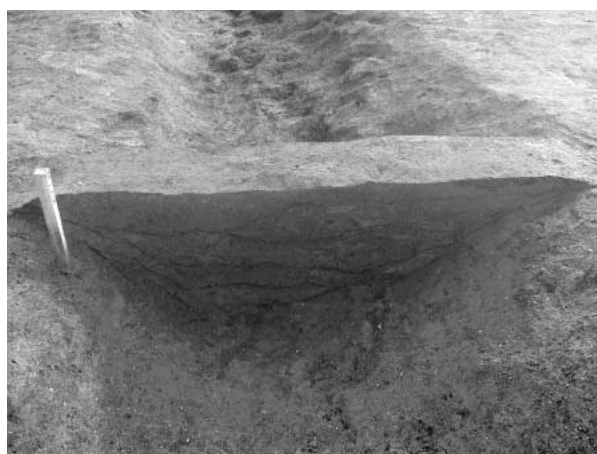


写真 21b 02 B 区 SD03 断面西からみる

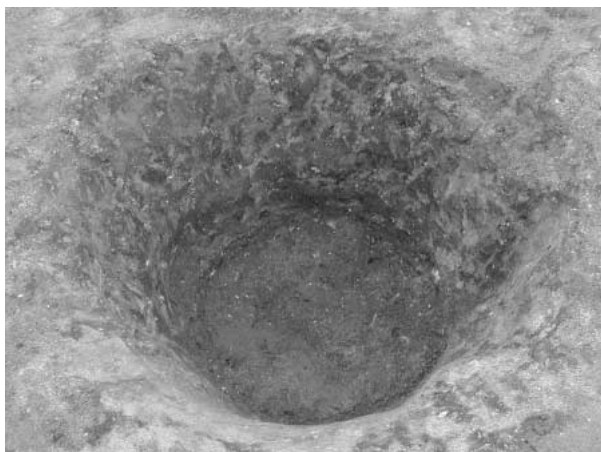


写真 22a 02 B 区 SK71



写真 22a 02 B 区 SK71 断面

現況の耕地整理以前に設置されていた比較的新しい水路を3条確認した。02ASD01
とした水路は、A区とB区の調査区境に位置する現況の農業用水路に対して、若干東西
石組水路 方向に振れる。SD01は3条の水路のなかで最も重厚に築いている。3段以上の石垣を
胴木と杭 組むため、胴木と杭により支えている。現況では西側のみ石積が残存するが、胴木およ
び杭は両側に備えている。一方、B区に位置するSX01～03は胴木・杭が伴わない。
水路の規模の違いか？東西方向に延びるSX02と03は一对に並び一つの水路と考えら
れる。南北方向に延びる02A区SD01とほぼ並行するSX01は東側に溝SD04を伴う。
これらSX01～03は下位に確認した縄文時代の微高地の輪郭にほぼ一致する。縄文
時代以来の微地形が近年まで利用されていた興味深い事例である。



写真 23 02A 中世以降の礫質流路全景北東から



写真 24 02BSX01・02・03



写真 25 02ASD01



写真 26 02BSX01・02・03

4. 自然流路（NR01）に伴う柵状遺構

北西に流れる自然流路（NR01）に伴う柵状の遺構を検出した。

芯持ちの丸太や板状で立杭や横木として 482 本組み合わせた構造で、東西約 2m 巾で南北 10m の範囲で検出した。柵の設置された自然流路の底の標高は 98m20cm から 98m30cm で、流路の肩部の標高は 99m70cm である。

出土遺物は柵の杭の間の粗い砂層より条痕文系の土器片が数点出土と、流路の肩部より廻間 1 に考えられる高坏片が出土したのみである。

自然流路（NR01）は 00 区の北東隅から北西へ流れ、全長は下流が調査区外に続くため不明であるが調査区内では全長約 33m を測り、北東隅では巾 7m、深さ 1m 50cm、最大巾は 9m50cm を測る。北東隅から約 10m 下った所で分流する。分流した流路が 01B 区では東に大きく蛇行して北西に流れ全長は下流が調査区外に続くため不明であるが、01B 区内では全長約 10m、巾約 7m20cm、深さ 1m20cm を測る。

柵は太い横木を流れを遮るように設置し、その両側に芯持ちの立て杭を打ち込み動かないように横木を固し、その後、固定した杭より長い立杭を打ち込み柵を作っている。立杭や横杭は丸木、板状、分割材があり、丸木では樹皮付きのものが見られ、径も細いものは 1cm5mm、太いもので 5cm5mm を測り、5cm 前後の芯持ちの丸木が多い。板状では桎目取りが多く見られ、板目取り例は少なかった。丸木、板状、分割材について先端部等の細部加工の痕跡は認められなかった。

上流側（東側）の一部には立杭に添った状態で立杭下方に葦状植物を網代編みした敷物を 3 ヶ所確認した。網代は杭の底が洗われるのを防ぐ工夫か。

横木は太いものから細いものまでであるが、特に太い丸太材（横木）は 2 本あり、一番大きい横木（40）は、材トネリコ属、南側では立杭下で隠れてはいるが全長 4m8cm、径は最大径 32cm、最少径 25cm を測り、太いほうが南側となっていた。この北側にも太い丸太材があり、立杭の下に隠れ図示できなかったが全長 2m98cm、径は最大径 23cm、最少径 18cm を測り、やはり太い方が南側となっていた。

中央部分の長い横木（72）は、材コナラ節、全長 4m40cm、太い方が下流側で太い方径は 10cm2mm、細い方の径 7cm2mm を測る。この横木（72）の北寄りの部分にある全長 1m70cm の横木（67）は材ヒノキである。この反対側の横木（70）は全長 2m10cm で樹皮付きで 1/3 分割で材はコナラ節である。

北側は自然流路から分流するために柵本体よりやや下がった下流部分に 1m 前後の立杭を 7 本斜めに打ち込み導水口としている。北東の溝へ流れるように作られたものと思われる。北東への溝は巾 1m60cm 前後、溝底の標高は南側 98m25cm、北側 98m35cm を測る。水が当たるとおもわれる西側には、全長 50cm から 70cm、径 5cm から 10cm を測る杭が 32 本斜めに打ち込まれていた。水流による溝の肩の崩落を防ぐのを兼ね備えていたようである。導水口には葦状植物を網代編みした固まりが溝底

より浮いた状態で出土した。

材については全てを樹種同定したわけではないが、122 本についてパレオ・ラボに委託し樹種同定を実施した。() の数字は点数。

針葉樹は 5 分類群、カヤ (4)、ヒノキ (4)、イヌガヤ (2)、アカマツ (2)、モミ属 (1) の 13 点である。落葉広葉樹は 21 分類群で検出点数 (101) が圧倒的に多く中でもクリ (46) が多い。クリ、コナラ節・トネリコ属 (各 10)、ヤマグワ (4)、ケヤキ・サクラ属・フジ・コクサギ・ヌルデ (各 3)、アカメガワ・ムクロジ・タラノキ・ケンボナシ属 (各 2)、オニグルミ・イヌシデ節・キハダ・カエデ属・トチノキ・ミズキ・クマノミズキ類・ムラサキシキブ属 (各 1) である。常緑広葉樹は 3 分類群でアカガシ亜属 (6)・クスノキ科 (1)・サカキ (1) である。

多種多様な分類群の樹種から構築に適した太さの材を選び周辺の森林から用材を調達し、なかでもクリが丸木や板状の形状で立杭や横木として多く使われていた。(小澤一弘)



写真 27 SA01 出土状況全景



写真 28 網代出土状況

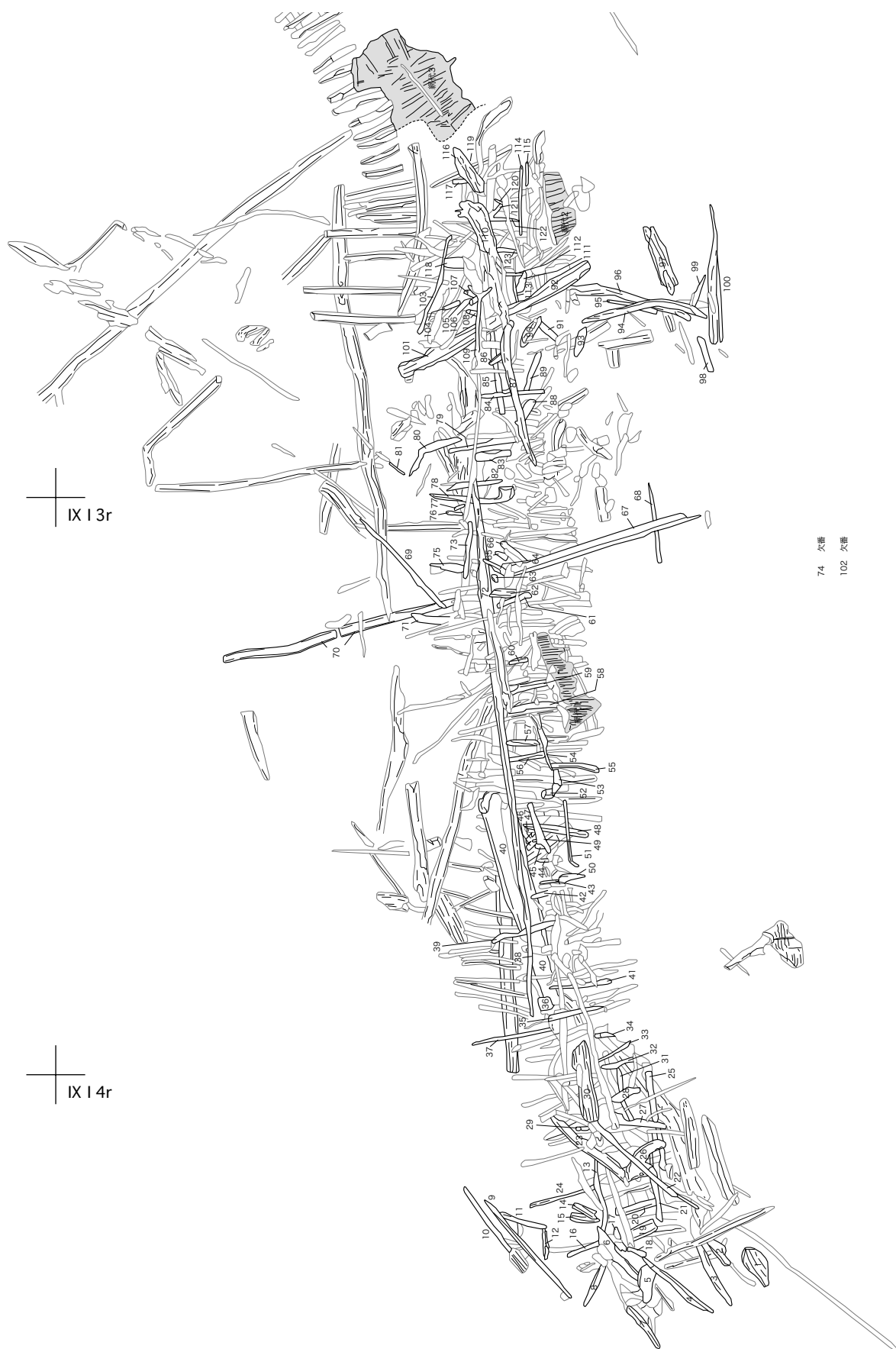


图6 SA01 柵状遺構平面図 (1:50)

表2 SA01 柵状遺構に使用された木材一覧表

樹種 No.	樹種	出土 状況	横断面	計数 年輪	形状	備考	樹種 No.	樹種	出土 状況	横断面	計数 年輪	形状	備考
1	アカガジ垂属						63	コクサギ	立杭	φ4.5cm	15	1/3分割材	
2	トネリコ属		r:3cm	19			64	クリ					
3	ケンボナシ属		φ5cm	5	丸木		65	クリ	立杭			板状破片	
4	ヤマグワ		r:2cm	10+			66	クリ		φ3cm		丸木	
5	トネリコ属		r:3cm	35			67	ヒノキ	横木				
6	ミズキ						68	クリ				分割材	
7	フジ		φ2cm	12	丸木		69	カヤ					
8	サクラ属		φ3cm		丸木		70	コナラ節	横木	r:3cm		1/3分割材	樹皮付き
9	ムラサキシキブ属		φ3.5cm		丸木		71	クリ					
10	サクラ属		φ4cm	23+	丸木	樹皮付き	72	コナラ節	横木				
11	フジ		φ1.8cm		丸木	樹皮付き	73	クスノキ科		φ5.5cm		1/2分割材	
12	モミ属		φ2.8cm		丸木	樹皮付き	74	欠番					
13	ヤマグワ	横木					75	クリ	立杭	r:3.5cm			
14	トネリコ属	立杭	φ4.5cm	16+	丸木		76	クリ		r:2.5cm			
15	クリ	立杭	r:2cm	16+	板		77	クリ		r:2.7cm			
16	クリ				板状破片		78	クリ		φ3.5cm			
17	ヤマグワ						79	クリ					
18	コナラ節	立杭	φ4.5cm	22	丸木	樹皮付き	79-2	クリ					
19	クリ	立杭	r:1.5cm	6	板		80	トチノキ		φ3.3cm		丸木	
20	クリ	立杭	r:3.2cm	29	板	柵目取り	81	タラノキ		φ2.0cm		丸木	
21	ムクロジ	横木	r:2.8cm	19			82	ヒノキ				分割材か	
22	オニグルミ		r:2.5cm	8			83	トネリコ属		r:3cm		1/3分割材	
23	ヤマグワ	立杭	r:2.5cm	9	丸木		84	クリ	立杭	r:2cm			
24	トネリコ属	立杭	φ10cm		丸木		85	クリ		推定φ2cm			
25	コクサギ		r:1.8cm	13			86	クリ	立杭			丸木	
26	クリ		r:5.5cm	26			87	カエデ属	横木			板状破片	柵目取り
27	ケヤキ	立杭	r:2.8cm	35	丸木		88	トネリコ属				板状破片	柵目取り
28	クリ	立杭	r:5.5cm	26	板	柵目取り	89	アカガジ垂属		φ3cm		丸木	
29	コナラ節	立杭	φ3.7cm	21	丸木	樹皮付き	90	キハダ				板状破片	柵目取り
30	トネリコ属					炭化	91	アカガジ垂属				板状破片	柵目取り
31	ムクロジ		r:3cm	25	分割材か	周囲炭化	92	ヌルデ				分割材か	
32	トネリコ属	立杭	φ3cm	13	丸木		93	アラマツ					
33	クマノミズキ類	立杭	φ3cm	16	丸木		94	クリ	横木				
34	ヒノキ	立杭	r:2.8cm	24	板状破片		95	コナラ節		φ3cm			
35	コナラ節	立杭	r:2.5cm	9	丸木	樹皮付き	96	イヌシデ節	横木			分割材か	
36	クリ		r:3cm	15+			97	ヌルデ		r:8cm		分割材か	
37	クリ	立杭	r:1.8cm	7	1/4分割材		98	ケヤキ		r:5cm		板状破片	柵目取り
38	コナラ節	横木	φ10cm		丸木		99	クリ					
39	クリ	立杭	r:3cm	7	1/2分割材		100	クリ				板	
40	トネリコ属						101	ヌルデ		r:4cm		分割材か	
41	クリ		r:4.5cm	9	1/4分割材		102	欠番					
42	サカキ	立杭	φ4.5cm		丸木		103	クリ		φ3cm		丸木	
43	クリ	立杭			板状破片		104	アカガジ垂属		r:3cm			
44	クリ	立杭			分割材		105	カヤ		推定φ3.5cm			
45	クリ	立杭			板状破片	柵目取り	106	クリ		r:4.5cm		分割材か	
46	クリ	立杭			分割材		107	クリ		r:5cm			
47	カヤ	立杭			丸木		108	クリ		r:3cm			
48	コナラ節	立杭	φ4.5cm	29+	丸木	樹皮付き	109	クリ					
49	コナラ節		φ4.5cm	13+	丸木		110	カヤ					
50	コナラ節	立杭	φ4.5cm	16	丸木	樹皮付き	111	ヒノキ	立杭	r:2.8cm		板状破片	一部炭化
51	クリ						112	アカガジ垂属	立杭	φ2.5cm		丸木	樹皮付き
52	アカメガシワ	立杭	φ5.5cm	8	1/2分割材		113	サクラ属		φ2.0cm		丸木	樹皮付き
53	ケヤキ				板状破片	柵目取り	114	イヌガヤ		φ2.0cm		丸木	
54	イヌガヤ		φ1.5cm		丸木		115	コクサギ?		φ2.0cm		丸木	樹皮付き
55	クリ						116	アラマツ		r:5cm	50+	分割材か	一部炭化
56	クリ	立杭	r:1.8cm		板状破片		117	クリ		r:2.5cm			
57	クリ	立杭			板状破片		118	クリ				板状破片	柵目取り
58	クリ	立杭			板状破片		119	ケンボナシ属		φ:4cm			
59	クリ	立杭			板状破片		120	トネリコ属		φ2.5cm			
60	クリ	立杭	r:3cm		板状破片		121	アカガジ垂属					
61	クリ						122	タラノキ					
62	アカメガシワ	立杭			板状破片		123	フジ	立杭	φ1.5cm		丸木	

5 縄文時代の土器

縄文時代の土器は、前期から晩期に比定できる資料がある。このうち、後期初頭から前葉の資料群はまとまりがある。まず、遺構出土資料を、その後包含層資料を提示する。以下、注目できる資料について記述し、その他は一覧表で補う。

1～9は02A区SK45資料。今回の調査で唯一前期に遡る資料。1は図上で器形復原した。底部を欠き、口縁部も一部しか残存していない。一方、胴部片は径の復元が可能。2～9は同一個体。いずれも十三菩提式に比定できる良好な資料として注目できる。1は岐阜県中津川市落合五郎遺跡第3住居址（渡辺編1988：第15図-3）に類似する資料。

10～13は02B区SK14・17・70の3つの土坑が重複する箇所から出土している。各個体に時期差は見出せない。遺構の切り合い関係から10（SK70）→11,12（SK17）→13（SK17・14）の堆積順序が見て取れる。いずれも咲畑式新相に比定できよう。

14～49は02B区SB02資料。14～27は沈線主体のもの。28～49は縄紋施紋のもの。ほぼ林ノ峰貝塚G層（山下ほか1983）に比定できる資料群。

50～88は02B区SB03資料。SB02に比べると出土資料に時期幅がある。SB02と同時期の資料を多く含むものの、広瀬土壙40段階に比定できる新しい時代の土器群（69～74）も含む。一方、咲畑式前後に比定できる古い時代の土器群（79～83）も含む。

89～92は02A区SK06資料。02B区SB02資料と同時期あるいは1時期遡る資料。89は肥厚した口縁に上下2条の沈線で区画した内側に縄紋を施す。頸部から胴部にかけて6本1単位で施した条線がある。所々矢羽根状にも見て取れるが、縦方向に施すことを基本とするのみで、紋様にはならない。90・91は縄紋施紋。92は二枚貝腹縁による刺突紋を横位に施す。

208～360は包含層資料。208は清水の上Ⅱ式、209は北屋敷式、210～213は中期後半。214～216は同一個体で38と同時期資料。これら以外は後期初頭から前葉の資料群。包含層資料は以下の分類に基づいて提示する。

218～293は中津式に併行する資料。218～251は波頭部をもつ波状口縁の資料。252～271は波頭部をもたない波状口縁の資料。272～293は胴部資料。

294～317は紋様が沈線主体となる資料。紋様構成などから294～300は古相、301～317は新相と考えた。

318・319は平行沈線をもつもの。

320～327は広瀬土壙40段階～縁帯紋系土器の時代に併行する資料。

328～337は櫛歯状工具による条線紋を施す資料。

338～347は縄紋施紋の資料。

348～352は無紋・ミガキ調整の資料。

355は後期の注口土器あるいは加曽利E式の深鉢か？

361～369は晩期資料。

表3 縄文土器一覧表(1)

図版番号		登録番号		出土情報			保管箱 番号	器種	法量			残存率 ●/12	備考
遺物図版	番号	種別	番号	調査区	遺構	グリット			口径	底径	器高		
1	1	E	1	02A	SK45,検I,検II	VIIIJ15k,14k	1	深鉢	(18.0)	(11.0)	(15.0)	1/12以下	十三菩提式
1	2	E	2	02A	SK45	VIIIJ15k	1	深鉢	-	-	-	1/12以下	十三菩提式
1	3	E	3	02A	SK45	VIIIJ15k	1	深鉢	-	-	-	1/12以下	十三菩提式
1	4	E	4	02A	SK45	VIIIJ15k	1	深鉢	-	-	-	1/12以下	十三菩提式
1	5	E	5	02A	SK45	VIIIJ15k	1	深鉢	-	-	-	1/12以下	十三菩提式
1	6	E	6	02A	SK45	VIIIJ15k	1	深鉢	-	-	-	1/12以下	十三菩提式
1	7	E	7	02A	SK45	VIIIJ15k	1	深鉢	-	-	-	1/12以下	十三菩提式
1	8	E	8	02A	SK45	VIIIJ15k	1	深鉢	-	-	-	1/12以下	十三菩提式
1	9	E	9	02A	SK45	VIIIJ15k	1	深鉢	-	-	-	1/12以下	十三菩提式
1	10	E	10	02A	SK70	VIIIJ16l	1	深鉢	20.0	9.2	31.9	9	咲畑式
1	11	E	11	02A	SK17 SK14	VIIIJ16l	1	深鉢	(23.8)	9.0	21.1	7	咲畑式
2	12	E	12	02A	SK14	VIIIJ16l	1	深鉢	16.3	-	(18.9)	6	咲畑式
3	13	E	13	02A	SK17 SK14	VIIIJ16l	2	深鉢	(27.0)	(6.4)	(30.0)	3	咲畑式
4	14	E	14	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	10	林ノ峰G層
4	15	E	15	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	16	E	16	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	17	E	17	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	18	E	18	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	19	E	19	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	20	E	20	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	21	E	21	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	22	E	22	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	23	E	23	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	24	E	24	02B	SK105,SB02	VIIIJ14i,14j	2	深鉢	-	-	(14.8)	2	林ノ峰G層
4	25	E	25	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	10.4	(7.3)	2	林ノ峰G層
4	26	E	26	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	27	E	27	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	28	E	28	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	29	E	29	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	30	E	30	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	31	E	31	02B	SB02	VIIIJ13i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	32	E	32	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	33	E	33	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	34	E	34	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	35	E	35	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	36	E	36	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
4	37	E	37	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	38	E	38	02B	SB02,検II	VIIIJ14i,14h	2	深鉢	42.8	-	-	4	林ノ峰G層
5	39	E	39	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	40	E	40	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	41	E	41	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	42	E	42	02B	SB02	VIIIJ13i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	43	E	43	02B	SB02	VIIIJ14h	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	44	E	44	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	8	林ノ峰G層
5	45	E	45	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	46	E	46	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	47	E	47	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	48	E	48	02B	SB02	VIIIJ14i	2	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層
5	49	E	49	02B	SB02	VIIIJ14h	2	深鉢	-	5.0	(4.5)	4	林ノ峰G層
6	50	E	50	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	51	E	51	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	52	E	52	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	53	E	53	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	54	E	54	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	55	E	55	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	56	E	56	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	57	E	57	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	58	E	58	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	59	E	59	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	60	E	60	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	61	E	61	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	62	E	62	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	63	E	63	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	64	E	64	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	65	E	65	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式

表4 縄文土器一覧表(2)

図版番号		登録番号		出土情報			保管箱 番号	器種	法量			残存率 ●/12	備考
遺物図版	番号	種別	番号	調査区	遺構	グリット			口径	底径	器高		
6	66	E	66	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	67	E	67	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	68	E	68	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式
6	69	E	69	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階
6	70	E	70	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階
6	71	E	71	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階
6	72	E	72	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階
6	73	E	73	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階
6	74	E	74	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階
6	75	E	75	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	堀ノ内式
6	76	E	76	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
6	77	E	77	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
6	78	E	78	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
6	79	E	79	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
6	80	E	80	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
6	81	E	81	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
6	82	E	82	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
6	83	E	83	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
6	84	E	84	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	12.0	(3.8)	2	後期
6	85	E	85	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	10.0	(4.6)		後期
6	86	E	86	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	9.0	(2.9)	2	後期
6	87	E	87	02B	SB03	VIIIJ12i	3	深鉢	-	6.0	-	6	後期
6	88	E	88	02B	SB03	VIIIJ12i	3	台付鉢	-	11.0	-	2	後期
7	89	E	89	02A	SK06	VIIIJ14m	3	深鉢	26.0	-	(29.8)	4	林ノ峰G層?
7	90	E	90	02A	SK06	VIIIJ14m	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層?
7	91	E	91	02A	SK06	VIIIJ14m	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層?
7	92	E	92	02A	SK06	VIIIJ14m,15l	3	深鉢	-	-	-	1/12以下	林ノ峰G層?
8	93	E	93	02A	SK02	VIIIJ11n	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期末
8	94	E	94	02A	SK04	VIIIJ11n	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
8	95	E	95	02A	SK05	VIIIJ13m	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
8	96	E	96	02A	SK10	VIIIJ11m	4	深鉢	-	12.0	-	3	後期
8	97	E	97	02A	SK11	VIIIJ11m	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
8	98	E	98	02A	SK13	VIIIJ11m	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
8	99	E	99	02A	SK13	VIIIJ11m	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
8	100	E	100	02A	SK14	VIIIJ16l	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
8	101	E	101	02A	SK14	VIIIJ16l	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
8	102	E	102	02A	SK16	VIIIJ11i	4	深鉢	27.0	-	(8.7)	2	福田K2式
8	103	E	103	02A	SK16	VIIIJ11i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階
9	104	E	104	02B	SK77	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
9	105	E	105	02B	SK77	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
9	106	E	106	02B	SK77	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
9	107	E	107	02B	SK77	VIIIJ12i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
9	108	E	108	02B	SK77	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
9	109	E	109	02B	SK77	VIIIJ12i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
9	110	E	110	02B	SK77	VIIIJ12i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
9	111	E	111	02B	SK77	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新
9	112	E	112	2B	SK78	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
9	113	E	113	2B	SK78	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
9	114	E	114	2B	SK79	VIIIJ11i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
9	115	E	115	2B	SK87	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	116	E	116	2B	SK87	VIIIJ12h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	117	E	117	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	118	E	118	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	119	E	119	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	120	E	120	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	121	E	121	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	122	E	122	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	123	E	123	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	124	E	124	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	125	E	125	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	126	E	126	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新併行
9	127	E	127	2B	SK90	VIIIJ12g	4	深鉢	-	(15.0)	(2.6)	2	中津式新併行
9	128	E	128	2B	SK91	VIIIJ13h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階併行
9	129	E	129	2B	SK91	VIIIJ13h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階併行
9	130	E	130	2B	SK91	VIIIJ13h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階併行

表5 縄文土器一覧表(3)

図版番号		登録番号		出土情報			保管箱 番号	器種	法量			残存率 ●/12	備考
遺物図版	番号	種別	番号	調査区	遺構	グリット			口径	底径	器高		
9	131	E	131	2B	SK91	VIIIJ13h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土城40段階併行
10	132	E	132	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	(19.6)	-	(7.2)	2	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	133	E	133	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	134	E	134	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	135	E	135	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	8	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	136	E	136	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	137	E	137	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	138	E	138	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	139	E	139	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	140	E	140	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	141	E	141	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	142	E	142	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	143	E	143	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	144	E	144	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	145	E	145	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	146	E	146	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	147	E	147	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	148	E	148	2B	SK92	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式新～広瀬土城40段階併行
10	149	E	149	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	150	E	150	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	151	E	151	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	152	E	152	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	153	E	153	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	154	E	154	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	155	E	155	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	156	E	156	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	157	E	157	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	158	E	158	2B	SK93	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式新併行～中津式併行
10	159	E	159	2B	SK94	VIIIJ12g	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
10	160	E	160	2B	SK95	VIIIJ11h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
10	161	E	161	2B	SK95	VIIIJ11h	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
10	162	E	162	2B	SK98	VIIIJ13j	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
10	163	E	163	2B	SK105	VIIIJ14j	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
10	164	E	164	2B	SK105	VIIIJ14j	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
10	165	E	165	2B	SK108	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
10	166	E	166	2B	SK108	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
10	167	E	167	2B	SK109	VIIIJ14i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	168	E	168	2B	SK110	VIIIJ15i	4	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	169	E	169	2B	SK114	VIIIJ13h	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	170	E	170	2B	SK115	VIIIJ13h	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	171	E	171	2B	SK115	VIIIJ13h	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	172	E	172	2B	SK116	VIIIJ13g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	173	E	173	2B	SK120	VIIIJ13g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	174	E	174	2B	SK120	VIIIJ13g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	175	E	175	2B	SK120	VIIIJ13g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	176	E	176	2B	SK124	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	177	E	177	2B	SK124	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	178	E	178	2B	SK124	VIIIJ12f	5	深鉢	-	(7.2)	(2.1)	4	中津式併行
11	179	E	179	2B	SK128	VIIIJ12g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	180	E	180	2B	SK128	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	181	E	181	2B	SK128	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	182	E	182	2B	SK128	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	183	E	183	2B	SK128	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	184	E	184	2B	SK128	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	185	E	185	2B	SK128	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	186	E	186	2B	SK128	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	187	E	187	2B	SK131	VIIIJ11e	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	188	E	188	2B	SK132	VIIIJ11f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	189	E	189	2B	SK132	VIIIJ11f	5	深鉢	-	(10.0)	(2.8)	2	後期
11	190	E	190	2B	SK133	VIIIJ11f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	191	E	191	2B	SK133	VIIIJ11f	5	深鉢	-	(7.8)	(3.0)	4	後期
11	192	E	192	2B	SK142	VIIIJ11g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	193	E	193	2B	SK142	VIIIJ11g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	194	E	194	2B	SK142	VIIIJ11g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
11	195	E	195	2B	SK142A	VIIIJ11g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期

表6 縄文土器一覧表(4)

図版番号		登録番号		出土情報			保管箱 番号	器種	法量			残存率 ●/12	備考
遺物図版	番号	種別	番号	調査区	遺構	グリット			口径	底径	器高		
11	196	E	196	2B	SK143	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	中津式併行
11	197	E	197	2B	SK143	VIIIJ12f	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
12	198	E	198	2B	SK143	VIIIJ12f	5	深鉢	-	(9.0)	(2.6)	3	後期
12	199	E	199	2B	SK145	VIIIJ12g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
12	200	E	200	2B	SK145	VIIIJ12g	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
12	201	E	201	2B	SK145	VIIIJ11f	5	深鉢	-	(9.4)	(3.0)	完形	後期
12	202	E	202	2B	SK146	VIIIJ11h	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
12	203	E	203	2B	SK148	VIIIJ14h	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
12	204	E	204	2B	SK148	VIIIJ14h	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
12	205	E	205	2B	SK148	VIIIJ14h	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
12	206	E	206	2B	SK148	VIIIJ14h	5	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
12	207	E	207	2B	SK83	VIIIJ12i	5	深鉢	-	(14.4)	(21.2)	3	後期
13	208	E	208	02B	検I	VIIIJ12k	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	清水ノ上II式
13	209	E	209	02A	検II	VIIIJ15k	6	深鉢	(14.8)	-	(1.8)	1/12以下	中期前半北屋敷
13	210	E	210	02A	検II	VIIIJ15i	6	深鉢	(1.2)	-	(5.0)	2	中期後半
13	211	E	211	02A	検II	VIIIJ15k	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
13	212	E	212	02A	検I	VIIIJ16i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期後半
13	213	E	213	02A	検I	VIIIJ12m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式系
13	214	E	214	02A	検II	VIIIJ13i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式系
13	215	E	215	02A	検II	VIIIJ14i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式系
13	216	E	216	02A	検II	VIIIJ13i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川C式系
13	217	E	217	02A	検II	VIIIJ12n	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	窓枠状区画
13	218	E	218	02A	検II	VIIIJ15k	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	219	E	219	02B	トレンチ一括	VIIIJ	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	220	E	220	02B	検I	VIIIJ12f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	221	E	221	02A	検II	VIIIJ10m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	222	E	222	02B	検I	VIIIJ12f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	223	E	223	02A	トレンチ	VIIIJ11i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	224	E	224	02B	検I	VIIIJ12j	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	225	E	225	02A	トレンチ	VIIIJ11i	6	深鉢	(25.0)	-	(5.8)	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	226	E	226	02B	検I	VIIIJ13f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	227	E	227	02A	検II	VIIIJ14i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	228	E	228	02B	検II	VIIIJ12q	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	229	E	229	02A	検II	VIIIJ15k	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
13	230	E	230	02A	検I、トレンチ	VIIIJ11m、VIIIJ12i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
14	231	E	231	02A	検II	VIIIJ17i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
14	232	E	232	02A	トレンチ	VIIIJ12i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
14	233	E	233	02A	検I	VIIIJ12i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
14	234	E	234	02A	検I	VIIIJ12i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
14	235	E	235	02A	検I	VIIIJ12o	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑太沈線(中津式併行)
14	236	E	236	02A	検I	VIIIJ13m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	237	E	237	02A	検II	VIIIJ	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	238	E	238	02A	検I	VIIIJ11n	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	239	E	239	02B	検I	VIIIJ12j	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	240	E	240	02A	検II	VIIIJ11n	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	241	E	241	02B	検I	VIIIJ12g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	242	E	242	02A	検II	VIIIJ13m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	243	E	243	02B	検I	VIIIJ11g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	244	E	244	02A	検I	VIIIJ12m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	245	E	245	02A	検I	VIIIJ12m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	246	E	246	02B	検I	VIIIJ13f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	247	E	247	02B	検I	VIIIJ12g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	248	E	248	02B	検I	VIIIJ12i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	249	E	249	02B	検I	VIIIJ13f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	250	E	250	02B	検I	VIIIJ14g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	251	E	251	02A	検I	VIIIJ13m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭部有波状口緑細沈線(中津式併行)
14	252	E	252	02B	検I	VIIIJ11g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)
14	253	E	253	02A	検II	VIIIJ12m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)
14	254	E	254	02B	検I	VIIIJ12j	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)
14	255	E	255	02A	検II	VIIIJ16i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)
14	256	E	256	02B	検I	VIIIJ12g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)
14	257	E	257	02B	検I	VIIIJ12h	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)
14	258	E	258	02B	検II	VIIIJ13h	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)
14	259	E	259	02B	検I	VIIIJ12f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)
14	260	E	260	02A	検II	VIIIJ10m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口緑(中津式併行)

表7 縄文土器一覧表(5)

図版番号		登録番号		出土情報			保管箱 番号	器種	法量			残存率 ●/12	備考
遺物図版	番号	種別	番号	調査区	遺構	グリット			口径	底径	器高		
14	261	E	261	02B	検I	VIIIJ14g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	262	E	262	02B	検I	VIIIJ12h	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	263	E	263	02B	検I	VIIIJ12g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	264	E	264	02B	検I	VIIIJ14f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	265	E	265	02A	トレンチ	VIIIJ12l	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	266	E	266	02B	検	VIIIJ12j	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	267	E	267	02B	検I	VIIIJ13f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	268	E	268	02B	検II	VIIIJ11h	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	269	E	269	02A	検I	VIIIJ12l	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	270	E	270	02B	検I	VIIIJ12h	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	271	E	271	02B	検I	VIIIJ11f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	波頭無波状口縁(中津式併行)
15	272	E	272	02B	検I	VIIIJ12g	6	深鉢	(25.0)	-	(3.6)	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	273	E	273	02B	検I	VIIIJ12i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	274	E	274	02B	検I	VIIIJ14i	6	深鉢	(30.8)	-	(4.2)	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	275	E	275	02A	トレンチ	VIIIJ12l	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	276	E	276	02A	検I	VIIIJ12m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	277	E	277	02B	検II	VIIIJ13i	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	278	E	278	02A	検I	VIIIJ12m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	279	E	279	02A	検I	VIIIJ13k	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	280	E	280	02A	検II	VIIIJ17k	6	深鉢	(23.6)	-	(5.8)	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	281	E	281	02B	検I	VIIIJ14g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	282	E	282	02A	検I	VIIIJ12m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	283	E	283	02B	検I	VIIIJ12g	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	284	E	284	02A	検II	VIIIJ10m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	285	E	285	02A	検II	VIIIJ14m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部平口縁(中津式併行)
15	286	E	286	02B	検I	VIIIJ11f	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	胴部(中津式併行)
15	287	E	287	02A	検I	VIIIJ11m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	胴部(中津式併行)
15	288	E	288	02A	検II	VIIIJ12l	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	胴部(中津式併行)
15	289	E	289	02B	検II	VIIIJ15i	6	深鉢	-	-	(6.4)	1/12以下	胴部(中津式併行)
15	290	E	290	02A	検II	VIIIJ12m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	胴部(中津式併行)
15	291	E	291	02A	検II	VIIIJ12k	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	胴部(中津式併行)
15	292	E	292	02A	検I	VIIIJ10m	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	胴部(中津式併行)
15	293	E	293	02B	検II	VIIIJ12j	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	胴部(中津式併行)
16	294	E	294	02A	検II	VIIIJ11l	6	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(古相)
16	295	E	295	02A	検II	VIIIJ12l	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(古相)
16	296	E	296	02A	検I	VIIIJ12l	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(古相)
16	297	E	297	02B	検I	VIIIJ11e	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(古相)
16	298	E	298	02A	検II	VIIIJ11m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(古相)
16	299	E	299	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(古相)
16	300	E	300	02B	検I	VIIIJ11g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(古相)
16	301	E	301	02B	検I	VIIIJ13g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	302	E	302	02B	検I	VIIIJ11f	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	303	E	303	02B	検I	VIIIJ12i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	304	E	304	02A	検I	VIIIJ11m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	305	E	305	02B	検I	VIIIJ12f	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	306	E	306	02B	検I	VIIIJ11g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	307	E	307	02A	検II	VIIIJ12m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	308	E	308	02B	検I	VIIIJ14g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	309	E	309	02A	検II	VIIIJ12m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	310	E	310	02B	トレンチ	VIIIJ16i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	311	E	311	02B	検I上	VIIIJ12i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	312	E	312	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	313	E	313	02A	トレンチ	VIIIJ14l	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	314	E	314	02B	検I	VIIIJ12i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	315	E	315	02B	検I	VIIIJ12i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	316	E	316	02B	検II	VIIIJ12j	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	317	E	317	02B	検I	VIIIJ13g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	口縁部沈線主体(新相)
16	318	E	318	02A	検I	VIIIJ11l	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	平行沈線施紋
16	319	E	319	02A	検I	VIIIJ11l	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	平行沈線施紋
17	320	E	320	02A	検I	VIIIJ11l	7	深鉢	(21.8)	-	(4.5)	1/12以下	広瀬土壇40段階～緑帯紋
17	321	E	321	02B	検II	VIIIJ12i	7	深鉢	(24.0)	-	(4.6)	1/12以下	広瀬土壇40段階～緑帯紋
17	322	E	322	02B	検I	VIIIJ13h	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壇40段階～緑帯紋
17	323	E	323	02B	検I	VIIIJ12j	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壇40段階～緑帯紋
17	324	E	324	02B	検II	VIIIJ11j	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壇40段階～緑帯紋
17	325	E	325	02A	検II	VIIIJ10m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壇40段階～緑帯紋

表8 縄文土器一覧表(6)

図版番号		登録番号		出土情報			保管箱 番号	器種	法量			残存率 ●/12	備考
遺物図版	番号	種別	番号	調査区	遺構	グリット			口径	底径	器高		
17	326	E	326	02A	検II	VIIIJ16k	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階～緑帯紋
17	327	E	327	02A	検II	VIIIJ11i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	広瀬土壙40段階～緑帯紋
17	328	E	328	02A	検I	VIIIJ12i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	329	E	329	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	330	E	330	02A	検I	VIIIJ12i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	331	E	331	02A	検I	VIIIJ14m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	332	E	332	02B	検II	VIIIJ12j	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	333	E	333	02B	検I	VIIIJ12i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	334	E	334	02B	トレンチ	VIIIJ17i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	335	E	335	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	336	E	336	02A	検I	VIIIJ14k	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	337	E	337	02B	検I	VIIIJ13g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	櫛歯状工具による条線
17	338	E	338	02B	トレンチ	VIIIJ16j	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	縄紋施紋
17	339	E	339	02A	検I	VIIIJ11i	7	深鉢	(29.0)	-	(4.5)	1/12以下	縄紋施紋
17	340	E	340	02A	検I	VIIIJ13m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	縄紋施紋
17	341	E	341	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	縄紋施紋
17	342	E	342	02A	検II	VIIIJ11i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	縄紋施紋
17	343	E	343	02A	トレンチ	VIIIJ11i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	縄紋施紋
17	344	E	344	02B	検I	VIIIJ12j	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	縄紋施紋
18	345	E	345	02B	検I	VIIIJ11f	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	縄紋施紋
18	346	E	346	02A	検II	VIIIJ11m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	縄紋施紋
18	347	E	347	02A	検I, 検II	VIIIJ12i	7	深鉢	(19.0)	-	(5.4)	3	縄紋施紋
18	348	E	348	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	無紋・ミガキ
18	349	E	349	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	(15.8)	-	(3.4)	1	無紋・ミガキ
18	350	E	350	02B	検I	VIIIJ11h	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	無紋・ミガキ
18	351	E	351	02A	検II	VIIIJ16k	7	深鉢	(22.0)	-	(4.5)	1/12以下	無紋・ミガキ
18	352	E	352	02A	トレンチ	VIIIJ14i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	無紋・ミガキ
18	353	E	353	02A	検I	VIIIJ11m	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	底部網代
18	354	E	354	02B	検II	VIIIJ13i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	底部網代
18	355	E	355	02A	検II	VIIIJ10m	7	鉢	-	-	-	1/12以下	後期の注口工器? 加曾利Eの鉢形?
18	356	E	356	02A	検I	VIIIJ15i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
18	357	E	357	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	後期
18	358	E	358	02B	検II	VIIIJ12i	7	深鉢	-	(11.0)	(3.0)	1/12以下	後期
18	359	E	359	02B	検II	VIIIJ12g	7	深鉢	-	(10.0)	(2.5)	1/12以下	後期
18	360	E	360	02B	検	VIIIJ14i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	北白川上層式併行
18	361	E	361	02B	検I	VIIIJ14g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	寺津式
18	362	E	362	02B	検I	VIIIJ13f	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	寺津式
18	363	E	363	02B	検II	VIIIJ12i	7	深鉢	(32.8)	-	(8.6)	2	寺津式
18	364	E	364	02B	検I	VIIIJ12h	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	元刈谷式
18	365	E	365	02B	検I	VIIIJ12h	7	深鉢	(18.6)	-	(3.3)	1/12以下	元刈谷式
18	366	E	366	02B	検I	VIIIJ12g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	元刈谷式
18	367	E	367	02B	検I	VIIIJ13g	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	元刈谷式
18	368	E	368	02B	検I上	VIIIJ13i	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	元刈谷式
18	369	E	369	02B	検I	VIIIJ13h	7	深鉢	-	-	-	1/12以下	晩期後葉?

6. 弥生時代以降の土器

(1) 弥生土器

弥生土器は、全体の土器量からすると極端に少ない。遺構として取り上げた資料としては、02B 区 SK84 と SK142 が馬見塚式から檜王式に比定でき、これら以外は直接遺構に伴する資料かは疑わしい。遺物の時期にはピークがある。水田関連遺構の中期前葉岩滑式、中期後葉高蔵式。

(2) 中世土器

中世の土器は、ほぼ限定された時期の資料が得られた。尾張型山茶碗編年第4～5型式の範疇で捉えられる資料群であった。

表9 弥生土器・中世土器一覧表

図版番号 遺物図版	登録番号			出土情報			保管箱 番号	器種	法量			残存率 ●/12	備考
	番号	種別	番号	調査区	遺構	グリット			口径	底径	器高		
19	370	E	370	02B	SK84	VIIIJ14h	8	深鉢変容壺	(21.0)	-	(19.2)	4	檜王
19	371	E	371	02B	SK84.検II	VIIIJ14h	8	深鉢	(30.8)	-	(13.1)	3	檜王
19	372	E	372	02B	SK142B	VIIIJ11g	8	深鉢	-	-	-	1/12以下	馬見塚
19	373	E	373	00	NR01	IX 1 5r	8	甕	-	(7.0)	(3.3)	3	中期?
19	374	E	374	00	NR01	IX 1 2p	8	甕	-	(8.0)	(2.5)	3	高蔵式台付甕
19	375	E	375	00	NR01	IX 1 1r	8	甕	-	-	-	1/12以下	中期
19	376	E	376	00	NR01	IX 1 3p	8	高杯	-	-	(5.5)	3	廻間I～II併行
19	377	E	377	00	SA01	IX 1 3r	8	壺	-	-	-	1/12以下	獅子懸式
19	378	E	378	00	SA01	IX 1 3r	8	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期?
19	379	E	379	00	しからみ	IX 1 3q	8	深鉢	-	-	-	1/12以下	中期?
19	380	E	380	01A	SD02	VIIIJ19c.VIIIJ20d	8	壺	-	-	-	1/12以下	高蔵式
19	381	E	381	01A	検II	XIJ1c	8	深鉢	-	-	-	1/12以下	前期?
19	382	E	382	02B	検II	VIIIJ13h	8	壺	-	(6.0)	(4.6)	6	高蔵式
19	383	E	383	01A2	SK02	VIIIJ19d	8	壺	-	-	-	1/12以下	中期前半?
19	384	E	384	01A2	検II	VIIIJ19e	8	壺	-	-	-	1/12以下	前期?
20	385	E	385	00	NR01上層	IX 1 1r	8	碗	-	(7.5)	(3.2)		尾張型4型式瀬戸産
20	386	E	386	00	SD03	IX 1 5q	8	碗	(16.0)	9.2	6.4		尾張型4型式瀬戸産
20	387	E	387	00	SD03	IX 1 5q	8	鉢	(29.2)	-	(6.4)	1	尾張型4型式瀬戸産
20	388	E	388	00	SD03	IX 1 1r	8	皿	(8.2)	(4.7)	2.2	3	尾張型5型式狼投産
20	389	E	389	00	SD03	IX 1 5q	8	皿	(8.0)	3.8	2.4		尾張型5型式狼投産
20	390	E	390	00	SD03	IX 1 5q	8	碗	-	(6.7)	(2.5)		東濃型5型式
20	391	E	391	01B	SK01	VIII 1 19r	8	碗	-	8.5	(4.2)		尾張型5型式狼投産
20	392	E	392	02B	SD03	VIIIJ12h	8	碗	-	6.4	(1.8)	6	中国陶磁白磁
20	393	E	393	02B	SD03	VIIIJ12h	8	鉢	-	(12.0)	(4.0)	1/12以下	尾張型4型式狼投産
20	394	E	394	02B	SD03	VIIIJ11g	8	碗	-	7.4	(1.3)	11	尾張型4型式瀬戸産
20	395	E	395	02B	SD03	VIIIJ12h	8	碗	18.0	-	(3.8)	1/12以下	尾張型5型式瀬戸産
20	396	E	396	02B	SD03	VIIIJ11e	8	碗	-	7.5	(2.0)	4	尾張型4型式瀬戸産
20	397	E	397	02B	SD03	VIIIJ11i	8	碗	-	8.0	(1.8)	7	尾張型5型式瀬戸産
20	398	E	398	02B	SD03	VIIIJ11g	8	碗	-	(6.8)	(1.9)	5	尾張型5型式狼投産
20	399	E	399	02B	SD03	VIIIJ11g	8	皿	(9.8)	-	(2.1)	3	尾張型5型式瀬戸産
20	400	E	400	02B	SD03	VIIIJ12g	8	皿	(9.0)	-	(2.0)		尾張型5型式瀬戸産
20	401	E	401	02B	SD03	VIIIJ12i	8	皿	-	3.6	(1.8)	8	尾張型5型式瀬戸産
20	402	E	402	02B	SD03	VIIIJ11f	8	碗	-	7.7	(1.5)	10	尾張型5型式瀬戸産
20	403	E	403	02B	SK71	VIIIJ12g	8	皿	(8.2)	-	(2.3)	4	尾張型5型式瀬戸産
20	404	E	404	02B	SK71	VIIIJ12g	8	碗	-	(7.4)	(3.5)		尾張型5型式瀬戸産
20	405	E	405	02B	SK72	VIIIJ11k	8	碗	-	(4.8)	(2.6)		東濃型大洞東
20	406	E	406	02B	SK72	VIIIJ11k	8	碗	-	(14.0)	(2.7)		尾張型5型式瀬戸産

7. 石器類

(1) はじめに

今回の調査で、15 器種以上、200 点近くの石器類が出土した。全章で述べられているように、出土土器では縄文時代中期後半から後期前葉・中葉・晩期前葉・晩期末から弥生時代初頭にかけてのものが見られることから、多くはこれら石器群もその時期に帰属するものと考えられる。土器の出土量との対比から言えば、縄文時代中期後半から後期前葉に属するものが多い、とも想定できよう。

まずは、器種別に概要を報告したのち、使用石材についてなどを後述する。

(2) 器種別の概要

石鏃 (1～18)

石鏃 は 19 点出土し、18 点を図化した。すべて剥離調整による打製石鏃で、無茎・凹基である。凹基の中でも、程度の著しいもの (1・2・4～6・8～13・18) と、若干の凹基 (3・7・16) とに分けられる。また、縁辺の最終調整による「カタチ」に鋸歯縁的效果が見られるものが目立つ。鋸歯縁には、鋸歯的效果のピッチが細かいもの (5・9・12・13、これを「鋸歯縁 1」とする)、同じく大きいもの (4・7・8・14・15、これを「鋸歯縁 2」とする) との両者が見られる。鋸歯縁以外の「平縁」を含めた点数比率は、「平縁」:「鋸歯縁 1」:「鋸歯縁 2」が 9:4:5 であり、「平縁」と「鋸歯縁」の点数比はほぼ同数であるといえる。

使用石材はチャートが半数以上を占め、次いで黒曜石・下呂石・長石である。チャート製では「平縁」・「鋸歯縁 1」・「鋸歯縁 2」のすべてが見られる一方で、黒曜石製では「平縁」しか見られない点は注目される。

有舌尖頭器 (19)

1 点のみの出土で、基部端部が欠損している。胴部には連続する斜行剥離が両面同様に見られる。下呂石製。

石錐 (20～28)

先端部が作り出され、回転運動によると考えられる微細剥離および摩滅が認められるものである。9 点出土し、すべて図化した。形態的には、(a) 頭部と軸部との区分が明瞭で全体的に調整が加えられているもの (24・27・28)、(b) 頭部と軸部との区分が明瞭で細かい調整がそれほど施されていないもの (20～23・25・26)、に分かれ、(a) と (b) の点数比は 3:6 と、(b) が優勢である。頭部と軸部との区別が不明瞭なものは見られない。(b) には、縦長剥片の縁辺のみに調整を加えたのみのものも存在する (20・22・26)。使用石材はチャートが多数を占めるなか、黒曜石・下呂石・安山岩製のものも存在する。

石匙 (29～33)

5 点出土し、すべて図化した。すべて横長の石匙である。さらに 3 形態に分類できる。(a) 摘部が中央部に作られているもので、表面を中心に調整が施されているもの (29・30)。(b) 摘部が中央部に作られているもので、両面に同様な調整が施されているもの (31)。

(c) 摘部が一端側に寄って作られているもの (32・33)。(c) は横長ではあるものの、摘部と反対側が尖り気味に作られており、より縦長石匙に近いものである。32 は裏面の縁辺部に調整が施されているものの剥離を残しており、(c) も (a) 同様に表面を中心とした剥離調整といえよう。(a) も一端が尖り気味に作られているようである。(a) と (c) には長辺および短辺に使用によると考えられる微細剥離が見られる。一方 (b) には、明瞭な微細剥離が見られないようである。使用石材は (a) と (c) がチャートと下呂石、(b) のみホルンフェルスと、この点でも (b) は (a)・(c) に対し異質である。

スクレイパー (34～45)

13 点出土し、12 点図化した。表面を中心に剥離調整が施されているものがほとんどであるが、両面に施されているもの (35) や裏面に調整の施されているもの (36) もある。大きく素材剥片が縦長であるもの (34・37～41) と、横長であるもの (43～45) に分けられ、刃部が側辺に見られるもの (34・37～40・43) と端部に見られるもの (41・44・45) とが存在する。使用石材はチャートが多くを占めるなか、黒曜石・下呂石・凝灰質泥岩・細粒花崗岩・サヌカイトと思われる石材が見られる。

使用痕剥片 (46～59)

15 点出土し、14 点を図化した縦長剥片を使用しているもの (46～55)、横長剥片を使用しているもの (56～59) が見られる。使用による微細剥離が側辺に見られるもの (47～55)、端部に見られるもの (57～59)、側辺・端部に見られるもの (46・56) とが存在する。使用石材はチャートが多くを占めており、下呂石・溶結凝灰岩・泥岩・ホルンフェルスも見られる。

その他剥片石器 (62～88)

剥離調整の見られる剥片で、「不定型」のものを集めた。剥離調整の行われていく途中の、いわゆる「未成品」も含まれているかもしれない。62～67 は石鏃、もしくはその未成品か。75 は石核かもしれない。使用石材には、チャート・下呂石・泥岩・ホルンフェルスが見られる。

楔形石器 (60・61)

2 点出土し、すべて図化した。両端に階段状剥離の見られるものである。2 点とも下呂石製で、61 は円礫である。

石核もしくは調整の見られる剥片 (89～104)

石核の可能性が高いものは 16 点出土し、すべて図化した。使用石材ではチャートのものが多く、下呂石・溶結凝灰岩・黒曜石・石英（水晶）も見られる。チャートの石核からは、比較的大きな剥片が作出されていた傾向があり (90・97～99)、一方黒曜石ではそれほど大きな剥片の作出は見られなかったようである (101・102・104)。

大型剥片類 (105・106)

吉野遺跡では、チャートを主体とする小型の剥片石器以外に、ホルンフェルスなどから

作出される「大型」の剥片が見られた。105・106 とも、一部に礫風化面の残存が見られる。105 は裏面にも若干調整が見られ、一部に使用によると思われる不連続な剥離が見られる。105 は安山岩製、106 はホルンフェルス製。

打製石斧 (107 ~ 109)

3 点出土し、すべて図化した。短冊型 (107) と撥型 (108・109) とが見られる。両面全体に剥離調整のみられるもの (107・108) と、片面には礫風化面が残存しているもの (109) とが見られる。109 は側面観で中央部が膨らむ形状を呈する。凝灰質泥岩やホルンフェルスが使用されている。

磨製石斧 (110 ~ 119)

11 点出土し、10 点を図化した。長さで 2 種類*、断面形状で大きく 2 種類、細かく 4 種類に分類できる。長さでは 8 cm ~ 14 cm の「中型」のもの (114・115) と、8 cm 未満の「小型」のもの (117・119) とに分けられ、それ以外の断片のみのものは「中型」に属すると考えられる。また、断面形状は大きく「側面面取」と「円・楕円形」(119) のものに分けられる。「側面面取」はいわゆる「定角式」のことで、側面が平坦に面取されるもので隅丸方形状になるものを「側面面取 1」(110・111・115)、同様に面取が見られるもので平面がレンズ状に膨らむものを「側面面取 2」(112 ~ 114・116)、また同様に面取が見られるもので長方形形状になるものを「側面面取 3」(117) と、さらに細かく 3 種類に分類できる。119 は研磨調整前の敲打痕が残されている。使用石材は、砂岩・凝灰質砂岩・安山岩・斑レイ岩・凝灰質泥岩・ホルンフェルス・蛇紋岩・ハイアロクラスタイトである。

※ 多くは欠損していたり、もしくは一部のみの残存であるものの、長さなど法量の推定はある程度可能である。

礫石錘 (120 ~ 126)

7 点出土し、すべて図化した。扁平な礫の上下両端に剥離を加えているもので、剥離の加え方として両極打撃を行っていると思われるものも見られる (126)。剥離は礫の長軸両端に行われるものがほとんどであるが、121 は短軸側にも行われている。重量別にみると、10 ~ 30g、40 ~ 70g、90g 以上と 3 群に分かれるようである (図 1)。使用石材は、安山岩・ホルンフェルス・砂岩・濃飛流紋岩・チャートである。

切目石錘 (127 ~ 137)

11 点出土し、すべて図化した。扁平な礫の長軸の上下両端に、擦切りによる切目が施されているものである。擦切り作業を数回行うことによって、一つの切目を作っている。134 は礫の平坦部に研磨による調整が施されており、ほかの石錘とは異質である。重量別にみると、10 ~ 30g、40 ~ 60g、90g 以上と 3 群に分かれるようである (図 1)。石材は、安山岩・ホルンフェルス・砂岩・凝灰質砂岩・凝灰質泥岩・チャート・結晶片岩・緑色片岩・塩基性岩である。

磨石・敲石 (138 ~ 158)

28 点出土し、21 点を図化した。敲打痕が残されているもの (140・145・149・150・

152・154～158)、磨り痕が残されているもの(141・142・146～148)、敲打痕・磨り痕の両者が見られるもの(138・139・143・144・151・153)が見られる。146の全面には赤色顔料の付着が見られた。使用石材には、安山岩・花崗岩・細粒花崗岩・珪岩・凝灰質砂岩・濃飛流紋岩が見られる。

石皿・台石(159～166)

可能性があるものは21点で、その中で8点を図化した。使用により表面が摩滅した大型の礫を中心に集めたものの、中には転石による自然の摩滅もあるかもしれない。石材は花崗岩が多く、細粒花崗岩・濃飛流紋岩も見られる。

その他(167)

円柱状になると考えられる礫石器である。全面研磨調整によってこの形態になったのか、自然礫の状態であったかは、判断できない。端部は凹んでおり、その中央部はさらに凹みが見られる。これは敲打痕による凹みともみえる。凝灰質砂岩製。

(3) 使用石材について

器種ごとに見られた使用石材に関しては、上記で触れた。ここでは、石鏃などを中心とする小型の剥片石器に対応する、使用石材について報告する。

表1は、小型の剥片石器に主として使用される石材に関して、石器・剥片類の総重量とその比率、石器のみに関する総重量とその比率を示したものである^{*}。石器・剥片類の総重量ではチャートが80%以上と、圧倒的数量を占める。その他、下呂石・石英(水晶)・黒曜石^{***}・サヌカイト?・溶結凝灰岩の順である。下呂石^{***}に関しては、「円礫」・「円礫(爪)」と「角礫」の比率が、4.76:1と、「円礫」・「円礫(爪)」が多くを占め、その中でも「円礫(爪)」が特に多い。

また、石器のみでも、チャートの利用量が高いことが窺えられる。下呂石では、「角礫」から作られた石器は特定できなかったものの、礫風化面が残されなかった石器に「角礫」から作られたものが、若干は存在すると考えられる。石器には主として遺跡内で使用されるものと、主として遺跡外に搬出されるものがあり、遺跡の状況からも、この数値から直ちに石材総量に対する製品への使用比率を出すことはできない。しかし、石英(水晶)の使用比率はほかの石材に比べ低いといえよう。

石鏃・石錐・石匙・スクレイパー・使用痕剥片・石核などに関して、使用石材とその重量比、および点数比を示してみた(表2)。石鏃・石錐ではチャートが主体である中、下呂石・黒曜石の利用が見られる状況である。このチャート・下呂石(それも「円礫(爪)」)を主体・黒曜石の石材組み合わせが吉野遺跡における小型の剥片石器の石材利用状況であると推定される。石匙・スクレイパー・使用痕剥片では、若干石材に幅が見られるようになる。その中でもサヌカイト?/に関しては、スクレイパー1点のみであること、そのスクレイパーのカタチそのものからも、ほかの石材群とは時期が異なるなどの可能性も想定される。

(川添和暁)

※ チャートおよび石英(水晶)に関しては、自然礫として遺跡内に存在するものが多い。ここでは原石に関して、剥片の存在などから石器製作、およびそれに伴う可能性の高いもののみを集計の対象としている。

※※ 黒曜石の産地同定分析については、CD-ROM参照。

※※※ 下呂石に関して、今回は大きく3分類、細かく4分類をした。礫風化面の存在するもののみを対象に、風化の状態から河川転石状態の「円礫」(広義)と「角礫」とに分類した。「円礫」は白色気味に風化しているものが多いが、その風化の度合いによって、所々に爪形の非風化部分がまだ残っているものを「円礫(爪)」とし、それ以外のほぼ全面が均一に白色化しているものを「円礫」(狭義)とした。以上の分類が不能なものを「その他」として集計した。

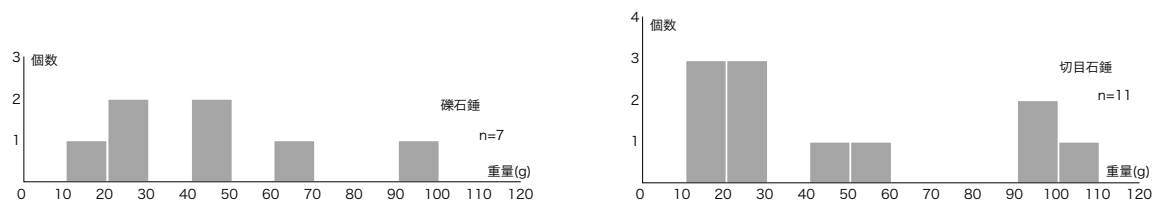


図7 石錘重量別点数比グラフ

表10 小型剥片石器を中心とした石材別総重量比表

石材		石器・剥片・石核総重量計(g)	%	石鏃・石錐・スクレイパー・使用痕剥片・その他剥片石器のみ	%	石材総重量比率(下呂石のみ)	総重量(g)	%
下呂石	円礫	13.0	0.31	9.2	2.00	4.16	312.4	100.00
	円礫(爪)	129.3	3.07	10.7	2.33	41.39		
	角礫	29.9	0.71	0.0	0.00	9.57		
	その他	140.2	3.33	42.3	9.20	44.88		
チャート		3586.2	85.17	346.1	75.29			
サヌカイト?		75.3	1.79	36.7	7.98			
黒曜石		83.6	1.99	4.5	0.98			
石英(水晶)		131.9	3.13	0.9	0.20			
溶結凝灰岩		21.3	0.51	9.3	2.02			
計		4210.7	100.01	459.7	100.00			

表11 各器種の使用石材重量比および点数比表

石鏃					
	重量(g)	重量比(%)	点数	点数比(%)	重量/点数
下呂石	2.6	18.57	2	10.53	1.30
下呂石円礫					
下呂石角礫					
チャート	9.4	67.14	12	63.16	0.78
サヌカイト?					
黒曜石	1.6	11.43	4	21.05	0.40
石英(水晶)					
溶結凝灰岩					
安山岩					
長石	0.4	2.86	1	5.26	0.40
ホルンフェルス					
泥岩					
凝灰質泥岩					
細粒花崗岩					
計	14.0	100.00	19	100.00	

石錐					
	重量(g)	重量比(%)	点数	点数比(%)	重量/点数
下呂石	2.8	11.24	1	11.11	2.80
下呂石円礫					
下呂石角礫					
チャート	19.3	77.51	6	66.67	3.22
サヌカイト?					
黒曜石	0.4	1.61	1	11.11	0.40
石英(水晶)					
溶結凝灰岩					
安山岩	2.4	9.63	1	11.11	2.40
長石					
ホルンフェルス					
泥岩					
凝灰質泥岩					
細粒花崗岩					
計	24.9	99.99	9	100.00	

石匙					
	重量(g)	重量比(%)	点数	点数比(%)	重量/点数
下呂石	8.7	25.07	1	20.00	8.70
下呂石円礫					
下呂石角礫					
チャート	22.4	64.55	3	60.00	7.47
サヌカイト?					
黒曜石					
石英(水晶)					
溶結凝灰岩					
安山岩					
長石					
ホルンフェルス	3.6	10.37	1	20.00	3.60
泥岩					
凝灰質泥岩					
細粒花崗岩					
計	34.7	99.99	5	100.00	

スクレイパー					
	重量(g)	重量比(%)	点数	点数比(%)	重量/点数
下呂石	9.6	4.64	1	10.00	9.60
下呂石円礫					
下呂石角礫					
チャート	79.4	38.38	5	50.00	15.88
サヌカイト?	36.7	17.73	1	10.00	36.70
黒曜石	2.5	1.21	2	20.00	1.25
石英(水晶)	0.9	0.43	1	10.00	0.90
溶結凝灰岩					
安山岩					
長石					
ホルンフェルス					
泥岩					
凝灰質泥岩	46.4	22.43	1	10.00	46.40
細粒花崗岩	31.4	15.18	1	10.00	31.40
計	206.9	100.00	10	100.00	

使用痕剥片					
	重量(g)	重量比(%)	点数	点数比(%)	重量/点数
下呂石	13.7	9.00	2	13.33	6.85
下呂石円礫					
下呂石角礫					
チャート	76.6	50.33	9	60.00	8.51
サヌカイト?					
黒曜石					
石英(水晶)					
溶結凝灰岩					
安山岩					
長石					
ホルンフェルス	51.8	34.03	2	13.33	25.90
泥岩	0.8	0.53	1	6.67	0.80
凝灰質泥岩					
細粒花崗岩	9.3	6.11	1	6.67	9.30
計	152.2	100.00	15	100.01	

石核など					
	重量(g)	重量比(%)	点数	点数比(%)	重量/点数
下呂石	27.5	13.17	4	23.53	6.88
下呂石円礫	7.5	3.59	1	5.88	7.50
下呂石角礫					
チャート	145.5	69.68	7	41.18	20.79
サヌカイト?					
黒曜石	11.0	5.27	3	17.65	3.67
石英(水晶)	5.3	2.54	1	5.88	5.30
溶結凝灰岩	12.0	5.75	1	5.88	12.00
安山岩					
長石					
ホルンフェルス					
泥岩					
凝灰質泥岩					
細粒花崗岩					
計	208.8	100.00	17	100.00	

(4) 吉野遺跡出土石器の使用痕分析

吉野遺跡から出土した石匙、スクレイパーを対象として、金属顕微鏡を用いた高倍率の使用痕分析を実施した。このうち、横形石匙 1 点に使用痕が認められたので報告する。

30 チャート製の横型石匙である。横長の剥片を加工して作られており、刃部の調整は片面のみに施されている。

腹面の刃部縁辺は若干摩滅している。顕微鏡下では、この摩滅した部分に光沢と線状痕が観察される。光沢は摩滅部分と一体化しており、縁辺全体が丸みを帯びている。光沢表面は微細な凸凹からなり、反射は鈍くつや消し状の質感をもつ。光沢面を切るように、刃縁と直交する線状痕がみられる。これらの使用痕は刃部全体に広がるが、特に中央から右側で発達している。また、背面側でも部分的に同様な使用痕が観察されるが、腹面側に比べて発達は弱い。

光沢の分布と線状痕の方向から、石器の腹面を対象物に接触させ、刃部を直交方向に操作したと推定される。観察された光沢はEタイプに分類され、動物の皮や肉、特に乾燥皮を作業対象物とした可能性が高い。
(原田 幹)

参考文献

梶原洋・阿子島香 1981「頁岩製石器の実験使用痕研究ーポリッシュを中心とした機能推定の試みー」『考古学雑誌』67－1：pp.1-36

御堂島正 1988「使用痕と石材ーチャート, サヌカイト, 凝灰岩に形成されるポリッシュー」『考古学雑誌』74－2：pp. 1-28

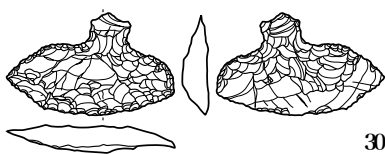


図8 石器実測図 1：2



写真29 20×



写真30 200×

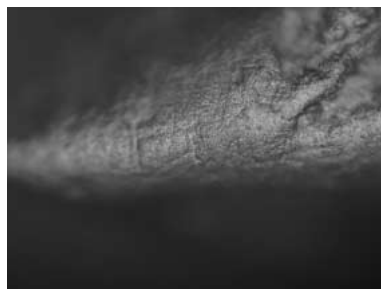


写真31 200×

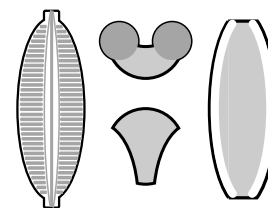


写真32 200×

200×：300μm

3 自然科学分析

愛知県北西部，瀬戸市吉野遺跡における堆積環境



鬼頭 剛（愛知県埋蔵文化財センター）
古澤 明（有限会社古澤地質調査事務所）
森 勇一（愛知県立明和高等学校）
堀木真美子（愛知県埋蔵文化財センター）

はじめに

2002年に実施された調査区において地下層序を観察する機会を得た。その層序解析とテフラ分析，放射性炭素年代測定から新たな知見が得られたので報告する。

1. 試料および分析方法

吉野遺跡の地下層序解析のため，調査区内の3地点で層序断面図の作成と分析試料を採取した。3地点は便宜的に，02A区の調査区東壁トレンチの南側を地点1，北側を地点2，02B区の北端部を地点3とした（図1）。地点2および地点3ではバックホーによりさらに深く掘削した。各地点では層序断面図を作成し，層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。堆積相の記載はMiall(1977, 1978, 1996)の河川コードを用いた。02A区の地点1および地点2ではテフラ分析と放射性炭素年代測定用の試料を，02B区の地点3では放射性炭素年代測定用試料を採取した。

テフラ分析は試料を水洗後，#250- #120メッシュ（1/16-1/8mm）に粒度調整し，火山ガラスおよび重鉱物を抽出した。低粘性の光学レンズ用硬化樹脂接着剤（屈折率1.545程度）で封入し，ベッケラインをみながら形態の記載と屈折率を測定した。屈折率は温度変化型屈折率測定装置MAIOT（古澤，1995）を用いて測定した。測定精度は火山ガラスで ± 0.0001 程度である（古澤，1990）。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。分析方法は125 μm の篩により湿式篩別を行ない，篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後，加速器質量分析計にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後，補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。 ^{14}C 年代値の算出には， ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。 ^{14}C 年代の暦年代への較正にはCALIB4.3を使用した。測定は株式会社パレオ・ラボ（Code No.; PLD）とバリノ・サーヴェイ株式会社を通じて株式会社加速器分析研究所（Code No.; IAAA）に依頼した。

2. 分析結果

吉野遺跡の深掘層序

02A区の地点1では地表面（標高98.86m）から深度0.96mの層序断面を得た。下位層より，標高97.90～98.04mは細礫～中礫層で，基質は極粗粒砂からなる。砂の含有量が多く，全体に基質支持礫層である。標高98.04～98.20mは灰色を呈する細礫ないしは極粗粒砂からなる層である。礫が含まれる割合は下位層よりもさらに少なくなる。標高98.20～98.50mは黒褐色を呈し粗粒砂の混じる粘土層からなる。砂の粒子は粘土層内に分散する。堆積構造は確認できない。標高98.50～98.70mは黒褐色を呈する粘土層からなり，粘土層内には粗粒砂ないし細礫サイ

ズの粒子が分散する。堆積構造は確認できなかった。標高 98.70～98.74m は細礫～中礫層である。基質は粗粒砂～極粗粒砂からなり、基質支持礫層である。

地点 2 では地表面（標高 98.90m）から深度 3.34m までの層序断面を得た。下位層より、標高 95.53～95.56m は中礫層からなる。本層からの湧水がはげしいため、詳細な記載を得られなかった。標高 95.56～95.97m は黒褐色を呈する粘土層であり、層内には砂粒子が分散する。また、本層の固結度は、さらに上位でみられる黒褐色粘土層に比べて固結度が高い。標高 95.97～96.09m 極細粒砂層で、若干のシルト成分を含む。標高 96.09～96.46m は淘汰良好な極粗粒砂層である。標高 96.46～96.56m は黒褐色粘土層であり、層内には砂粒子が分散する。下位でみられる黒褐色粘土層（標高 95.56～95.97m）よりも含まれる砂粒子の量が多めである。標高 96.56～96.84m は淘汰良好な粗粒砂層である。標高 96.84～97.13m は砂質シルト層からなる。標高 97.13～97.32m は極粗粒砂層である。標高 97.32～97.63m は粗粒砂層からなる。層理面に対して垂直にイネ科植物（おそらくヨシ属）の茎部がみられる。標高 97.63～98.40m は黒褐色粘土層である。粘土層内には砂粒子が分散し、ヨシ属の茎部分を多く含む。堆積構造は確認できない。標高 98.40～98.90m 近現代の水田耕作土となる人工的な盛り土である。

02B 区の地点 3 では地表面（標高 98.93m）から深度 2.26m までの層序断面を得た。下位層より、標高 96.67～97.55m は中礫～大礫からなり、基質は極粗粒砂からなる。基質支持礫層である。本礫層からは湧水がはげしく、詳細な情報はわからなかった。標高 97.55～97.59m は灰色を呈する粘土層からなり、炭化物を多く含む。標高 97.59～97.65m は基質が極粗粒砂からなる中礫～大礫層である。標高 97.65～97.73m は灰色を呈する砂質シルト層である。標高 97.73～97.80m は黒褐色を呈する中礫層である。基質は黒褐色を呈する粘土粒子である。標高 97.80～97.96m は灰色のシルト質極粗粒砂層である。標

高 97.96～98.04m は黒褐色を呈する粘土層であり、粘土層内に極粗粒砂サイズの砂粒子が分散する。標高 98.04～98.19m は灰色粘土層で、極粗粒砂サイズの砂粒子が分散する。標高 98.19～98.93m は攪乱層である。

堆積相解析

得られた層序記録をもとに粒度・堆積構造・色調により堆積相解析を行なった。その特徴に基づいて 7 つの堆積相が認められた。

堆積相 Gms：細礫～中礫サイズの礫層からなる。基質は極粗粒砂～粗粒砂を主体とする基質支持礫である。礫のファブリック（空間的配置）は認められなかった。基本的に考古遺物を含まないが、地表面に近く、上位でみられる本堆積相には中世の考古遺物を含む場合がある。

堆積相 SI：砂を主体とするものの、その粒度は極細粒砂から極粗粒砂までさまざまに変化する。基質にシルトを含む場合もあるが、概して基質をほとんど含まない。

堆積相 FI：シルトあるいは粘土を主体とし、砂粒子が分散してみられる。黄褐色～赤褐色を呈する。人を含めた動・植物の生物攪乱（バイオターベーション）により堆積構造は破壊されている。遺物や遺構が包含されるのはこの堆積相からである。

堆積相 Fr：塊状・均質なシルトと粘土からなる。下位の砂層や礫層とは明瞭な境界面をもって接する。遺物や遺構はみられない。

堆積相 Fm：塊状な粘土からなる。塊状・均質で礫や砂の粒子を含まない。植物体由来の葉や茎などの細片を含む。

堆積相 C：黒色～黒褐色を呈する腐植に富んだ粘土からなる。全体に塊状・均質であり、堆積構造はみられない。植物遺体を多く含むが、分解が進み、粘土化している部分もみられる。縄文時代前期～後期前半の考古遺物が含まれるのは本堆積相である。

堆積相 P：粘土やシルトを主体とし、砂粒子を分散して含まれる特徴は堆積相 FI に似るが、より土壌化が

進行している点で FI と分けられる。現在の植物の根跡も多く、縄文時代前～後期の考古遺物は本堆積相よりみつかる。

テフラ分析

02A 区の地点 1 において黒褐色粘土層（標高 98.20～98.70m）の下部から採取した試料 3（標高 98.27m）には、本層よりも下位の試料に比べてやや多くの火山ガラスが含まれる。ガラスの形態はバブルウォールタイプが多く、屈折率は 1.509-1.511 のものが多く含まれる。これらのガラスの特徴は鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰と一致する。下位にもこのタイプのガラスが産出するため、あるいは試料 3 層準にリワーク、集積している可能性も考えられるが、さらに下位の層準（今回の調査対象となった試料 1 よりもさらに下位層）の試料がないため、これ以上の議論は困難である。一般に含有量のピークをもって降灰層準と認定する考えから、試料 3（標高 98.27m）の層準を鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰の降灰層準とした。黒褐色粘土層（標高 98.20～98.70m）の中部から採取した試料 4（標高 98.40m）には、微小斑晶を多く含む低発泡～無発泡火山ガラスの付着する緑色普通角閃石が含まれる。このタイプのガラスの屈折率は 1.496-1.501 である。このガラスは、京都市（2002）に記載されているように Ho とよばれる角閃石含有層準に含まれるガラスの特徴と一致する。角閃石の屈折率は異なるが、本地点の角閃石の多くが後背湿地（花崗岩質）からの混在粒子と考えれば、この層準は鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰と始良 Tn (AT) 火山灰に挟まれ、約 4.7ka に堆積したと考えられている Ho 火山灰に対比できる可能性が高い。緑色普通角閃石の屈折率は 1.673～1.692 とブロードである。試料 5（標高 98.59m）にはやや低発泡でパミスタタイプの火山ガラスが下位に比べて多く含まれる。このタイプの火山ガラスの屈折率は 1.501-1.504 である。少量の斜方輝石も含まれる。斜方輝石の屈折率は 1.703-1.717 で 1.706-1.709 にやや集中する。このガラスの特徴は松河戸火山灰 (MT)（森ほか、1990）あるいは伊豆カワゴ平火山灰 (Kg)（町

田・新井、1992；西田ほか、1993）とよばれるテフラのそれと一致する。松河戸火山灰および伊豆カワゴ平火山灰には斜方輝石が含まれる。この斜方輝石の屈折率は 1.704-1.709 である（町田・新井、1992）。試料 5 に含まれる斜方輝石の屈折率もほぼ同様の値に集中する。以上から、試料 5 の層準は伊豆カワゴ平 (Kg) 火山灰降灰層準と考えられる。

02A 区の地点 2 において、黒褐色粘土層（標高 97.63～98.19m）の最下部にて採取した試料 4（標高 97.65m）よりも下位にはバブルウォールタイプで屈折率が 1.498-1.500 の火山ガラスが微量含まれる。このガラスの特徴は始良 Tn (AT) 火山灰と一致する。試料 4（標高 97.65m）の層準以深は始良 Tn (AT) 火山灰の降灰後に堆積した地層である。また、その堆積期は後述する標高 98.12m の層準試料のテフラの識別から鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰降灰期より古いと考えられる。黒褐色粘土層（標高 97.63～98.19m）の上部から採取した試料 5（標高 98.12m）にはバブルウォールタイプで屈折率が 1.509-1.512 の火山ガラスおよびやや低発泡でパミスタタイプ、屈折率が 1.501-1.502 の火山ガラスが含まれる。このガラスは、鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰および伊豆カワゴ平 (Kg) 火山灰のそれとそれぞれが一致する。試料 5（標高 98.12m）の層準には鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰と伊豆カワゴ平 (Kg) 火山灰が混在していると考えられる。本層準の下位にある試料番号 4 にはまったく鬼界アカホヤ (K-Ah) 起源の火山ガラスが含まれていないことから、試料番号 5 は鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰の降灰以降に堆積した地層と考えられる。

放射性炭素年代測定

吉野遺跡の 3 地点における深掘層序断面で各地点 5 試料、計 15 試料の放射性炭素年代値を得た。02A 区地点 1 では最下位層である細礫～中礫層より採取した土壌（標高 97.97m）が 5890 cal yrs BP (IAAA-30975)、標高 98.20～98.70m の黒褐色粗粒砂混じりの粘土層では標高 98.40m の土壌で 5035, 5015, 4980 cal yrs BP (IAAA-30973)、標高

98.59m の土壌で 3890 cal yrs BP(IAAA-30974) の暦年代較正值を得たが、標高 98.27m の土壌は 1410 cal yrs BP(IAAA-30977) と若い値を示した (表 1)。

02A 区の地点 2 の深掘層序断面では標高 95.53 ～ 95.56m の中礫層から採取した有機質に富む土壌が 9270, 9165, 9160 cal yrs BP(PLD-2577), 標高 97.63 ～ 98.40m の黒褐色粘土層の標高 97.65m から採取した有機質土壌が 9255, 9170, 9145 cal yrs BP(IAAA-2580) を示した。標高 98.12m の有機質土壌は 5660 cal yrs BP(IAAA-2581) であった (表 2)。

02B 区の地点 3 では標高 96.67 ～ 97.55m の中礫～大礫層から採取した植物片 (標高 96.89m) は 2310, 2220, 2210(PLD-2146), 木片 (標高 97.20m) が 2840, 2830, 2785 cal yrs BP(PLD-2145) を示した。上位層では標高 97.96 ～ 98.04m の黒褐色粘土層下底 (標高 97.97m) から採取した有機質土壌が 2355 cal yrs BP(PLD-2144) を示した (表 3)。

3. 考察

堆積相から推定される吉野遺跡の堆積環境

吉野遺跡の 02A 区の地点 1 と地点 2 の結果から、吉野遺跡における北東 - 南西断面図 (図 4) を、02A 区の地点 2 と 02B 区の地点 3 の結果から北西 - 南東断面図 (図 5) をそれぞれ示す。ここではそれらの結果により、調査地点での層序および堆積相解析の結果に基づいて堆積システムの解釈を試みる。

吉野遺跡の調査地点でもっとも粗粒な堆積相は堆積相 Gms である。堆積相 Gms は細礫～中礫サイズの粒子から構成されることから、他の堆積相に比べて、より高エネルギー環境下で堆積したことがわかる。ところで、堆積物が水の力で流下する場合、浮遊 (サスペンション)・掃流 (トラクション)・土石流 (デブリフロー) の 3 つのうちのいずれかの形態をとる。これらのうち、粗粒な粒子が運搬されるときには掃流 (トラクション) と土石流 (デブリフロー) があげられる。このうち、礫よりも砂の量比の多い基質支持礫層の特徴は、砂や礫が混然一体となって移動し、停止する際に特徴的に現われることから、堆積相 Gms は土石流

堆積物である。

堆積相 SI は砂粒子を主体とし、その粒度は極細粒砂から極粗粒砂サイズとさまざまに変化した。砂粒子が掃流により運搬されたことを示し、増水時に運搬されてきた砂粒子が堆積下底面を洗掘しながら堆積したことを示すものである。

堆積相 FI は粘土やシルトの細粒粒子と、砂の粗粒な粒子が混然一体となっており、堆積構造はみられない。動・植物に由来するバイオターベーションや植物の根跡が普遍的にみられることから、堆積後には離水環境を経験していたことがわかる。この特徴から堆積相 FI は突発的な洪水堆積物である。

堆積相 Fr および Fm はシルトや粘土の細粒粒子を主体とした。これらのうち、砂粒子を含む堆積相 FI はシルトや粘土の細粒粒子と砂の粗粒粒子とが渾然一体となって運ばれるときに顕著であり、突発的な洪水堆積物である。堆積相 Fr と Fm はともにシルト・粘土の細粒粒子からなり、静水中でゆっくり堆積したことがわかる。堆積相 Fm は流下する河川からの洪水流や伏流水の浮遊物質に由来するオーバーク堆積物である。また、堆積相 Fr には植物の根跡が認められることから堆積時には植物の繁茂できるような離水環境を経験している。

堆積相 C は黒色を呈する腐植質な粘土層からなる。堆積物の色調は有機炭素量、鉄含有量などが決定要因となるが、黒色化には主に植物遺体といった有機物含有量が多いことに起因する。本堆積相でも未分解の植物遺体を含む。水生植物の繁茂する湧水池において植物遺体が集積し、堆積相 C の腐植質粘土層を堆積させたと思われる。これらの特徴から湿地あるいは湿地の凹地に出現した池や沼といった環境であったと判断される。

堆積相 P は基本的には上記の堆積相 C と同様な特徴をもち、黒色を呈する粘土層を主体とするが、もっとも大きな違いは堆積物中に砂粒子が分散しており、かつ全体に土壌化の程度が著しい。これは堆積物として堆積して後に離水と攪乱を経験したことを意味する。

考古遺物が主に本堆積相から見出されることも矛盾しない。

上記の各堆積相は、下位の礫の粗粒な粒子からなる堆積相 Gms と SI を、細粒粒子から構成される堆積相 C・Fm・Fr・Fl が覆い、その組み合わせが上方へ累重しつつ、さらに堆積相 P で覆われる（図 4・図 5）。このことから調査地点の堆積環境は土石流や突発的な洪水が頻発する環境で、粗粒堆積物が運ばれてこないときには湿地が卓越していたものと思われる。

9000 yrs BP の堆積環境の変遷

調査地点周辺の地質図の検討や、調査区における地下層序の観察、縄文時代前期～後期前半の土器片が確認される考古学的所見から、調査地点地下における完新統堆積物の分布は予想された。しかし、完新統堆積物の層厚や分布状態に関して、調査地点および周辺で行なわれた地球科学的研究は極めて少なく、その詳細は不明であった。しかし、今回の深掘調査の結果から、地表から深度約 3.5m までには少なくとも完新統堆積物が分布することがわかった。その堆積年代について、02A 区の地点 2 では地表面から深度約 3.5m の層序断面が得られ、最下底の標高 95.53m で 9270, 9165, 9160 cal yrs BP(PLD-2577) の数値年代が得られたことから、完新統初期からすでに堆積を開始していたことがわかった。また、同じ地点 2 の地下層序に関して、標高 95.57m で 9705 cal yrs BP(PLD-2578)、標高 96.50m で 9595, 9590, 9575, 9560 cal yrs BP(PLD-2579) と、最下底（標高 95.53m）の数値年代（9270, 9165, 9160 cal yrs BP(PLD-2577)）に比べて古い値を示し、年代の逆転が生じている。これは、堆積相 Gms や SI のように土石流や突発的な洪水堆積物で年代値の逆転が認められることから、増水時に周辺から混入・運搬されてきた有機物を取り込みながら堆積したためであると考えられる。これに関して、標高 97.63～98.40m でみられる黒褐色粘土層の標高 97.65m では 9255, 9170, 9145 cal yrs BP(PLD-2580) を示し、地点 2 最下層で得られた 9270, 9165, 9160 cal yrs BP(PLD-2577) 数値年代

を参考にとすると、その層準間の累積に要した時間は 15 年間であり、たいへん速い埋積であったことがわかる。

以上のように、02A 区地点 2 の結果から、吉野遺跡の調査地点地下には標高 95.53m から標高 97.65m まで 9000 年代を示す堆積物の存在がわかった。このことから、調査地点の約 9000 年前には通常は湿地環境で、増水時には土石流ないしは洪水の頻発する環境であったと推定される。

9000 yrs BP 以降の堆積環境の変遷

02A 区地点 2 において、標高 97.65m で 9000 年代を示して以降、調査地点には堆積相 C にみられるように湿地環境が卓越する。標高 98.12m で 5660 cal yrs BP(PLD-2581) を示した。この年代値について、同一試料を用いて実施したテフラ分析からは鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰と伊豆カワゴ平 (Kg) 火山灰の混在層であることが確かめられ、本層準は鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰の降灰以降に堆積したものとされる事実とも矛盾しない。この標高 98m 前後の約 5000 年前という年代に関して、02A 区地点 1 では標高 97.97m で 5890 cal yrs BP(IAAA-30975)、標高 98.11m で 7230, 7215, 7210 cal yrs BP(IAAA-30976) の数値年代が得られた。地点 1 でも数値年代の逆転が生じてしまっているが、堆積相 Gms の細礫～中礫からなる土石流堆積物と推定され、上流から短時間に土石流が流下してくる際に、周辺の有機物を混入させながら堆積した可能性が指摘でき、年代値は妥当なものであると判断される。

標高 98m 前後で湿地環境を示して以降、調査地点には古土壌の特徴をもつ堆積相 P が卓越する。本堆積相は粘土とシルトの細粒粒子に砂や礫の粗粒粒子が分散する特徴をもつ。また、動物や植物の生物活動によって堆積構造は破壊され、初生堆積構造はまったく確認できない。離水かつ活発な生物活動の証拠が確認できることと相関関係をもって縄文時代後～晩期の土器片が確認される事実も地球科学的な所見と矛盾しない。このような環境では堆積物が調査地点まで運ばれて、定置されて後、攪乱を被るため元来

は年代の推定には有効ではない。例えば、02A 区地点 1 の標高 98.27m で採取した試料のテフラ分析からは鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰に一致する火山ガラスが確認されているものの、同一層準試料で実施した放射性炭素年代では 1410 cal yrs BP (IAAA-30977) と 1000 年代の数値年代であり、明らかに異なる値を示しているが、これは鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰降灰層準に上位から進入・混入した植物の根、あるいは小動物が持ちこんだ有機物が混入したためだと考えられる。それよりも上位層では、例えば、Ho 火山灰層の確認された標高 98.40m では 5035, 5015, 4980 cal yrs BP (IAAA-30973), 伊豆カワゴ平 (Kg) 火山灰の確認された標高 98.59m では 3890 cal yrs BP (IAAA-30974) と火山灰層から予想される年代値と矛盾しない放射性炭素年代値が得られている。

02B 区地点 3 において標高 96.89m で 2310, 2220, 2210 cal yrs BP (PLD-2146), 標高 97.97m で 2335 cal yrs BP (PLD-2144) の数値年代を示した。その間の標高 97.20 で 2840, 2830, 2785 cal yrs BP (PLD-2145), 標高 97.56m で 2710, 2625, 2620, 2555, 2550 cal yrs BP (PLD-2142), 標高 97.74m で 2710, 2630, 2615, 2585, 2540, 2530, 2495 cal yrs BP (PLD-2143) の年代値は明らかに上下層に比べて逆転を生じている。これは堆積相 Gms の土石流堆積物が上流から流下する際に取り込んできた混入有機物に起因するものである。いずれにせよ、堆積相 Gms の卓越する 02B 区の地点 3 において、年代値の得られている標高 96.89m と標高 97.97m の層準間の数値年代の差がたいへん小さい事実は、地点 3 を極短時間に土石流が流下した事実を示すものである。02B 区地点 3 の堆積相 Gms 堆積前に本地点に人為活動の証拠があったかもしれないが、約 2300 年前の当地を襲った土石流により削剥されてしまっている可能性もある。

ところで、発掘調査の行なわれた愛知県瀬戸市東部は、濃尾平野北東部に位置し、平野を取り囲む山地・丘陵地で占められている。この山地・丘陵地部は

木曽山脈の南西端にあたり、県境には三国山（標高 701m）、猿投山（標高 629m）がある。この山地の両側は活断層で境され、調査地点の東方約 2.2km には北東 - 南西方向を示し、花崗岩類の中を通る猿投山北断層がある。瀬戸市域全域では主に断層の南東側が地形的に高く、南東側は隆起帯にあたる。三国山 - 猿投山と山麓部は深層風化および断層をよく受けた花崗岩類よりなり、比高あるいは斜面勾配も比較的大きく、集中豪雨時の崩壊・土石流の危険が大きい地域である。また、調査地点の東には菱野丘陵（標高 100 ～ 180m）が、南には幡山丘陵（標高 80 ～ 160m）がひろがり（水野ほか, 1986）、調査地点はそれらの丘陵地に挟まれた谷底平野にあたっている。以上のことから、調査地点は後背地から供給されてきた堆積物がはじめて定置される場所であり、そこで観察される堆積相が土石流の特徴を示すこととも矛盾しない。先の幡山丘陵の麓には大六遺跡（佐野, 2001；齋藤, 2002a）や縄文時代後期～晩期の大坪遺跡（齋藤, 2002b）などが知られている。今回の発掘調査により、丘陵の麓のみならず、丘陵地に囲まれた谷底平野でも人為活動の証拠が提示された意義は大きい。

謝辞

本論を作成するにあたり、考古学的情報について愛知県埋蔵文化財センター調査研究員の永井宏幸氏・鶴飼雅弘氏にご教示いただいた。放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ東海支店の山形秀樹氏、パリノ・サーヴェイ株式会社の辻本裕也氏にお世話になった。図面のトレースでは愛知県埋蔵文化財センター研究補助員の阿部佐保子氏にお手伝いいただいた。図面の整理では愛知県埋蔵文化財センター元研究補助員の尾崎和美氏・上田恭子氏、試料の整理・保管では元整理補助員の服部恵子氏・宇佐美美幸氏・山口きみ代氏、整理補助員の服部久美子氏・村上志穂子氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

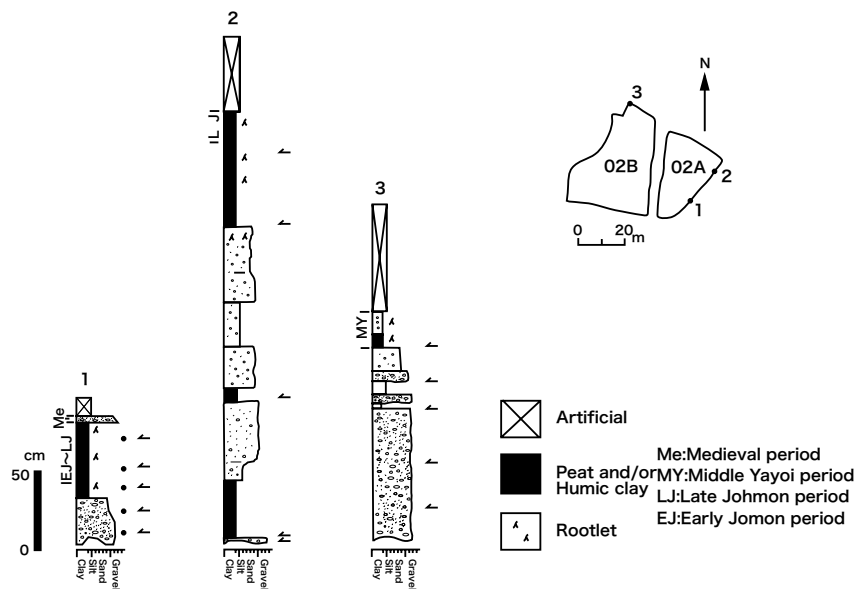


図9 深掘調査地点の位置と各地点の地質柱状図

柱状図右側の黒丸はテフラ分析、矢印は放射性炭素年代測定を試料採取層準を示す。

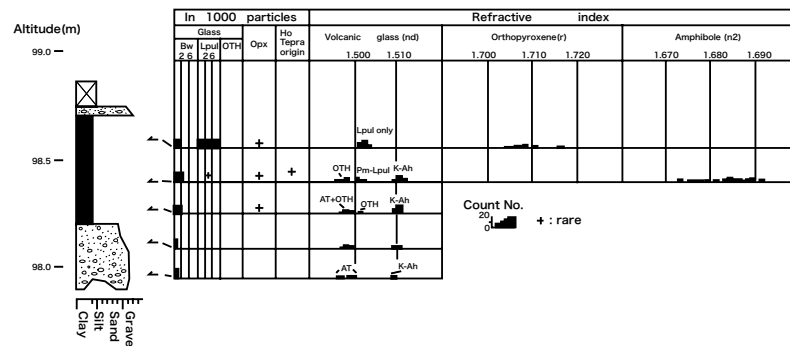


図10 吉野遺跡 02A 区地点 1 のテフラ分析結果

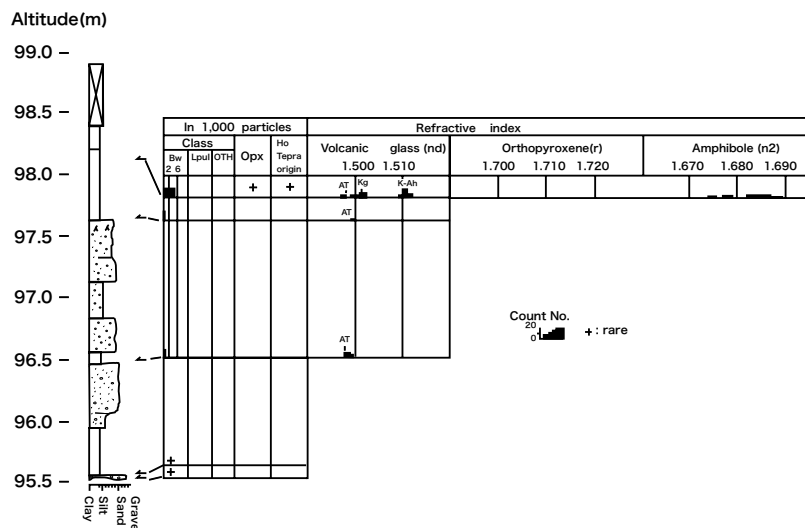


図11 吉野遺跡 02A 区地点 2 のテフラ分析結果

表 12 吉野遺跡 02A 区地点 1 の放射性炭素年代測定結果

吉野02A P-1							
標高 (m)	堆積物	試料の種類	14C年代 (yrs BP)	δ 13CPDB (‰)	暦年代較正值 (1 σ , cal yrs BP)	1 σ 暦年代範囲 (cal yrs BP)	Code No.
97.97	細～中礫層	土壌	5100 $\pm$ 50	-21.0	5890	5828-5753(66.5%)	IAAA-30975(AMS)
98.11	細礫～極粗粒砂層	土壌	6270 $\pm$ 50	-26.3	7230,7215,7210	7259-7160(87.6%)	IAAA-30976(AMS)
98.27	黒褐色粗粒砂混じり粘土層	土壌	1540 $\pm$ 40	-26.1	1410	1486-1432(45.0%)	IAAA-30977(AMS)
98.40	黒褐色粗粒砂混じり粘土層	土壌	4430 $\pm$ 50	-23.2	5035,5015,4980	5051-4957(57.4%)	IAAA-30973(AMS)
98.59	黒褐色粗粒砂～細礫混じり粘土層	土壌	3600 $\pm$ 40	-24.8	3890	3929-3837(85.2%)	IAAA-30974(AMS)

表 13 吉野遺跡 02A 区地点 2 の放射性炭素年代測定結果

吉野02A P-2						
標高 (m)	堆積物	試料の種類	14C年代 (yrs BP)	δ 13CPDB (‰)	暦年代較正值 (1 σ , cal yrs BP)	1 σ 暦年代範囲 (cal yrs BP)
95.53	中礫層	有機質土壌	8265 $\pm$ 35	-25.9	9270,9165,9160	9300-9245(35.4%)
95.57	黒褐色粘土層	有機質土壌	8755 $\pm$ 35	-25.1	9705	9795-9680(65.3%)
96.50	黒褐色粘土層	有機質土壌	8670 $\pm$ 35	-26.5	9595,9590,9575,9560	9630-9550(78.5%)
97.65	黒褐色粘土層	有機質土壌	8240 $\pm$ 35	-23.0	9255,9170,9145	9180-9130(37.7%)
98.12	黒褐色粘土層	有機質土壌	4955 $\pm$ 30	-26.0	5660	5720-5650(100%)

表 14 吉野遺跡 02B 区地点 3 の放射性炭素年代測定結果

吉野02B 030203						
標高 (m)	堆積物	試料の種類	14C年代 (yrs BP)	δ 13CPDB (‰)	暦年代較正值 (1 σ , cal yrs BP)	1 σ 暦年代範囲 (cal yrs BP)
96.89	中礫～大礫層	植物片	2245 $\pm$ 30	-28.0	2310,2220,2210	2240-2180(63.4%)
97.20	中礫～大礫層	木片	2730 $\pm$ 30	-28.2	2840,2830,2785	2845-2785(100%)
97.56	灰色粘土層	炭化物	2510 $\pm$ 30	-25.4	2710,2625,2620,2555,2550	2595-2490(71.7%)
97.74	黒褐色中礫層	有機質土壌	2490 $\pm$ 30	-19.8	2710,2630,2615,2585,2540,2530,2495	2620-2485(77.3%)
97.97	黒褐色極粗粒砂混じり粘土層		2285 $\pm$ 30	-21.6	2335	2345-2305(73.4%)

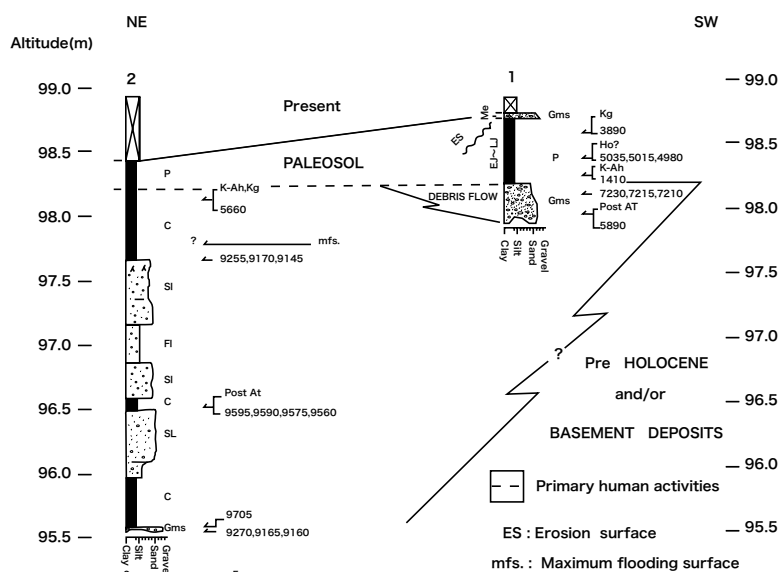


図 12 吉野遺跡における北東 - 南西層序断面図

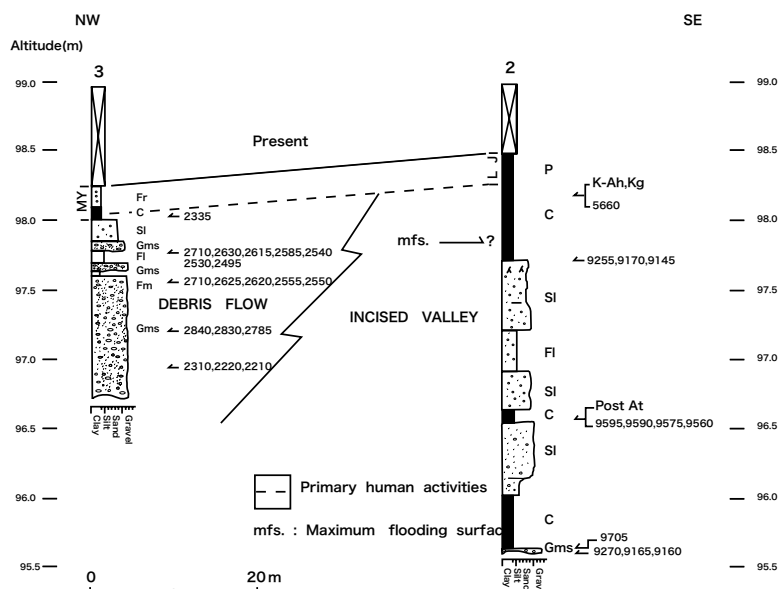


図 13 吉野遺跡における北西 - 南東層序断面図

文献

古澤 明, 1990, 濃尾平野西南部地下における東海層群および海部累層の火山灰層とその対比, 地質雑, 96, 883-901.

古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析, 地質雑, 101, 123-133.

京都市, 2002, 平成 13 年度地震関係基礎調査交付金 宇治川断層に関する調査成果報告書, 京都市消防局, 17p.

町田 洋・新井房夫, 1992, 火山灰アトラス「日本列島とその周辺」, 東京大学出版会, 276p.

Miall, A. D., 1977, A review of the braided-river depositional environment, Earth-Science Rev., 13, 1-62.

Miall, A. D., ed., 1978, Fluvial sedimentology, Canadian Society of Petroleum Geologists, Memoir 5, 859p.

Miall, A. D., 1996, The geology of fluvial deposits, Springer-Verlag, New York, 582p.

森 勇一・伊藤隆彦・宮田英嗣, 1990, 愛知県町田・松河戸遺跡から発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する火山灰層について, 第四紀研究, 29, 17-23.

西田四朗・高橋 豊・竹村恵二・石田志朗・前田保夫, 1993, 近畿地方へ東から飛んできた縄文後・晩期火山灰層, 第四紀研究, 32, 129-138.

齋藤基生, 2002a, 愛知県史編さん委員会編 愛知県史 資料編 1 考古 1 「旧石器・縄文」, 愛知県, 112-113.

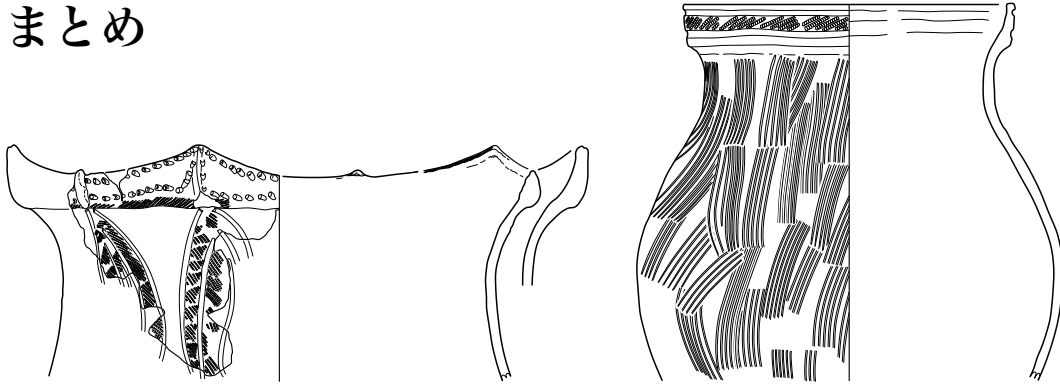
齋藤基生, 2002b, 愛知県史編さん委員会編 愛知県史 資料編 1 考古 1 「旧石器・縄文」, 愛知県, 114-115.

佐野 元, 2001, 東海地方西部縄文晩期縁帯文土器様式の様相 瀬戸市大六遺跡出土晩期前葉遺物を中心として, 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第 9 輯, 瀬戸市埋蔵文化財センター, 1-82.



写真 33 吉野遺跡を南上空から望む

4 まとめ



吉野遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。以下に、今回最も注目される縄文時代を中心に、調査の成果をまとめたい。

(1) 吉野遺跡の立地する沖積地は、南東方向の2つ丘陵地に挟まれた谷底平野である。吉野遺跡はこの丘陵地に挟まれた細長い平野が扇状地状に大きく広がり、北西に流れる矢田川へ向かって徐々に低くなる手前に位置する。縄文時代には後背湿地から埋積谷へと続く東側を除く3方向は自然流路に囲まれた1,500 m²の微高地が形成されており、ここに中期後半から後期前葉を中心とする遺構群が展開する。

(2) 縄文時代後期から晩期を中心とする包含層から火山灰層が3層確認された。残念ながら、すべて沖積地の堆積であるためプライマリーな層として確定できない。未確定ながら4,000年前の数値を得ている火山灰が確認でき、今後の類例によっては鍵層をなすものと期待できる。

吉野遺跡で確認した火山灰は、下位から鬼界アカホヤ(K-Ah)火山灰、Ho火山灰、松河戸(MT)火山灰である。このうち、Ho火山灰が今後注目できる火山灰である。

(3) 縄文時代後期初頭前後として注目できる遺構としては、02B区SB02・SB03があげられる。いずれも、竪穴住居と想定できる。一方で否定的な条件もある。SB02は柱穴と考えられる痕跡がない。SB03は炉がない。いずれにしてもほぼ同時期の住居が2棟しか確認できない。前記したように、独立した微高地であるのでひとつの居住域としては抽出可能である。

(4) 前記の竪穴住居のほか、大型石器類(石皿・台石)を埋設した遺構が7ヶ所確認できた。なかでも02A区SK59は微高地の縁辺に位置し、20 kg超の大型石器類が3個体埋設されていた。

(5) 出土した土器は、縄文時代後期初頭から前葉に比定できる資料群が注目できる。なかでも02B区SB02資料はまとまりがあり、知多地域の林ノ峰G層に比定できる。そのほか、中津式に比定できる資料群が包含層資料の大半を占める。概ね岩倉市権現山遺跡(愛知県埋セ2003)と同時期あるいはやや先行する時期の資料群であり、瀬戸地域のみならず内陸地域の良好な資料群として今後比較検討の材料となろう。

(6) 石器類については、出土土器の総体からおおよそ縄文時代後期初頭から前葉にほぼ相当するであろう。ただし、19のように有舌尖頭器が含まれ確定はできない。その

なかでも注目できる石器類としては、磨製石斧と石錘があげられる。磨製石斧はこの時期に相当量認められる器種である。吉野遺跡では打製石斧 3 点に対して磨製石斧 11 点あり、打製石斧より卓越することはこの時期の特徴である。石錘は切目石錘 11 点、礫石錘 7 点ある。いずれも大 (90 g 以上)・中 (50 g 前後)・小 (20 g 前後) にまとまりがある。

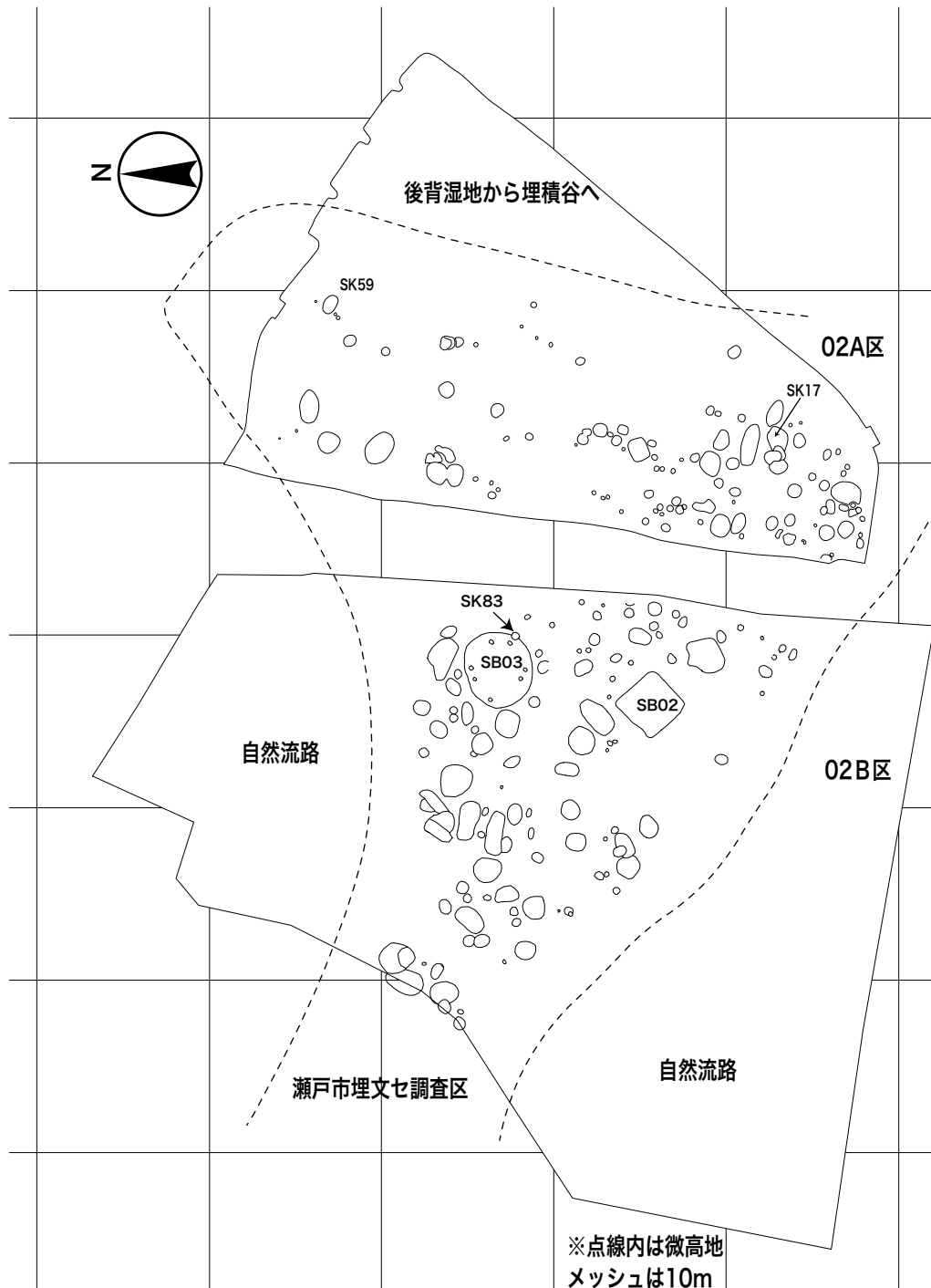
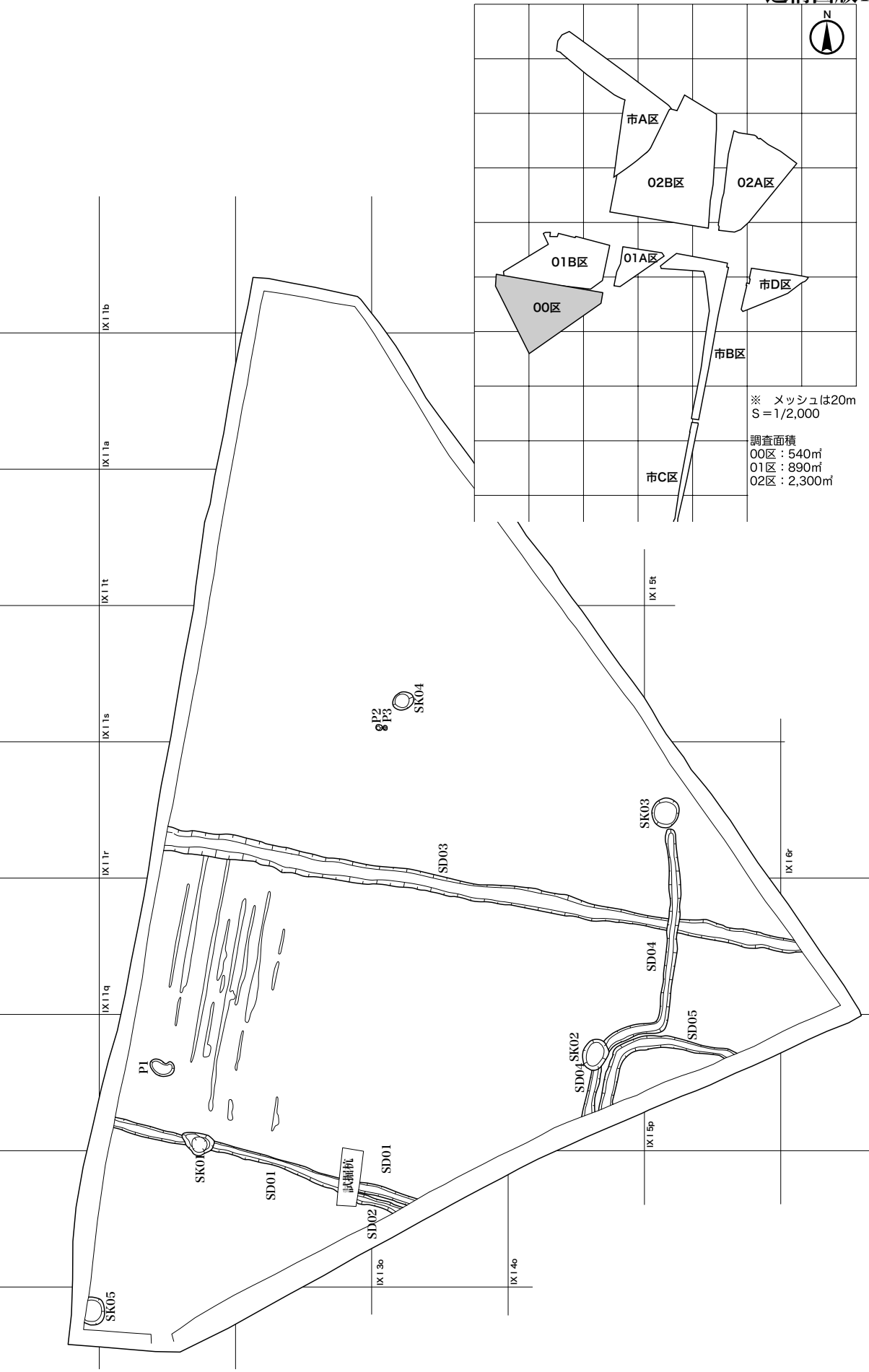
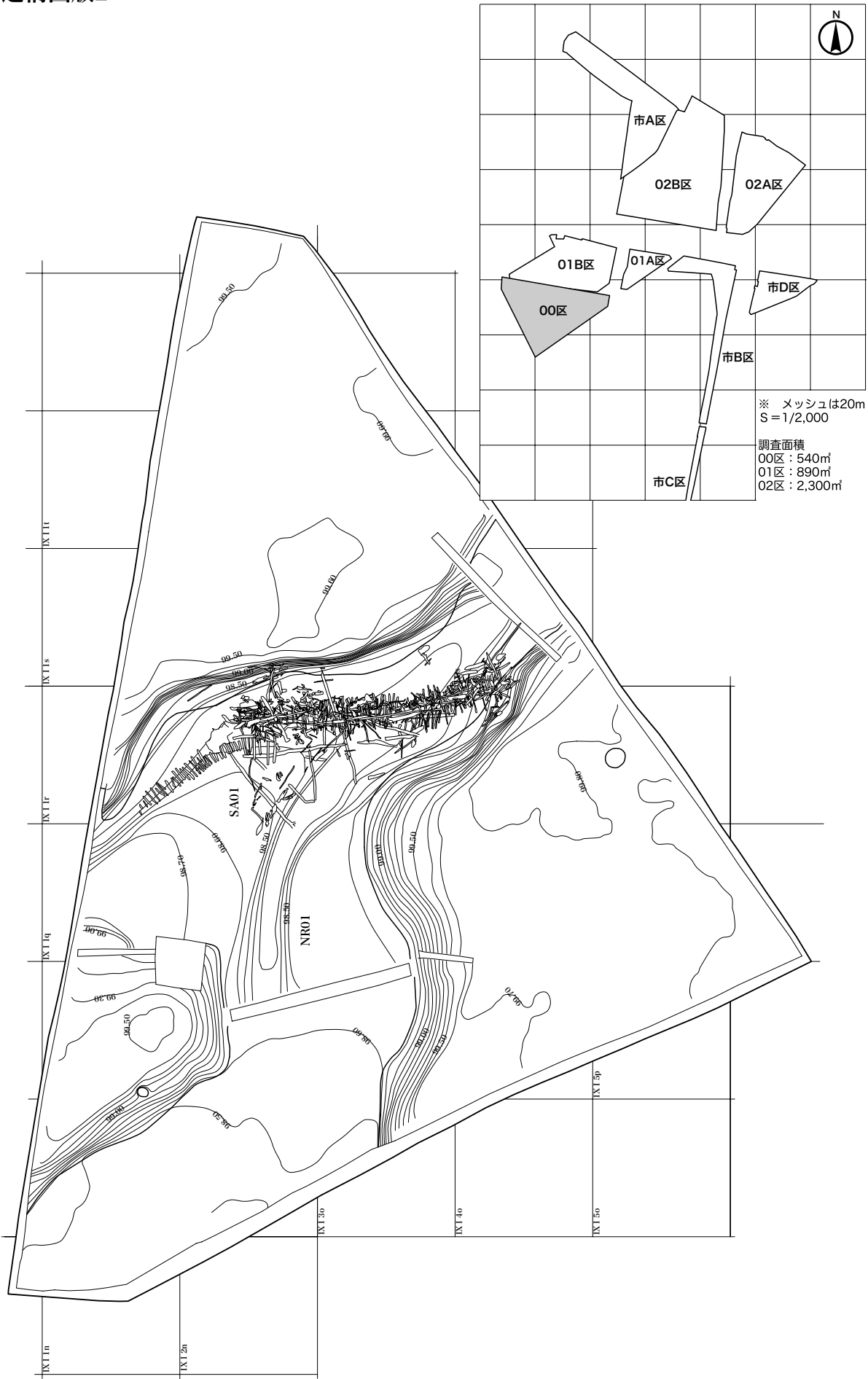


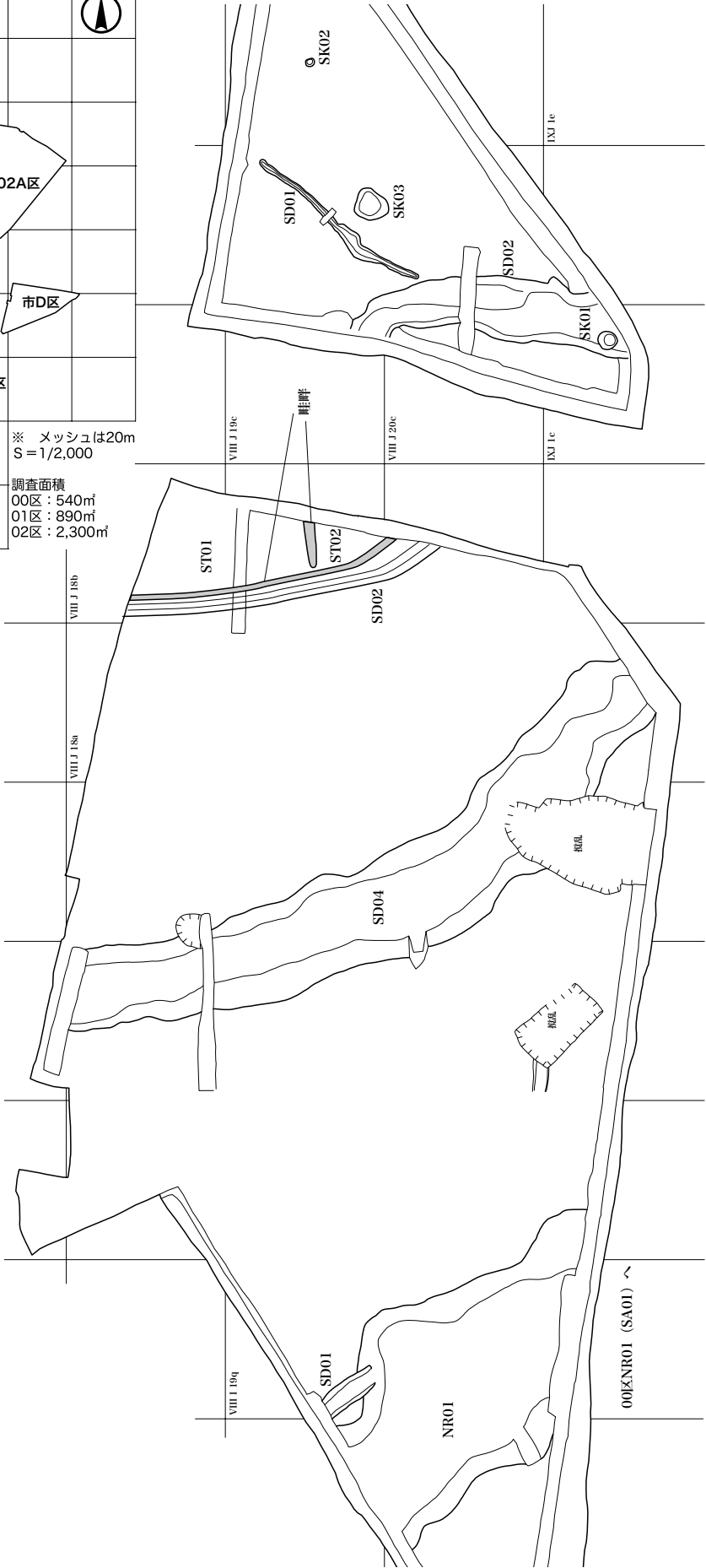
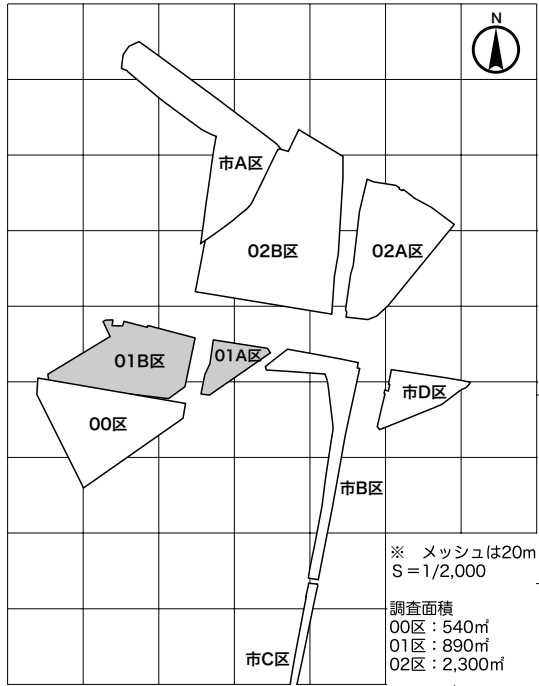
図 14 縄文時代の主要遺構と微高地の推定範囲 (1:400)

報告書抄録

ふりがな	よしのいせき							
書名	吉野遺跡							
副書名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	第125集							
編著者名	永井宏幸(編著)、小澤一弘、川添和暁、原田幹							
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24 TEL 0567-67-4161							
発行年月日	西暦2004年8月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
よしのいせき 吉野遺跡	せとし 瀬戸市 よしのちょう 吉野町・ やとちょう 屋戸町	23204	3918	35度 11分 43秒	137度 6分 29秒	20010126 ゝ 20010330 20011105 ゝ 20011217 20021002 ゝ 20030206	540m ² 890m ² 2,300m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
吉野遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 中世	竪穴住居 土坑 水田? 土坑 自然流路 柵状遺構 溝 土坑	縄文土器 縄文石器 弥生土器 土師器 灰釉系陶器		縄文中期後葉と 後期前葉の土器群 古墳時代前期の 柵状遺構		

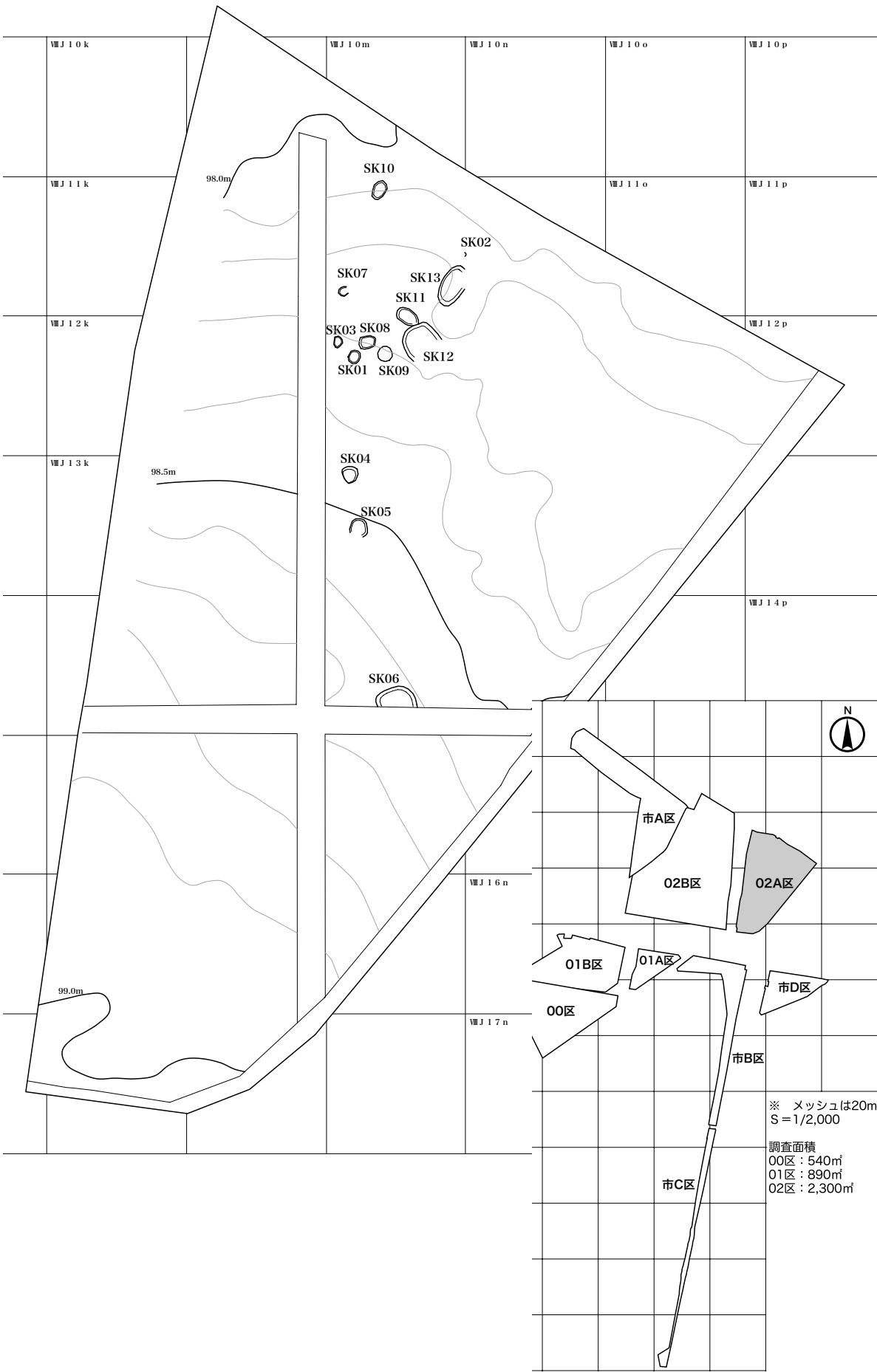


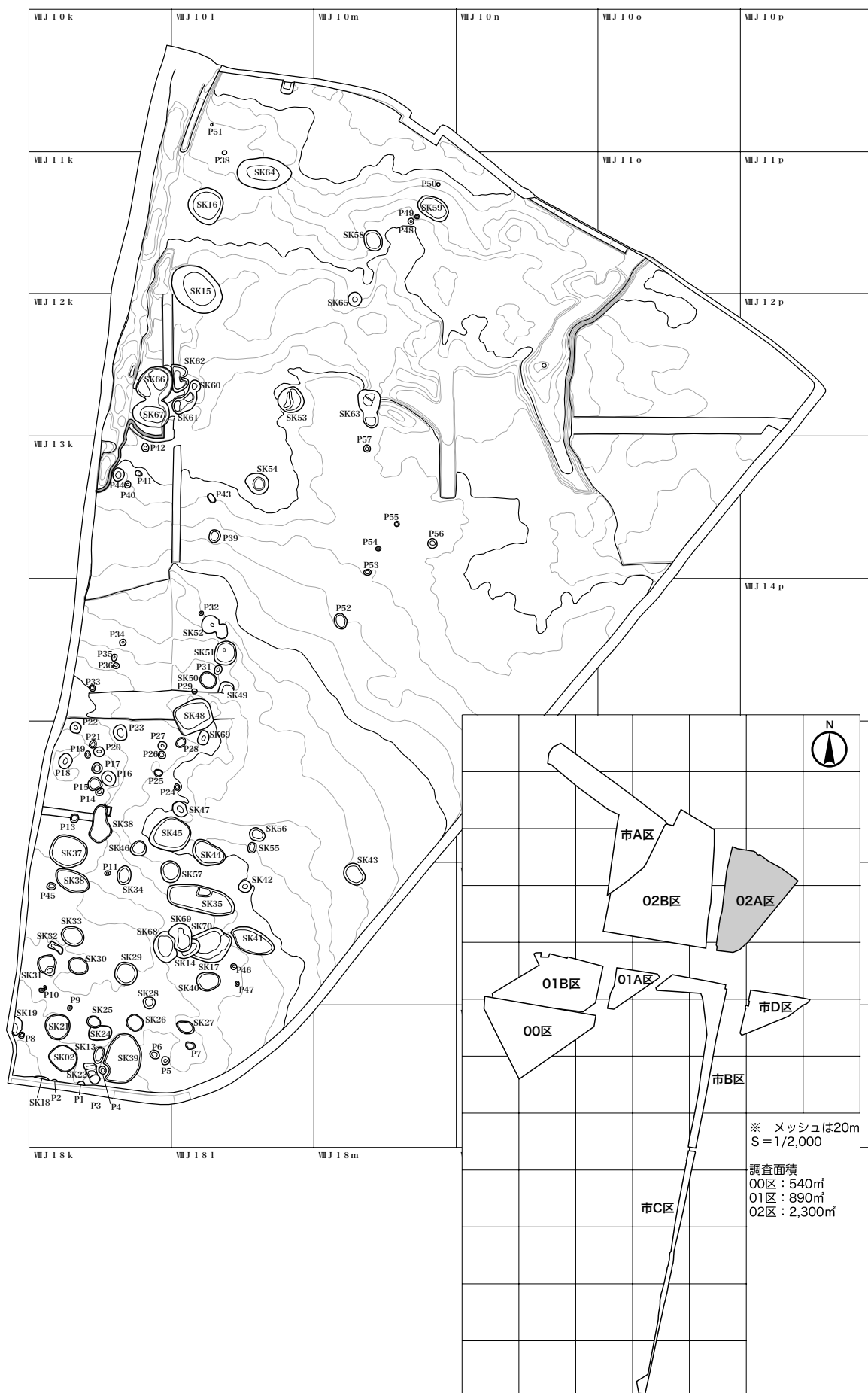


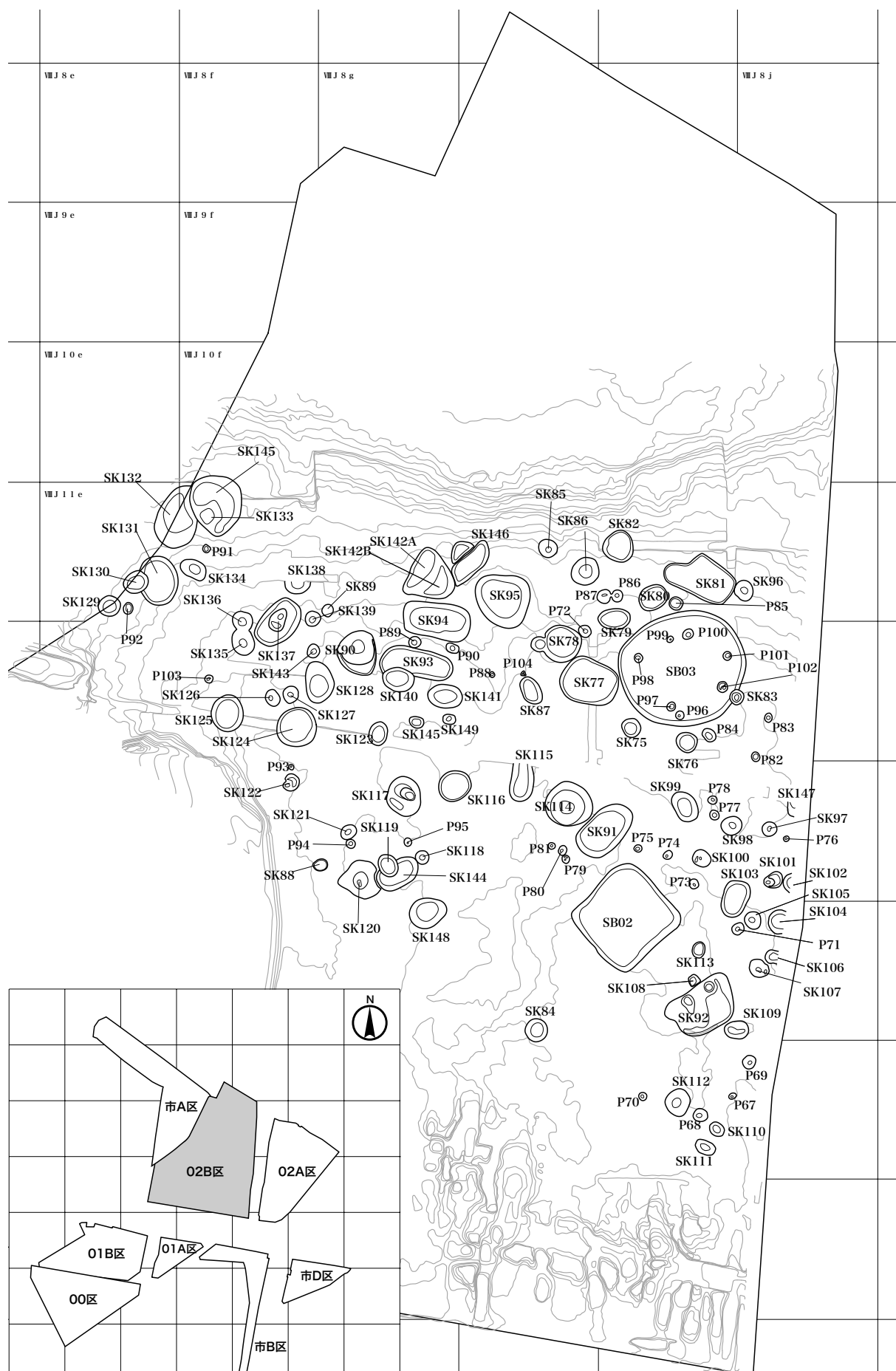


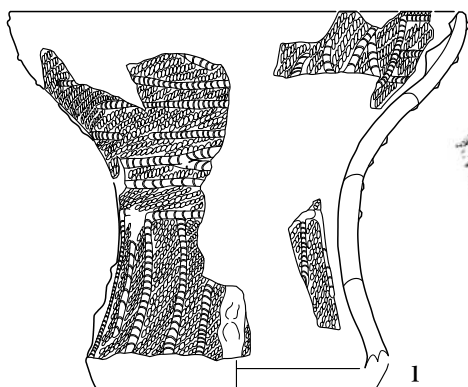




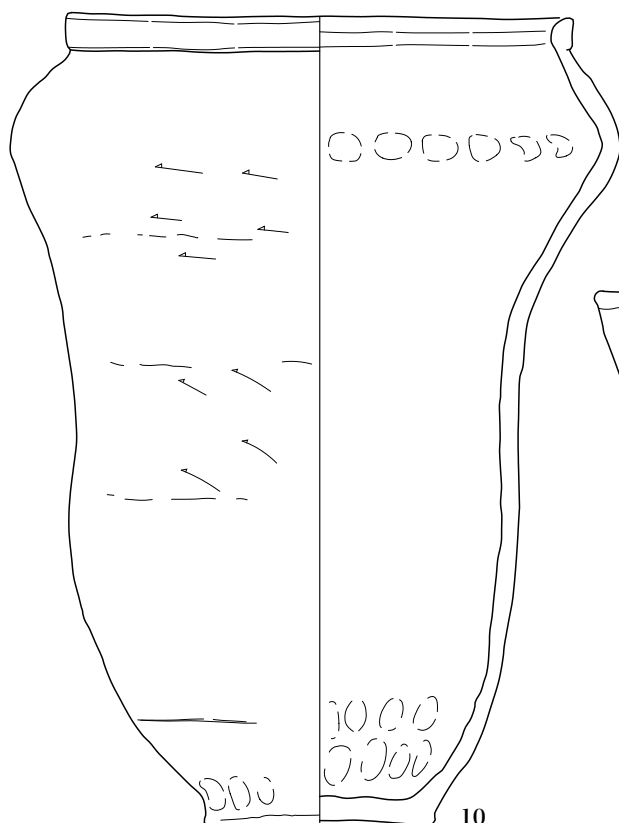




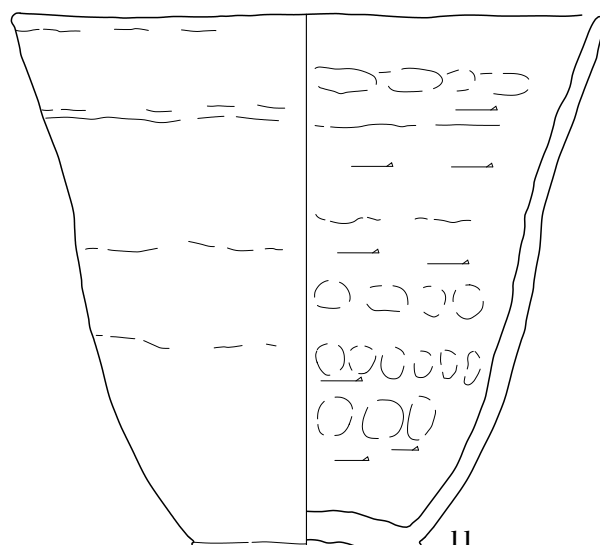




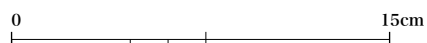
1 ~ 9 : 02 A区 SK45



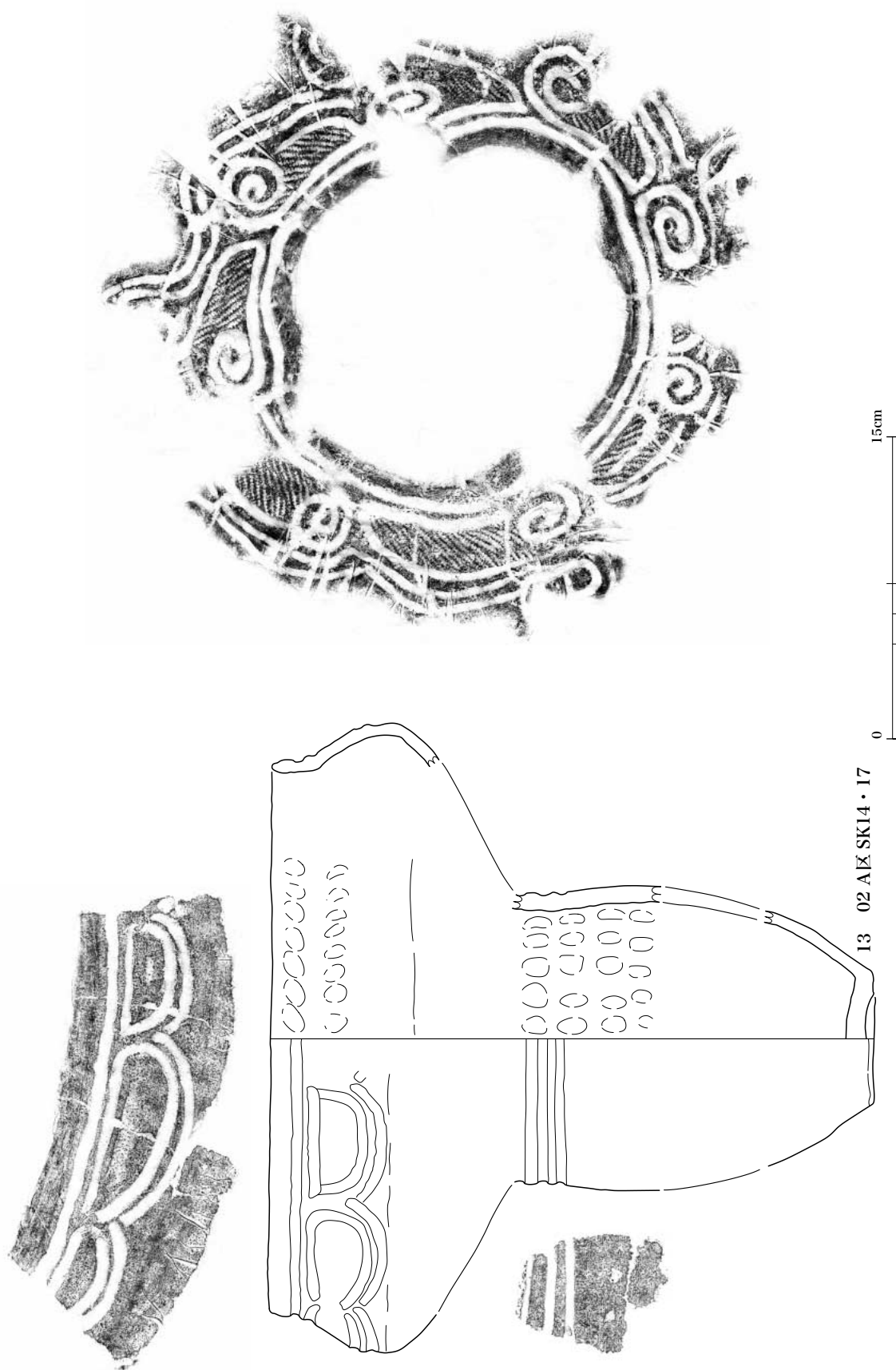
10
02 A区 SK70



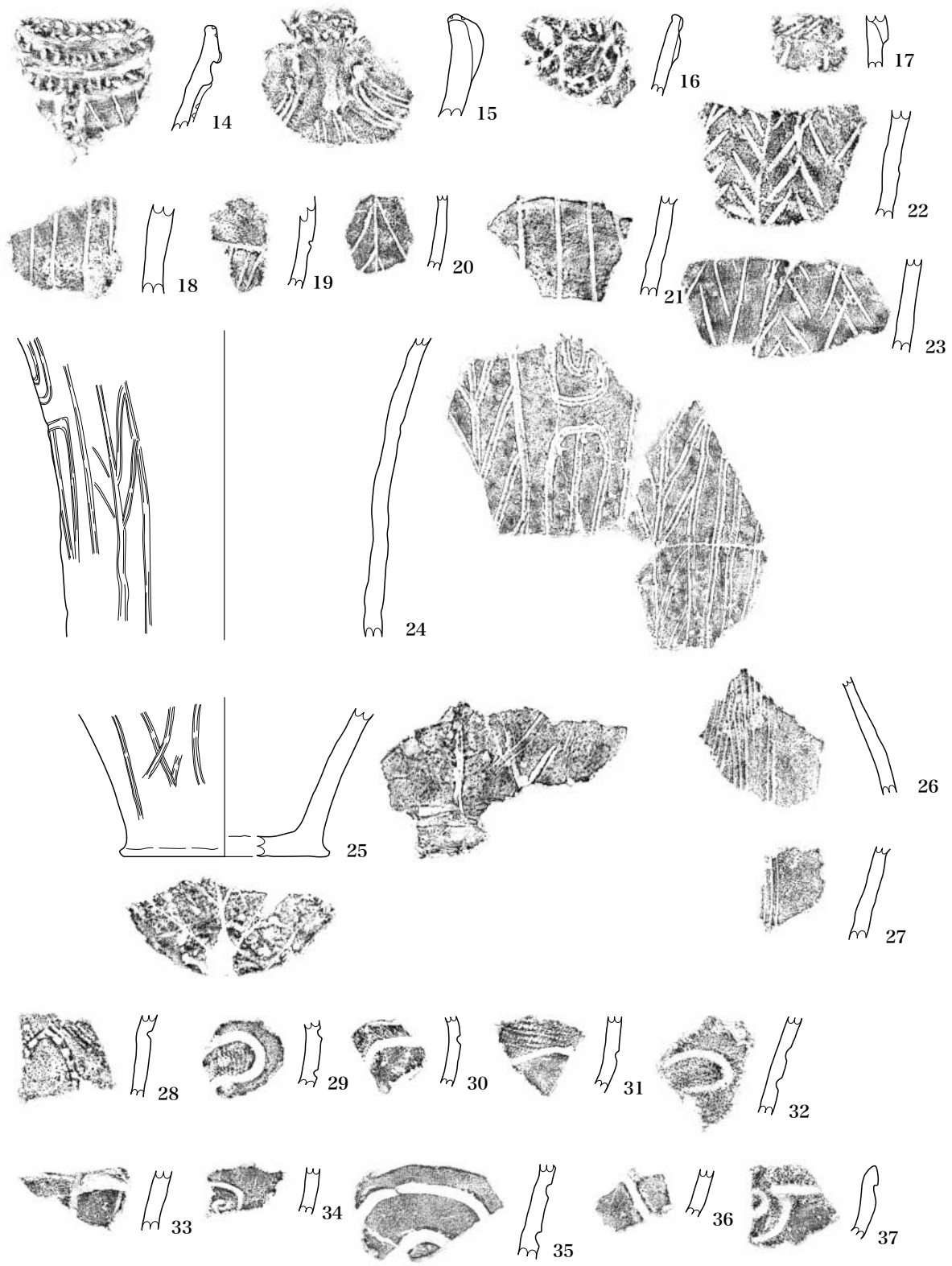
11
02 A区 SK14・17



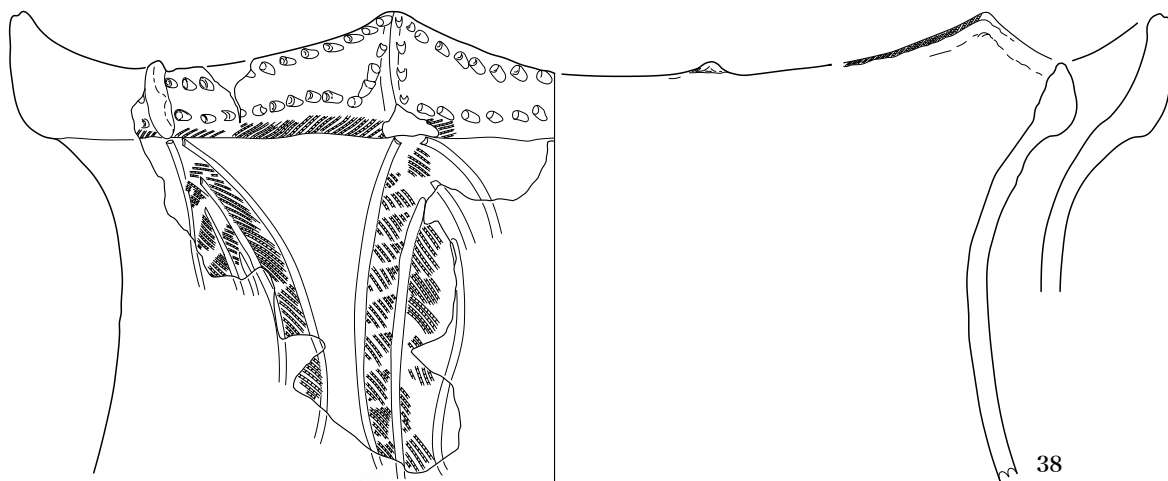




遺物図版4



14 ~ 37 : 02 B区 SB02



38



39



40



41



42



43



44



45



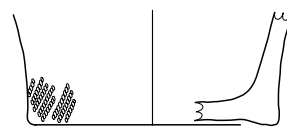
46



47



48

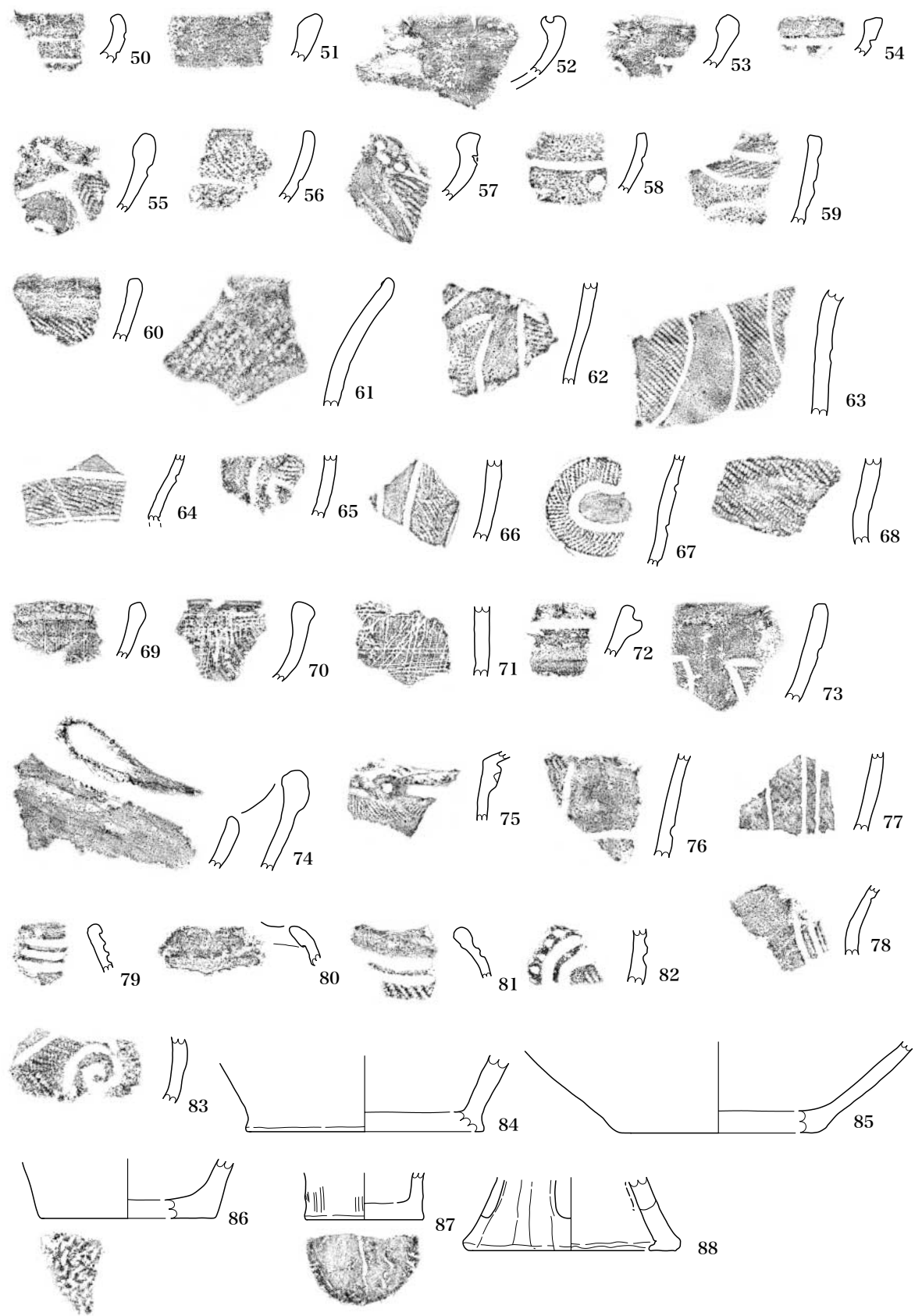


49



38 ~ 49 : 02 B区 SB02

遺物図版6

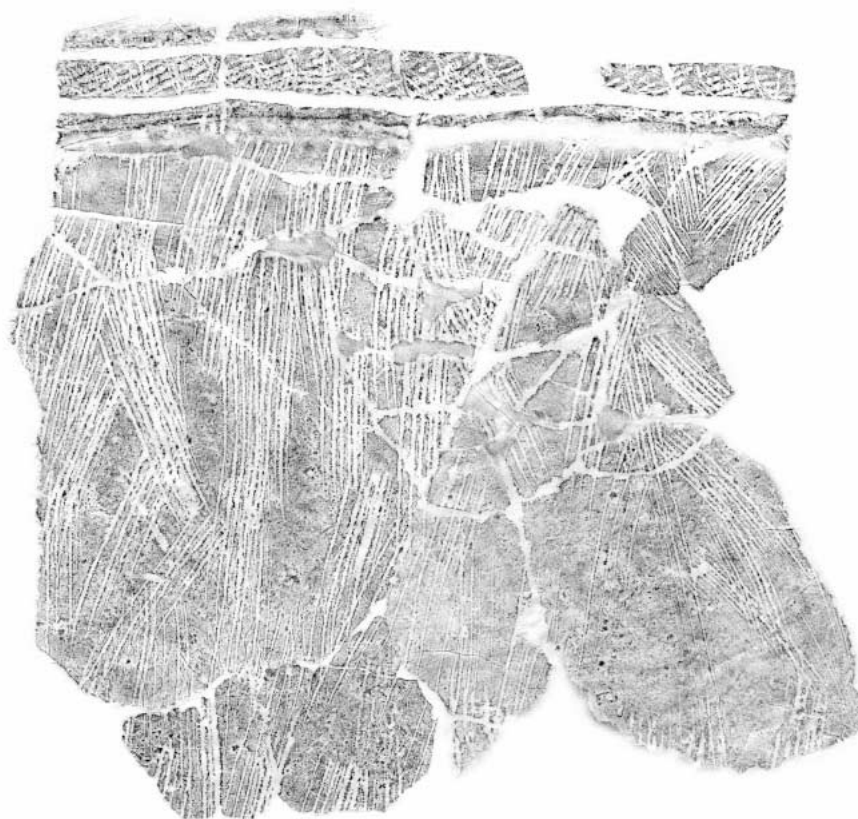


50 ~ 88 : 02 B区 SB03

0 15cm



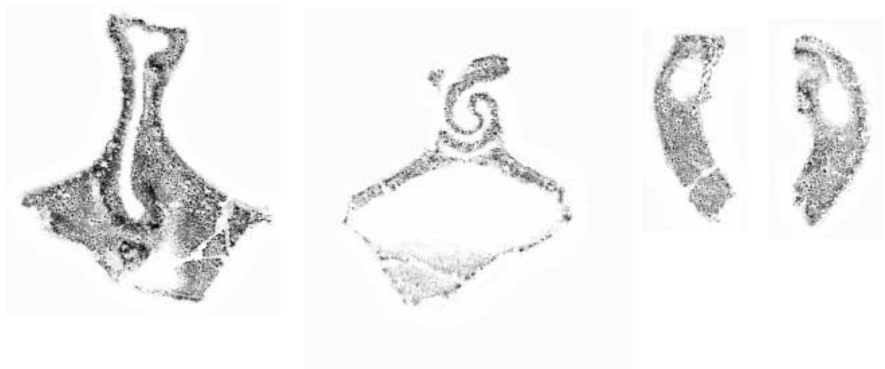
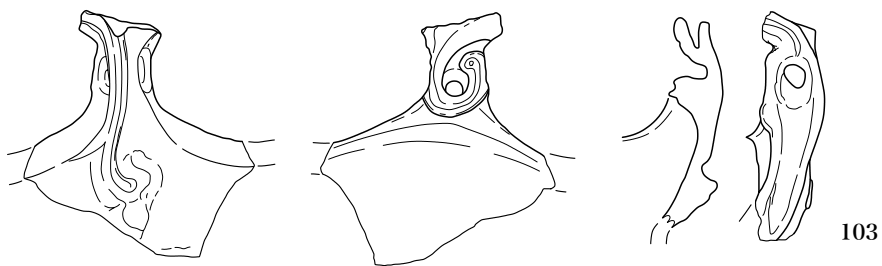
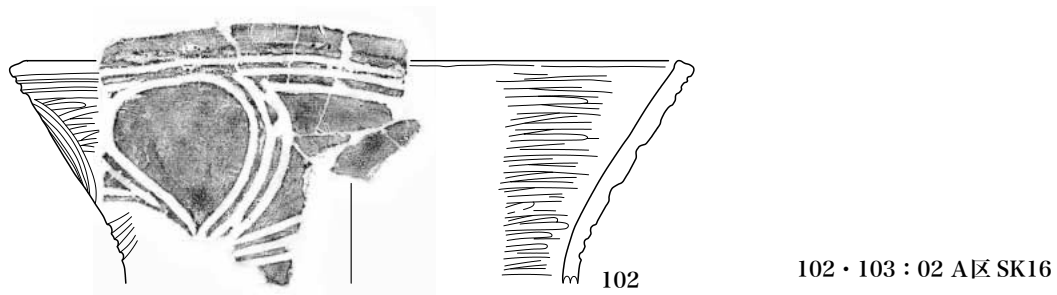
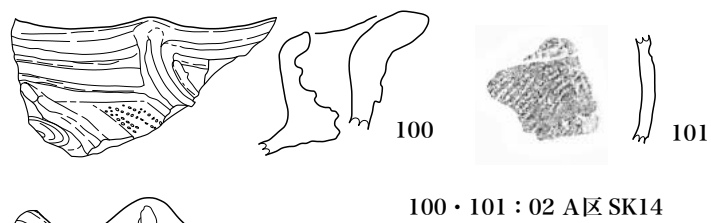
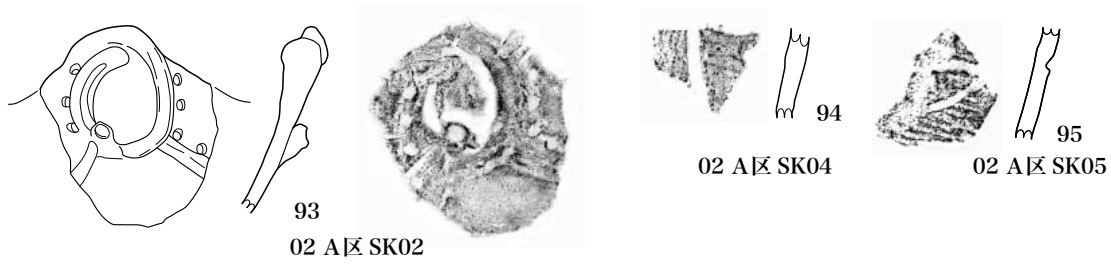
89 ~ 92 : 02 A区 SK06

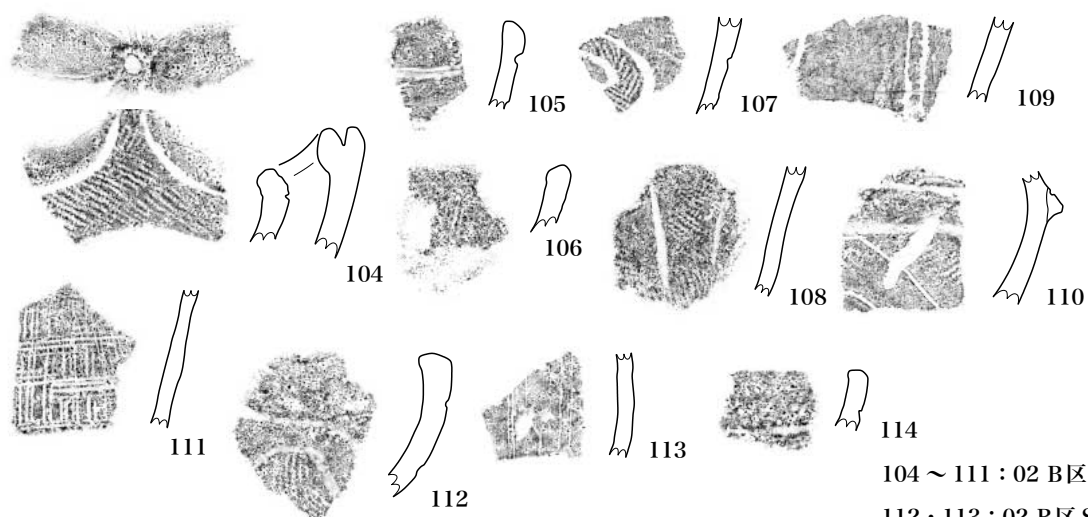


0 15cm

A horizontal scale bar is located at the bottom right of the page. It is marked with '0' at the left end and '15cm' at the right end. The bar is divided into five equal segments by four vertical tick marks.

遺物図版8



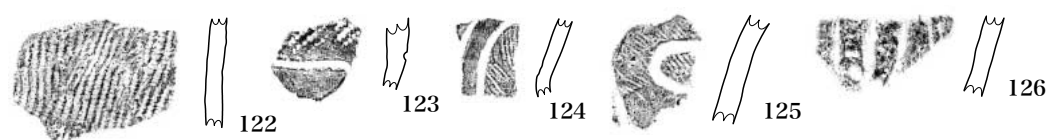
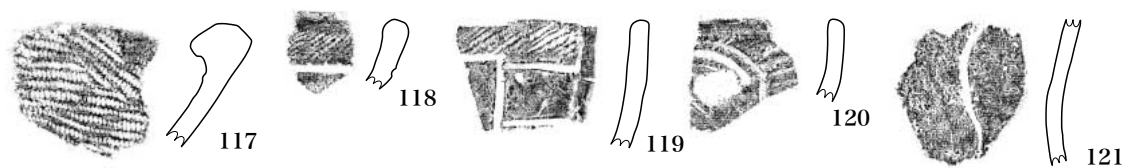
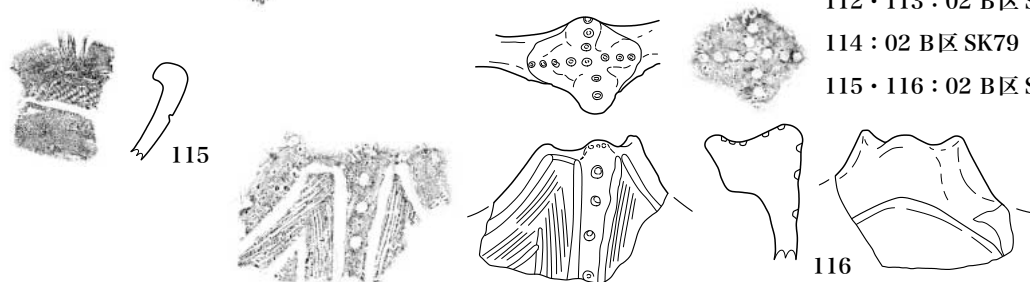


104 ~ 111 : 02 B区 SK77

112 · 113 : 02 B区 SK78

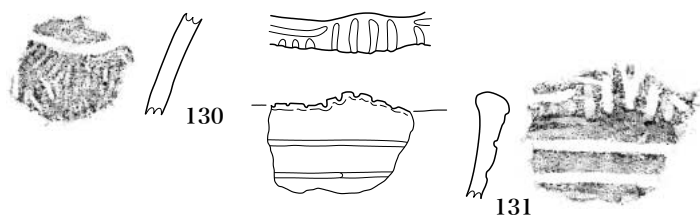
114 : 02 B区 SK79

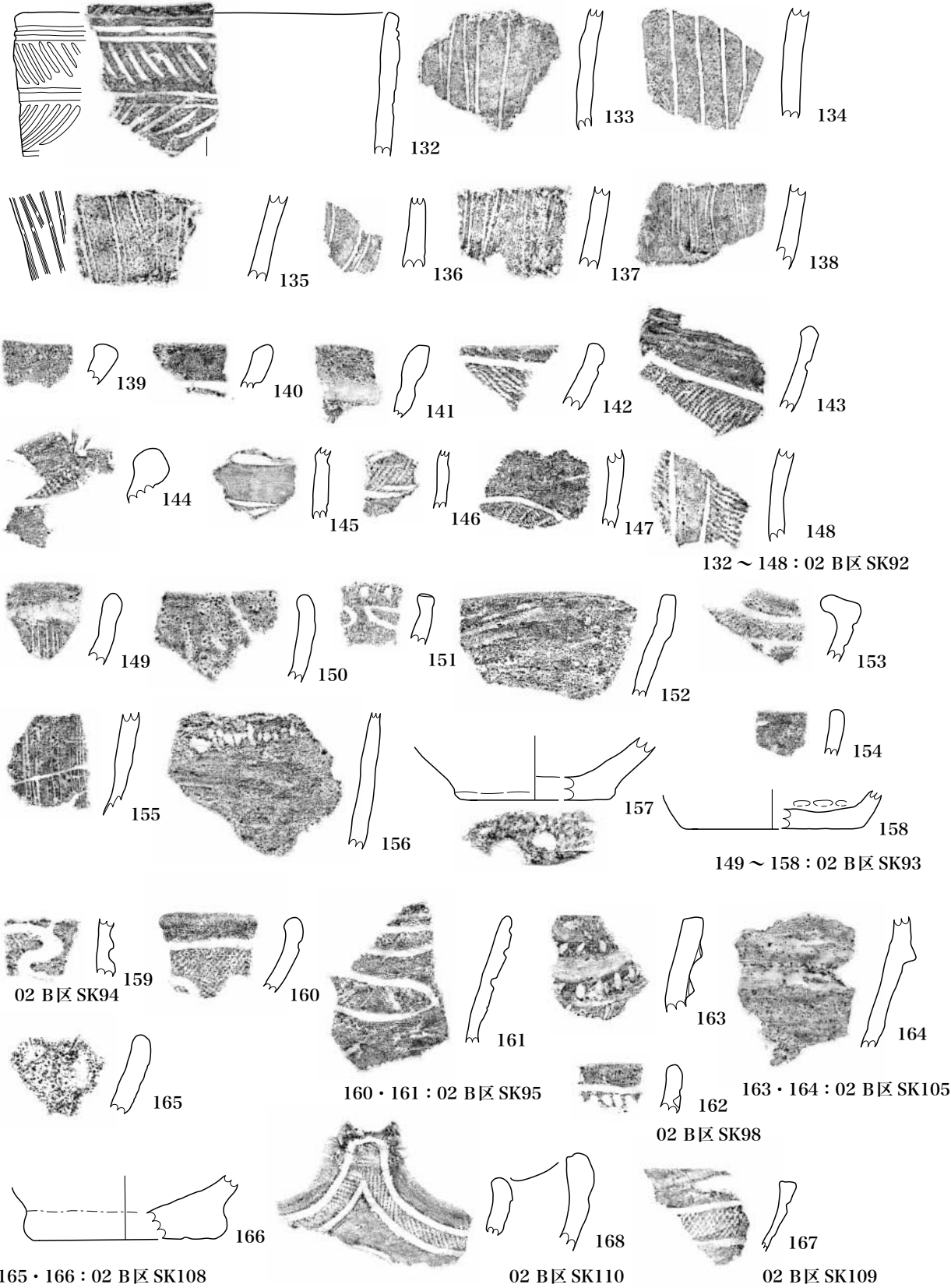
115 · 116 : 02 B区 SK87

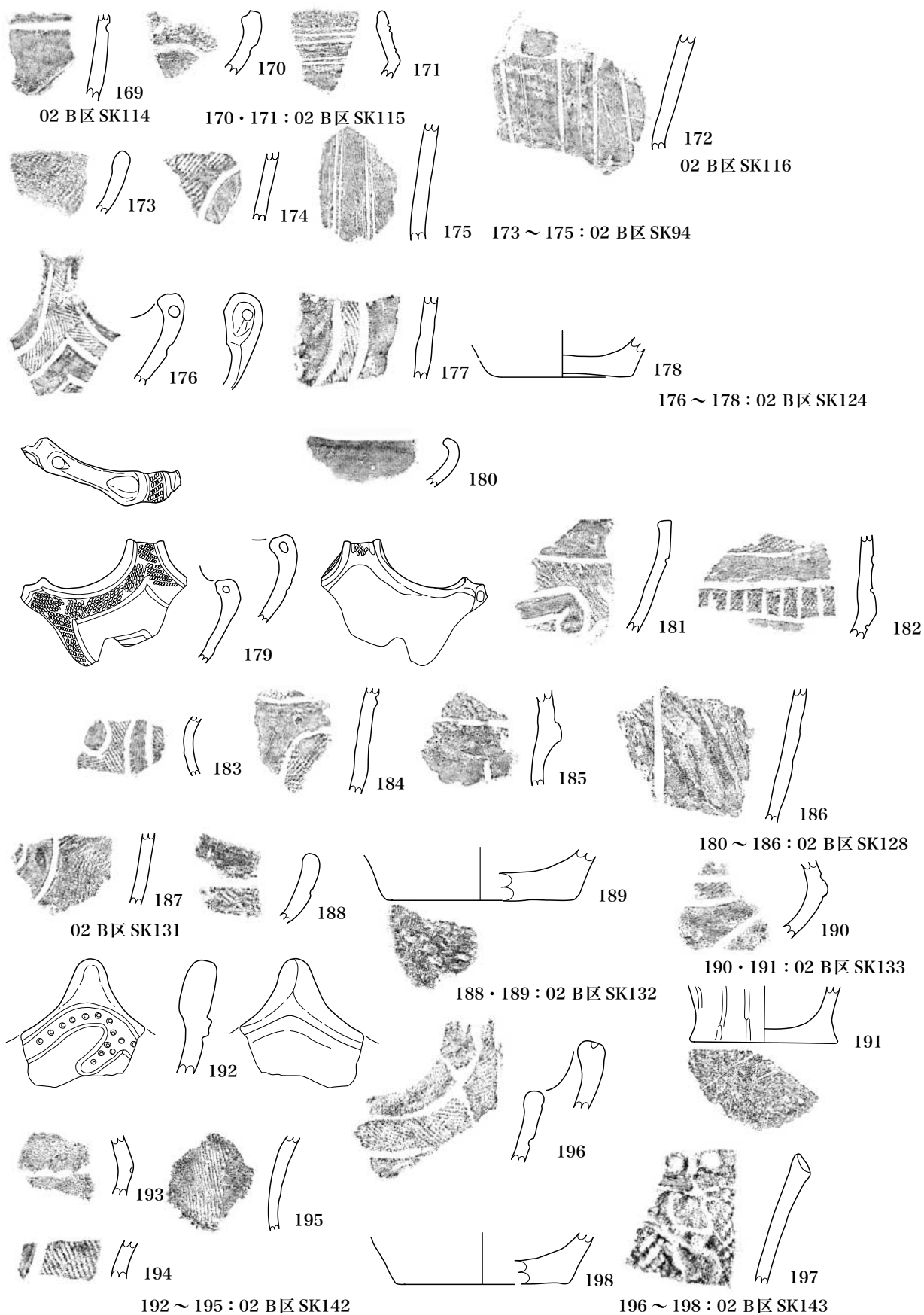


117 ~ 127 : 02 B区 SK90

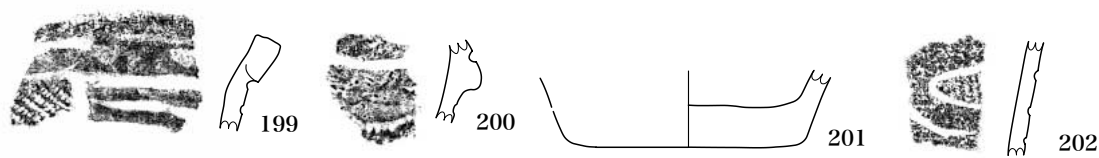
128 ~ 131 : 02 B区 SK91



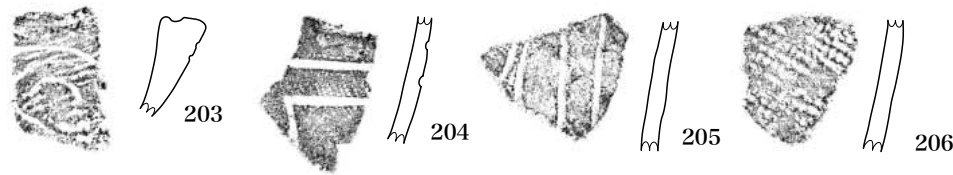




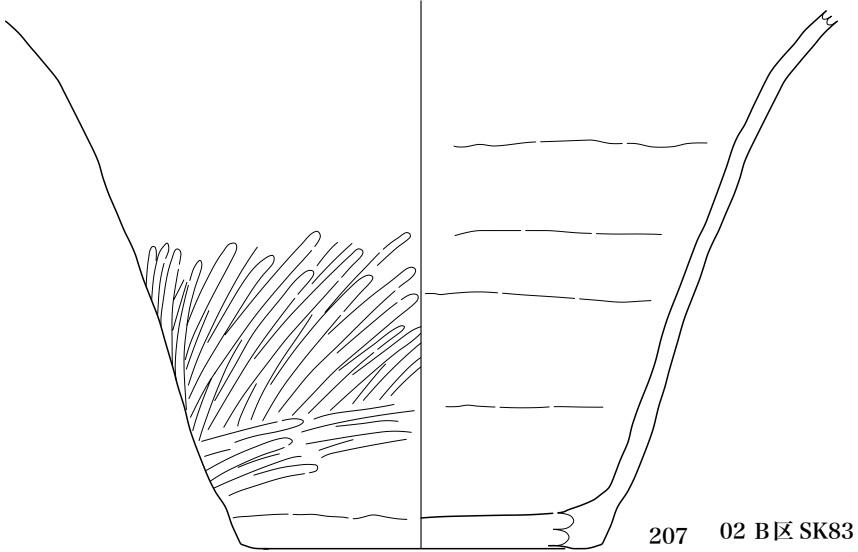
遺物図版12



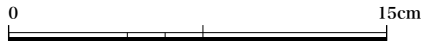
199 ~ 201 : 02 B区 SK145 02 B区 SK146

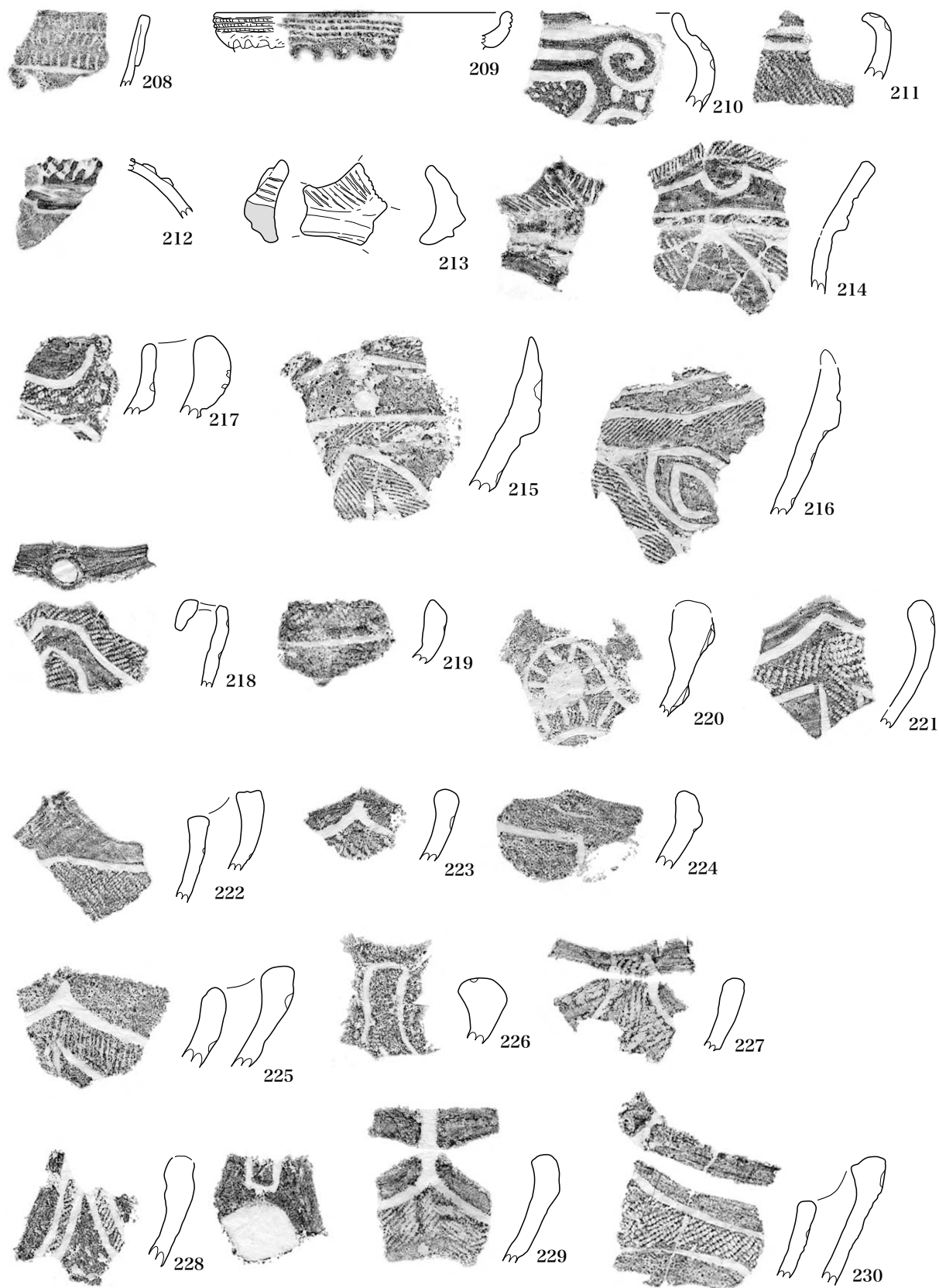


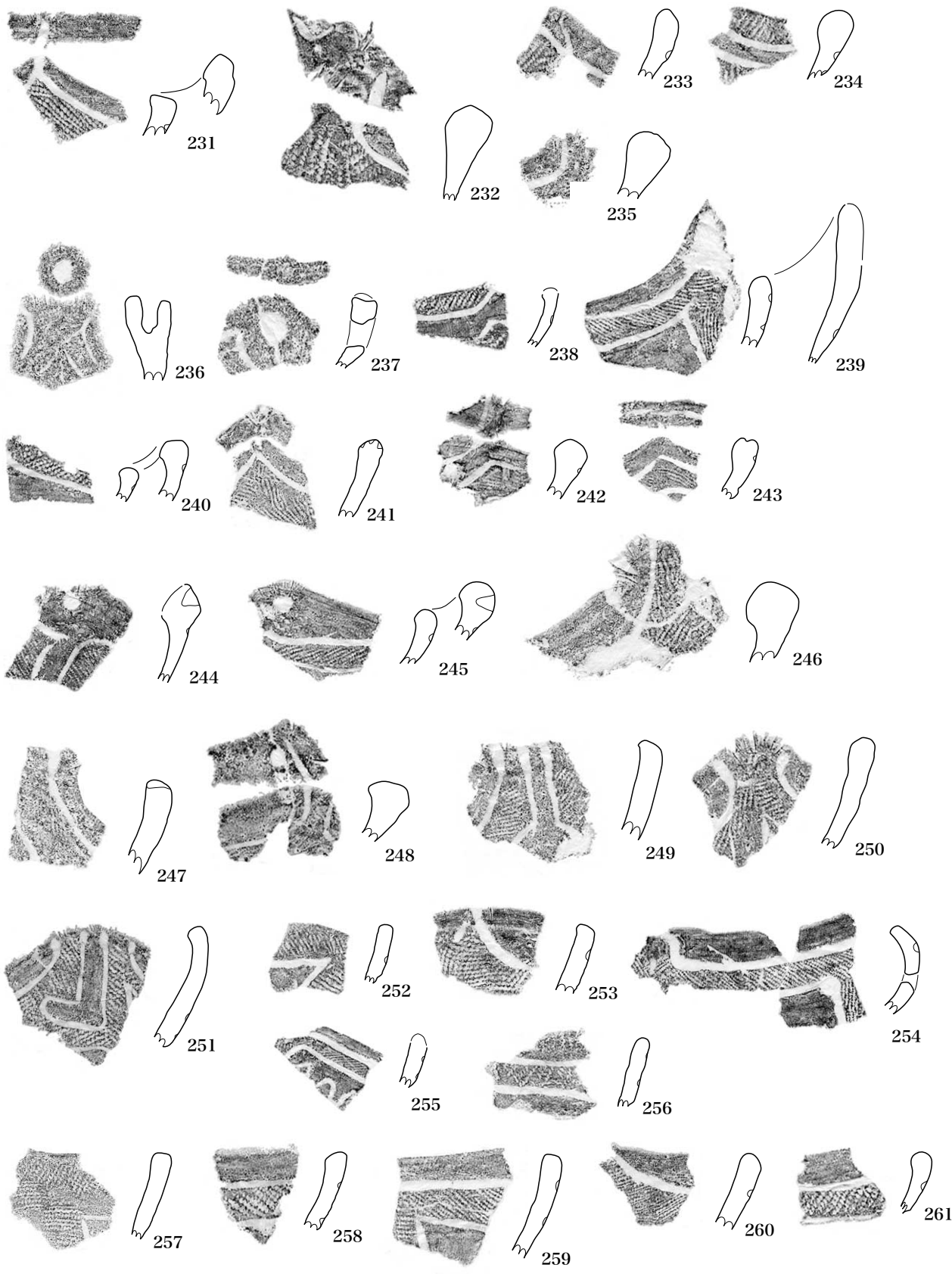
203 ~ 206 : 02 B区 SK148

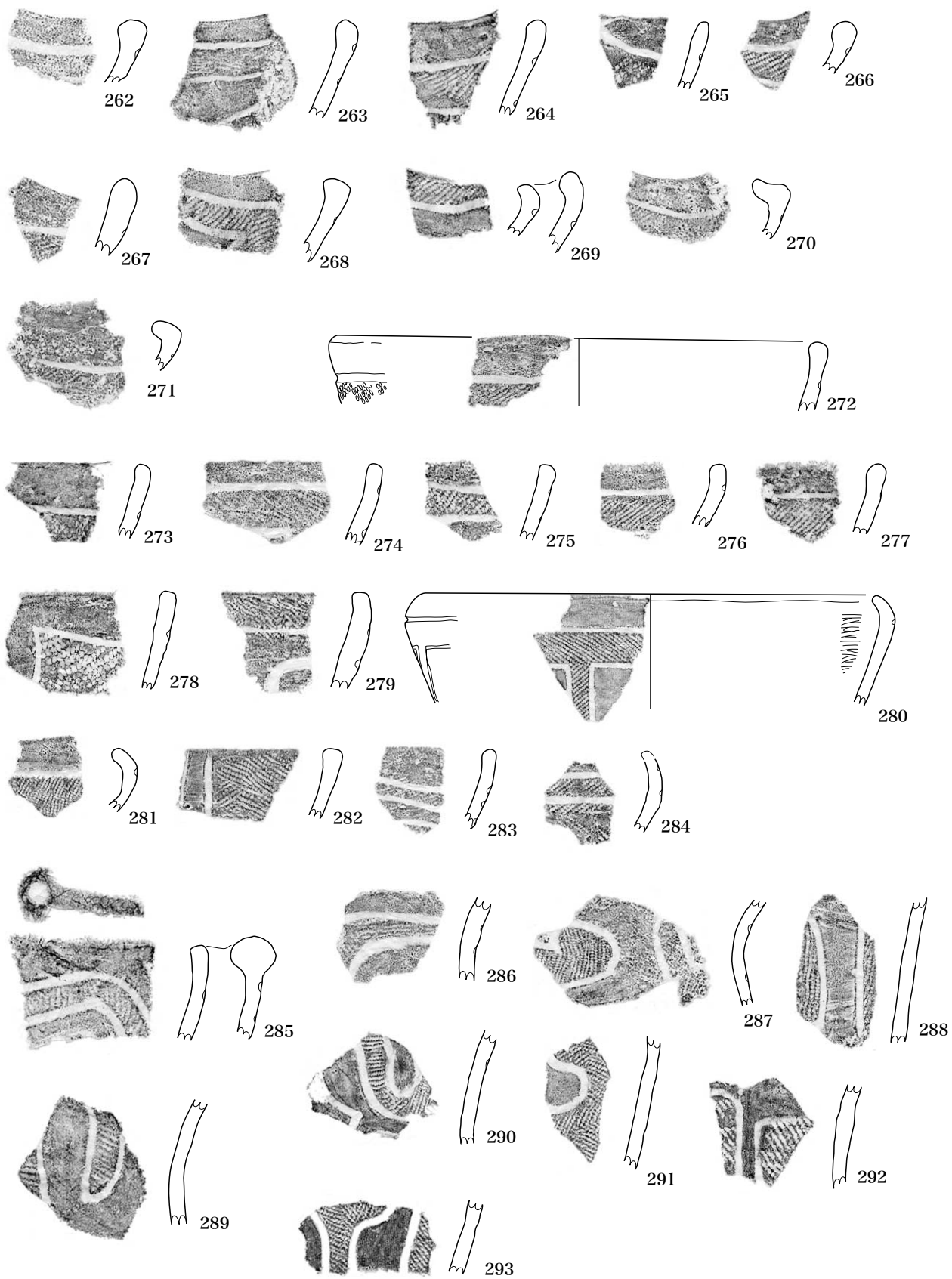


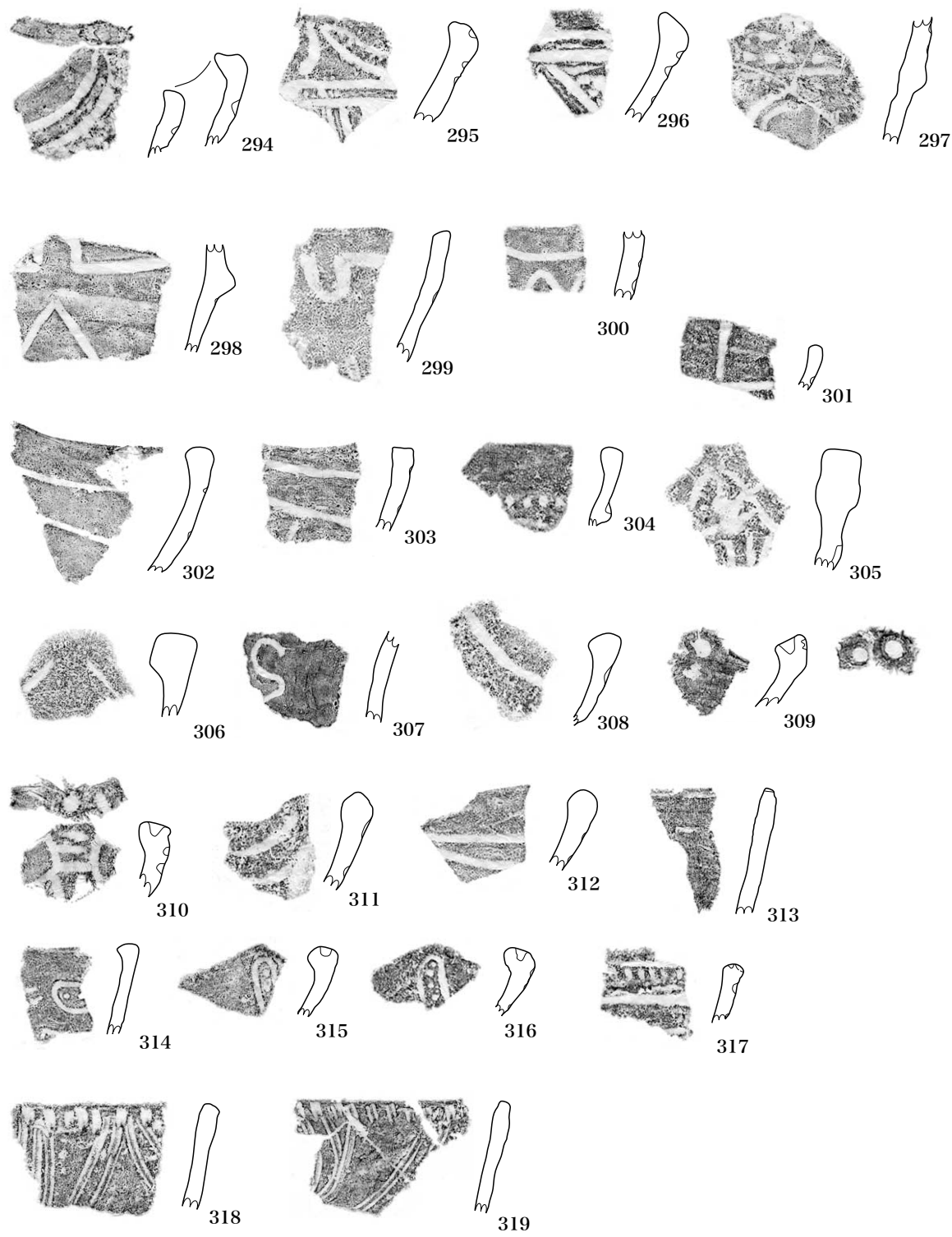
207 02 B区 SK83

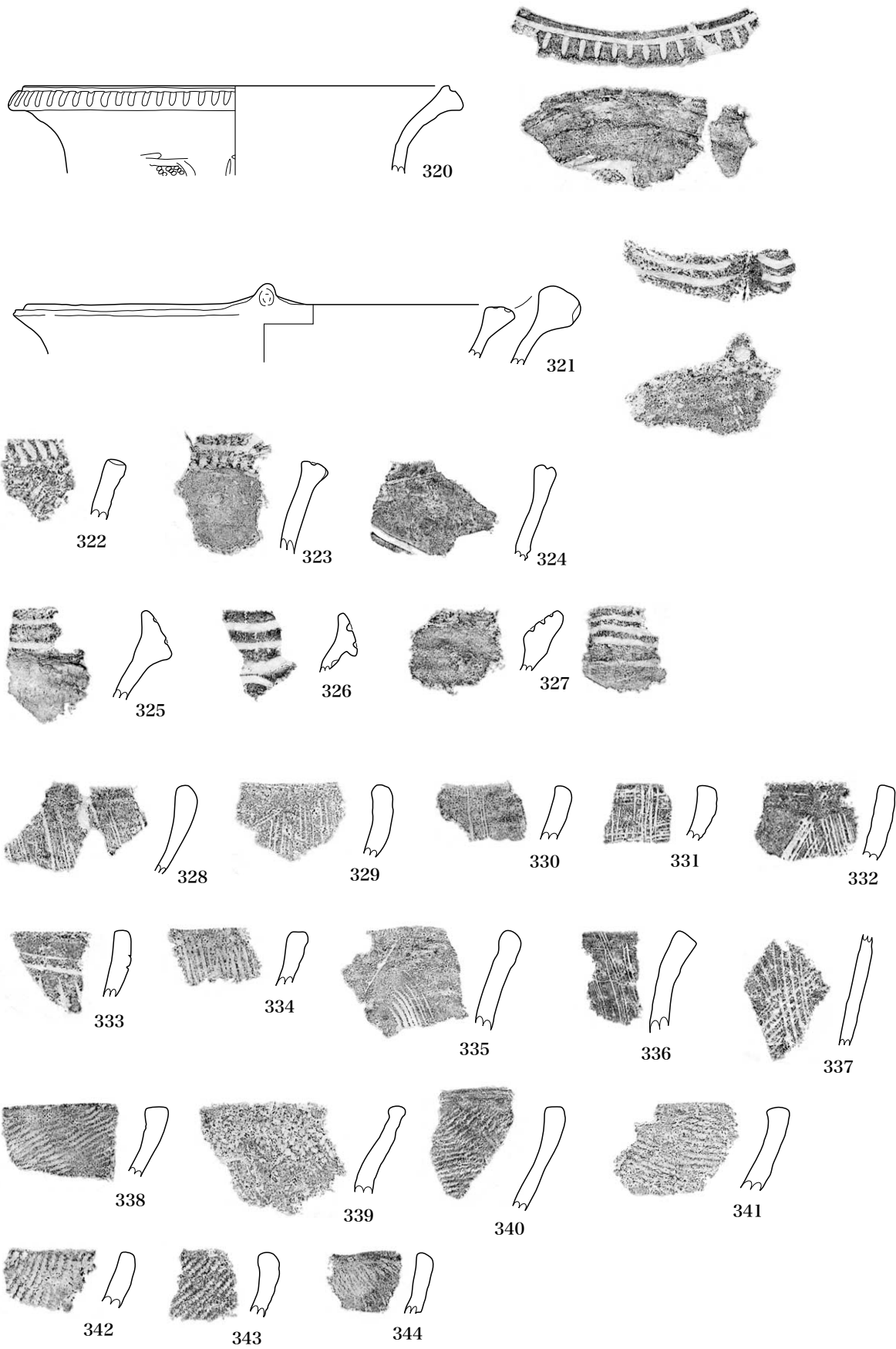




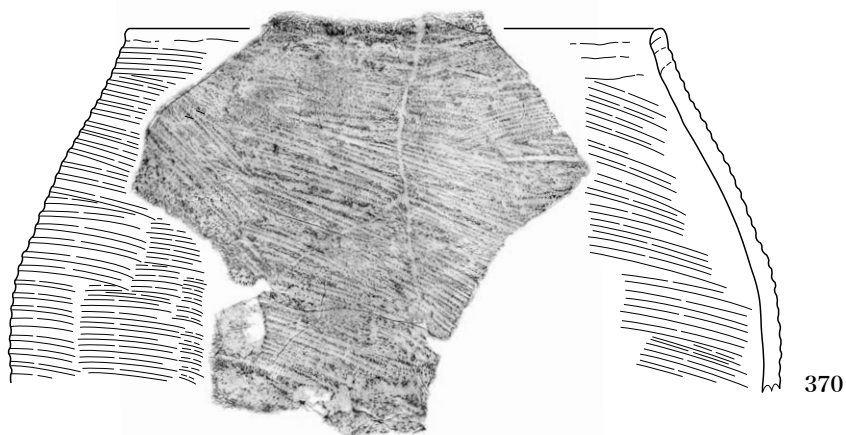




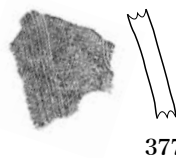
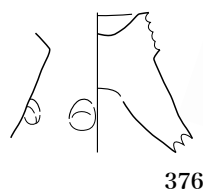
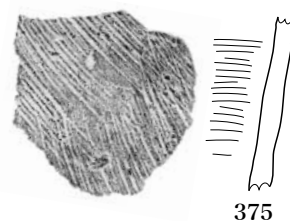
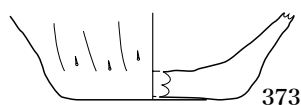








370・371 : 02 B区 SK84



373 ~ 376 : 00 区 NR01

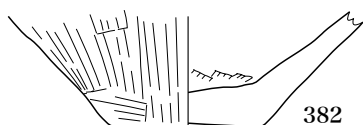
377 ~ 379 : 00 区 SA01



380



381



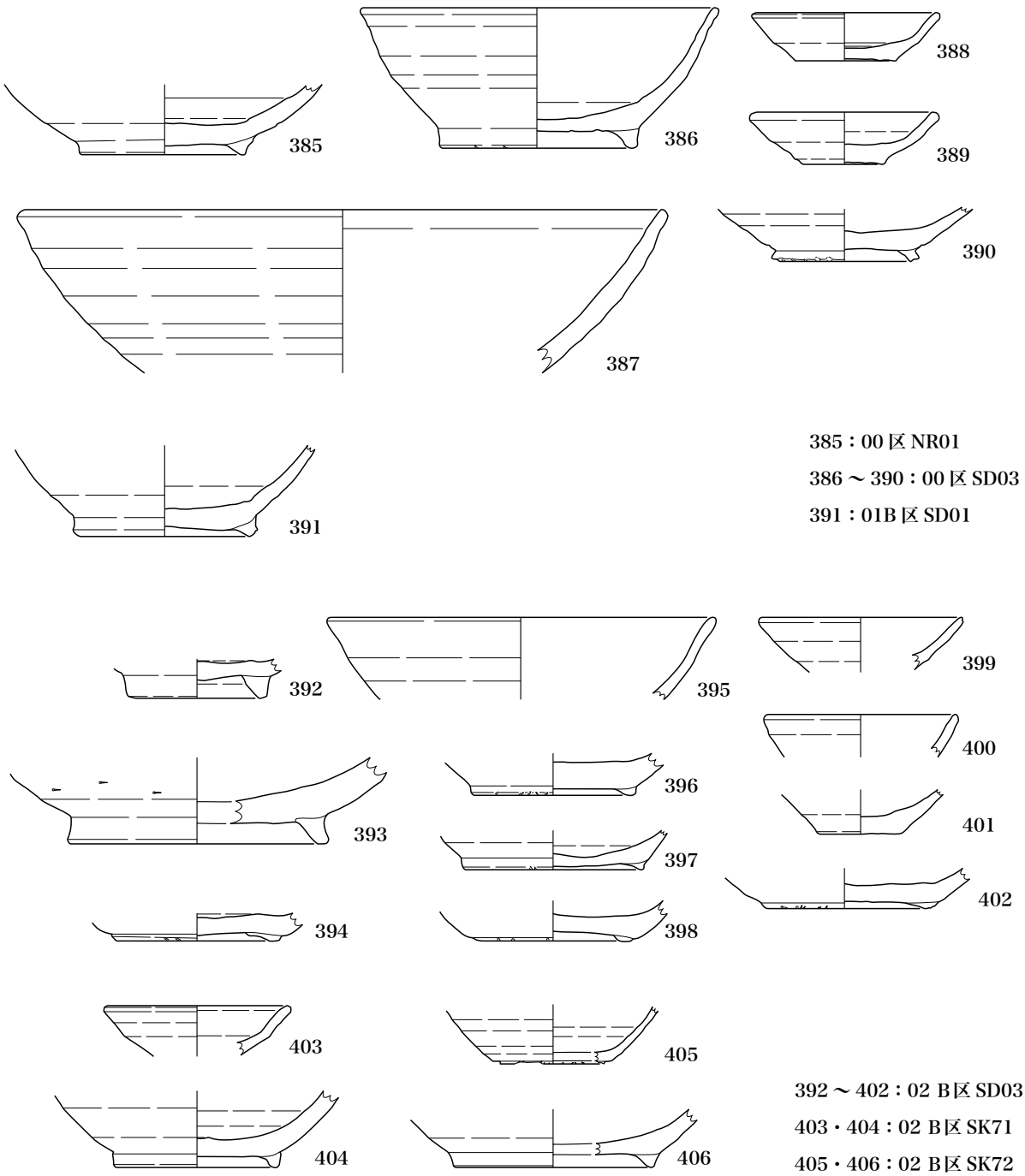
382



383



384



0 15cm



黒曜石 1



黒曜石 2



黒曜石 3



チャート 4



チャート 5



チャート 6



チャート 7



下呂石 8



チャート 9



黒曜石 10



チャート 11

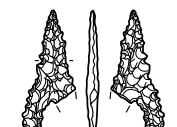
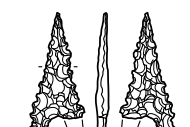


チャート 12



長石? 13



チャート 14

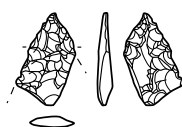


チャート 15



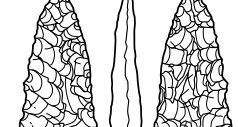
チャート 16



チャート 17



下呂石 18



下呂石 19

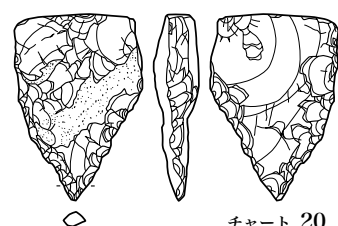


チャート 20

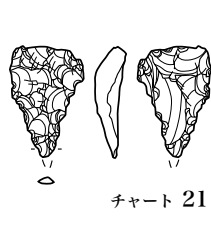


チャート 21

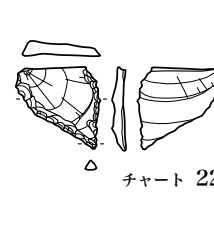


チャート 22



黒曜石 23

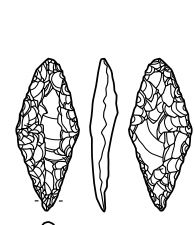


チャート 24

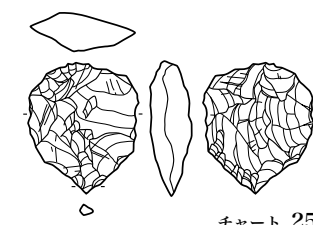


チャート 25

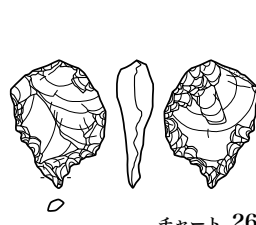
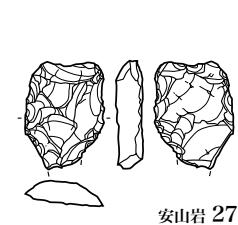
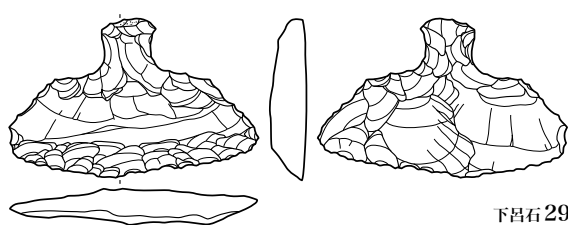


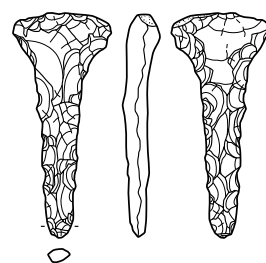
チャート 26



安山岩 27



下呂石 29



下呂石 (円礫) 28

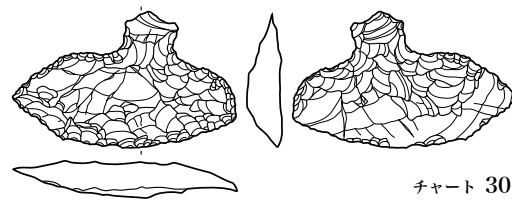
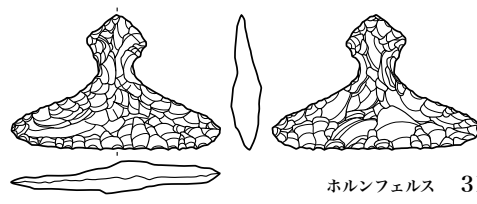
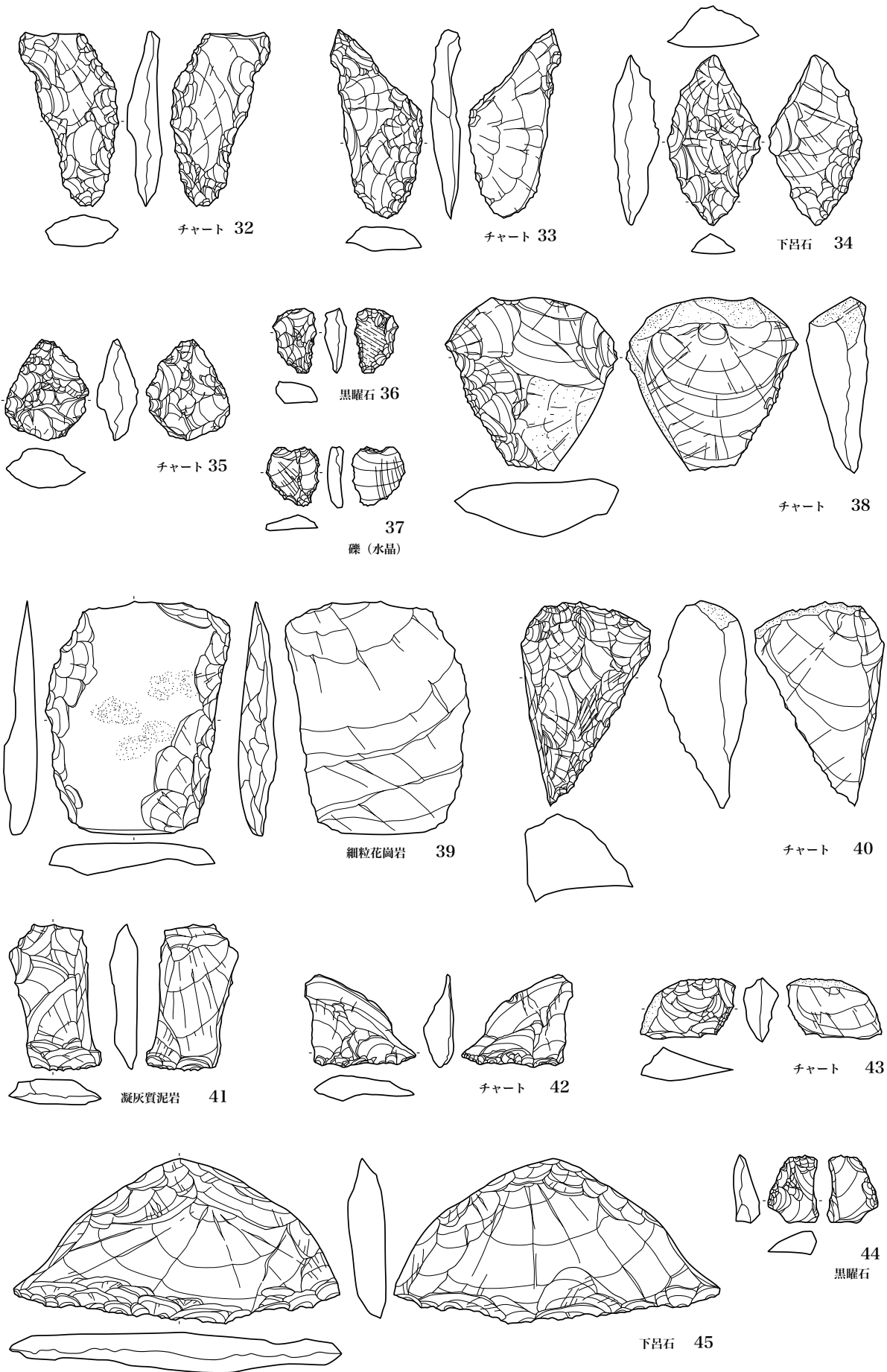


チャート 30



ホルンフェルス 31



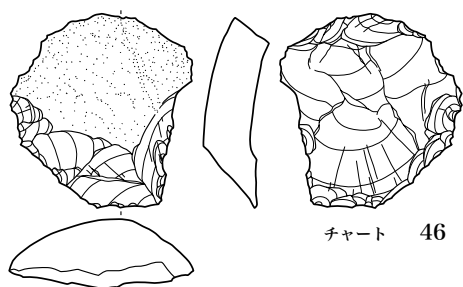


チャート 46

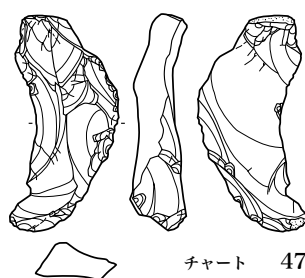


チャート 47

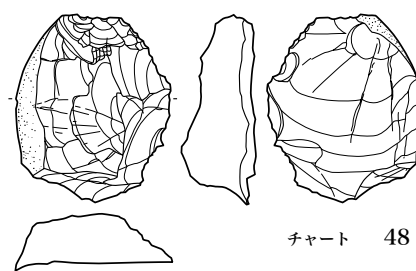


チャート 48

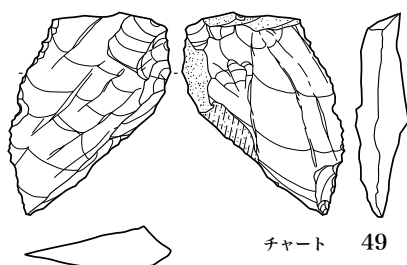


チャート 49

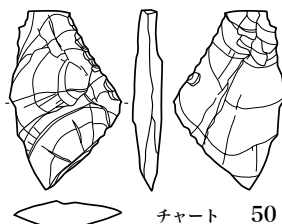
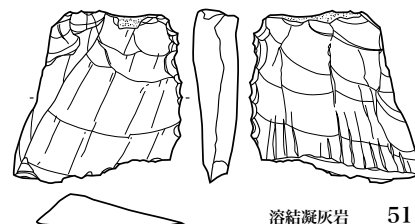


チャート 50



溶結凝灰岩 51

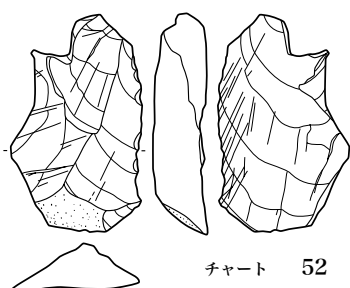
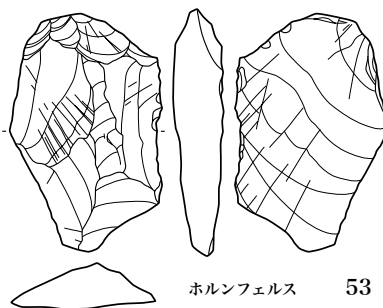


チャート 52



ホルンフェルス 53

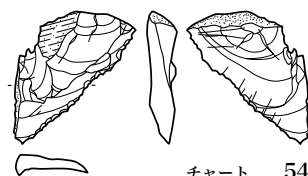


チャート 54

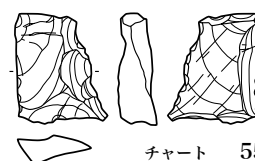
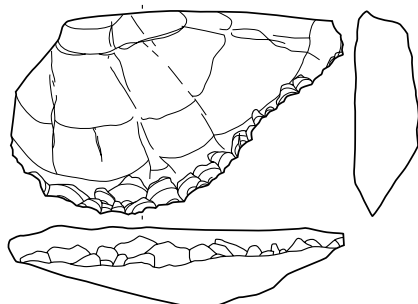


チャート 55



ホルンフェルス 56

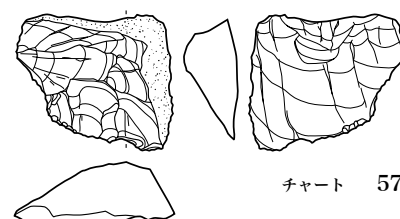
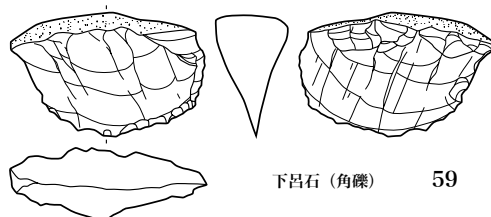


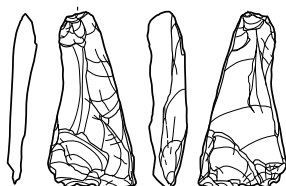
チャート 57



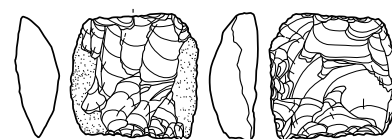
泥岩 58



下呂石 (角礫) 59

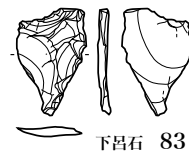
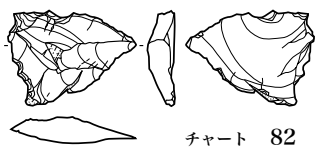
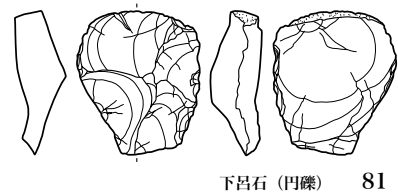
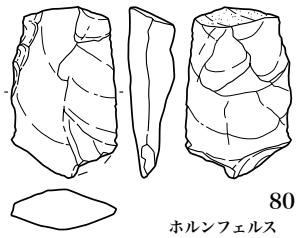
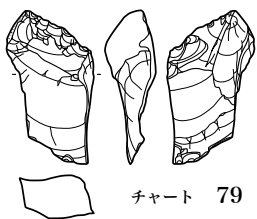
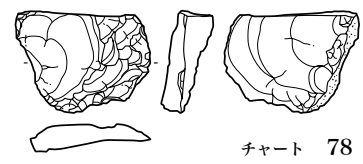
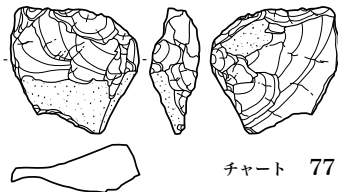
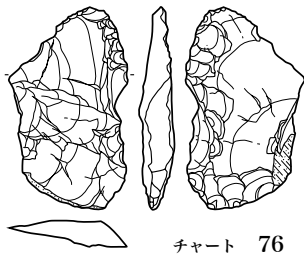
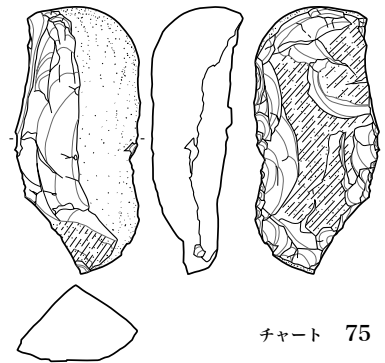
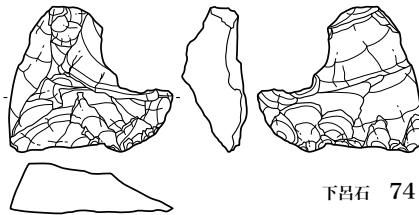
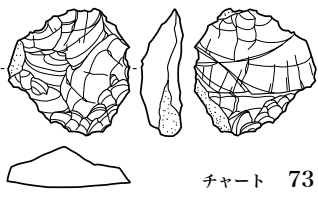
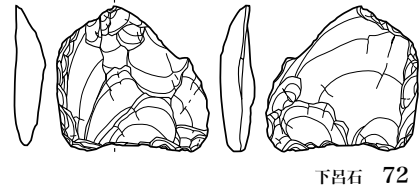
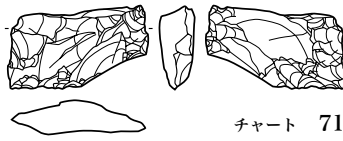
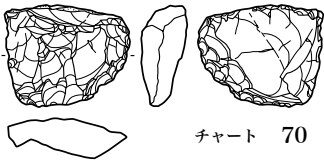
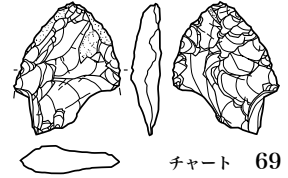
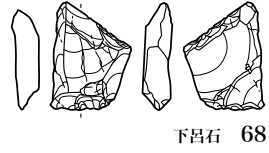
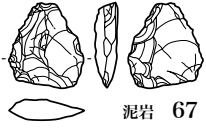
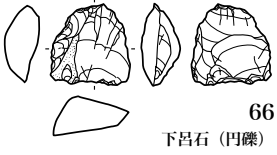
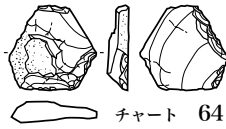
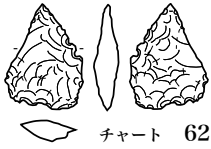


下呂石 60



下呂石 (円礫) 61

遺物図版24



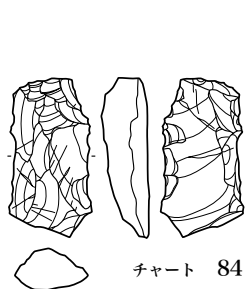


チャート 84

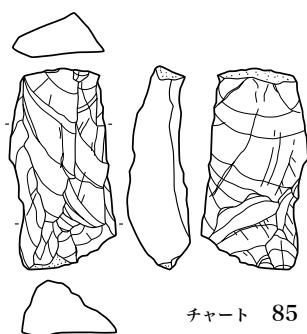


チャート 85

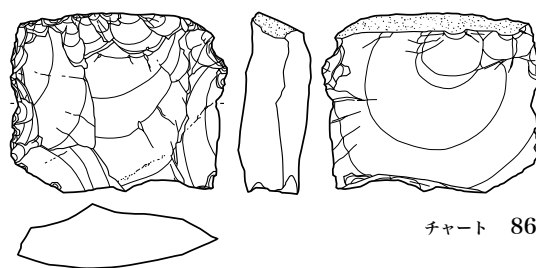


チャート 86

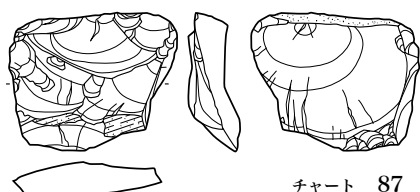


チャート 87

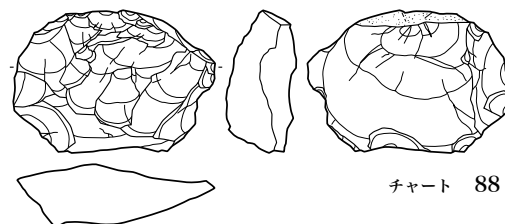


チャート 88



チャート 89

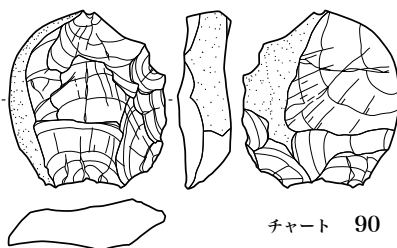
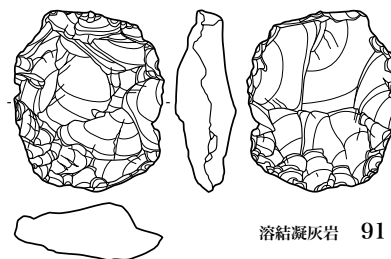


チャート 90



溶結凝灰岩 91

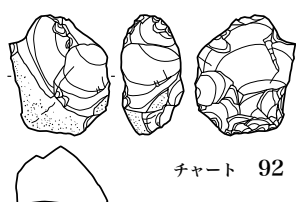


チャート 92

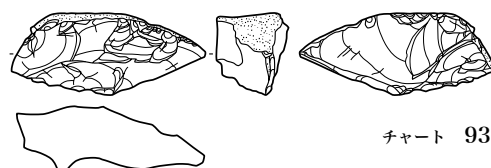
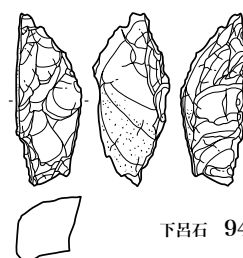
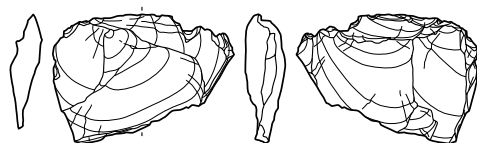


チャート 93



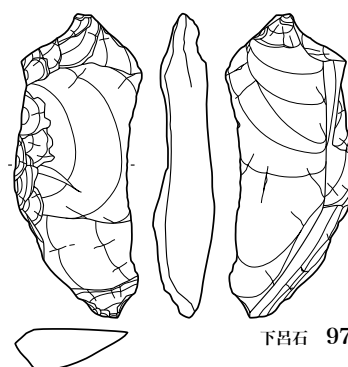
下呂石 94



下呂石 95



下呂石 96



下呂石 97

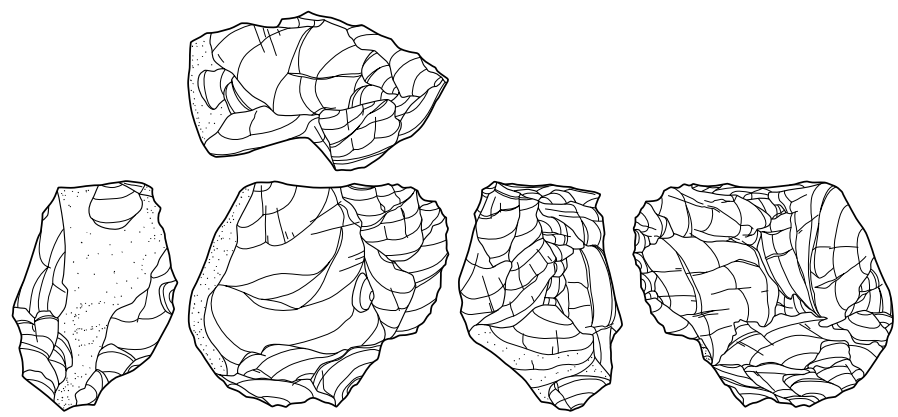


チャート 98

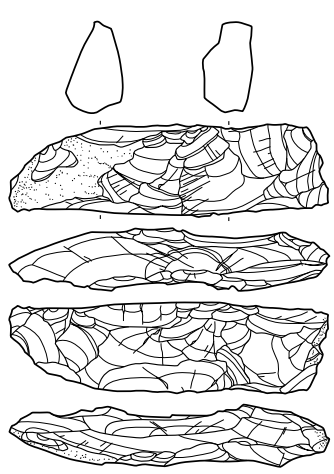


チャート 99

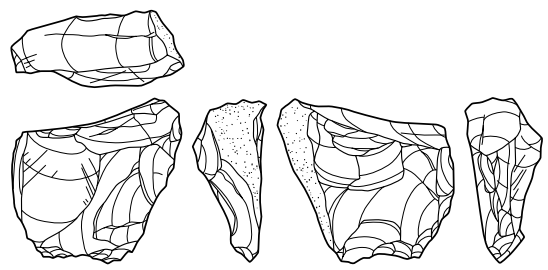
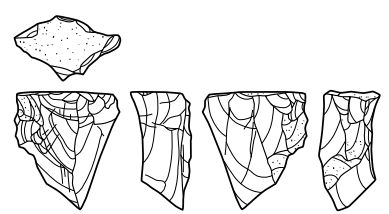
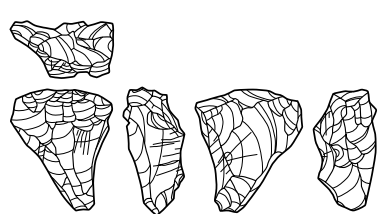


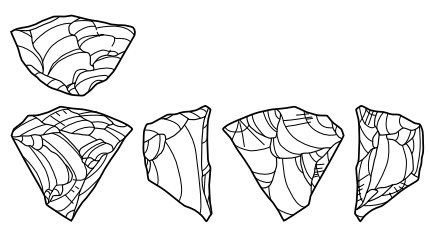
チャート 100



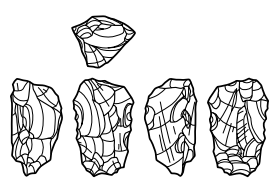
黒曜石 101



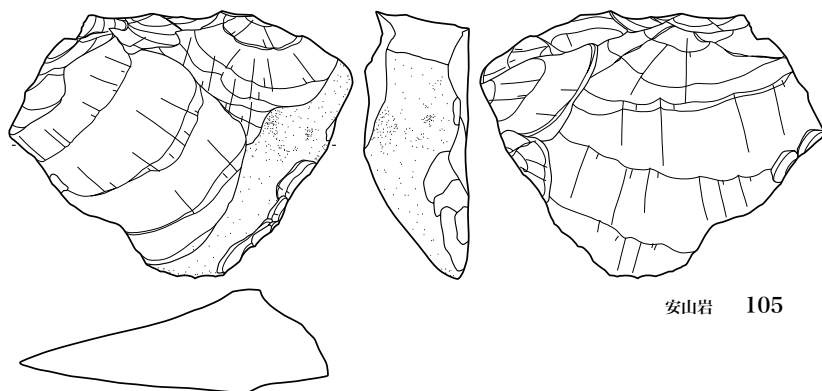
黒曜石 102



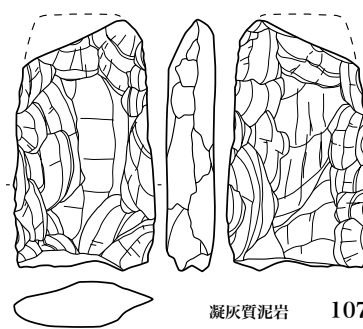
礫（水晶） 103



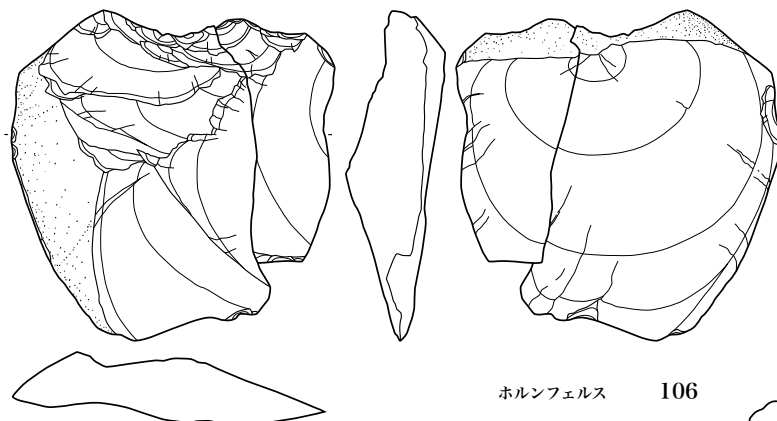
黒曜石 104



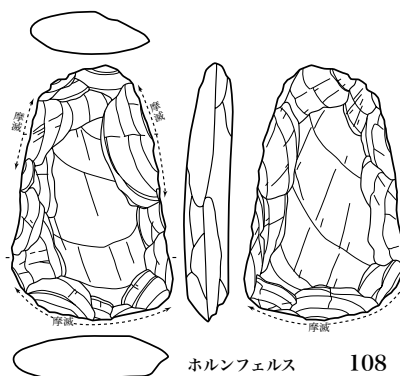
安山岩 105



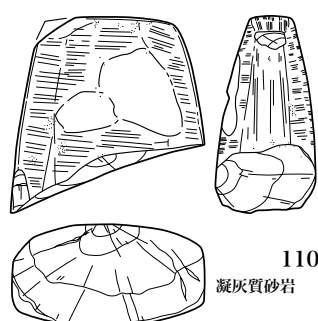
凝灰質泥岩 107



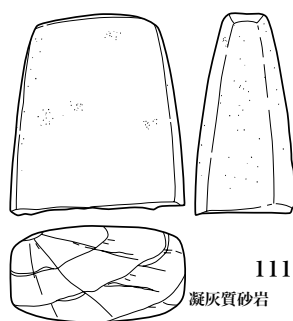
ホルンフェルス 106



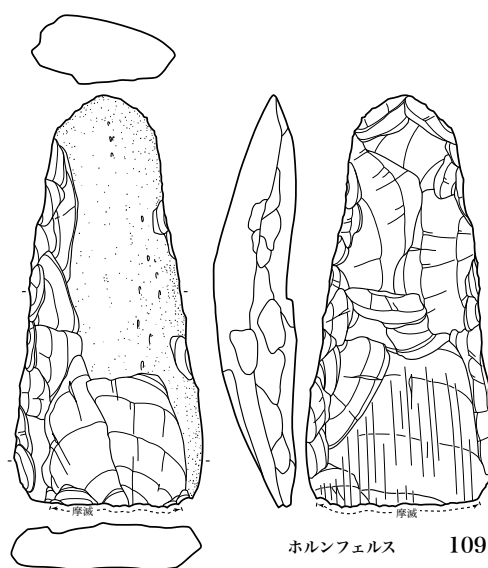
ホルンフェルス 108



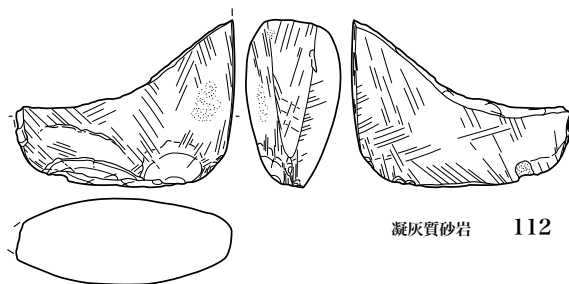
110
凝灰質砂岩



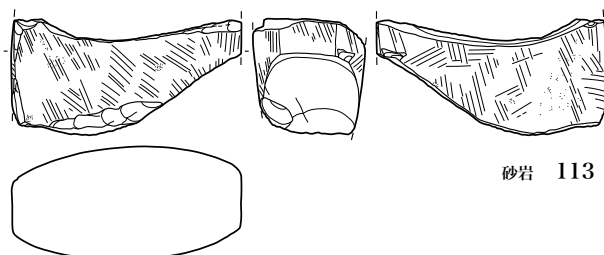
111
凝灰質砂岩



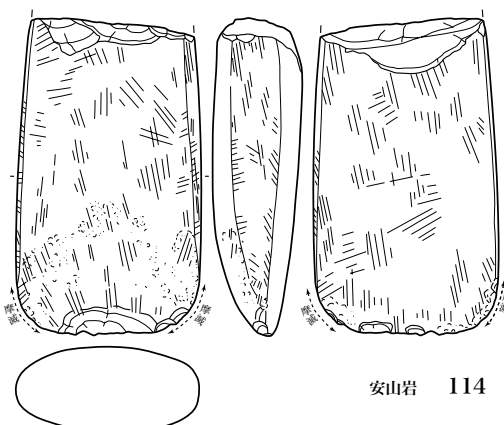
ホルンフェルス 109



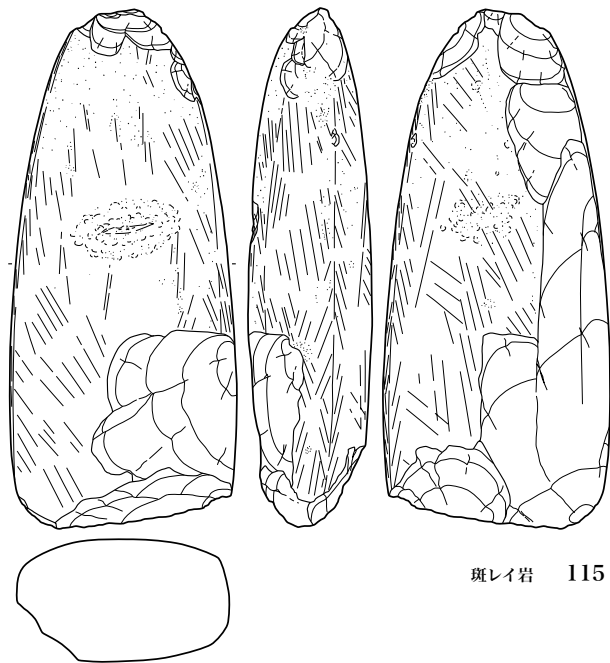
凝灰質砂岩 112



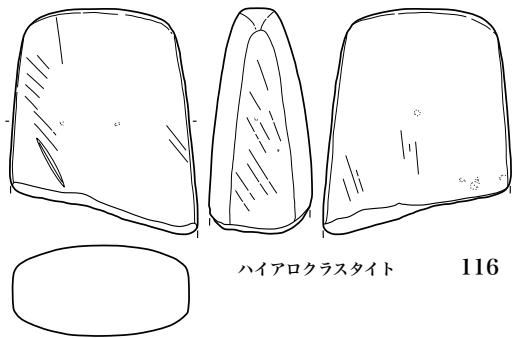
砂岩 113



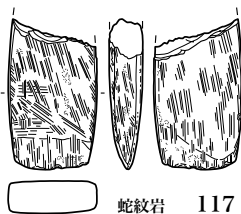
安山岩 114



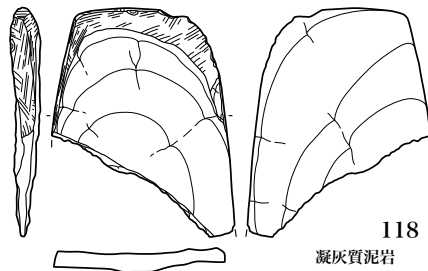
斑レイ岩 115



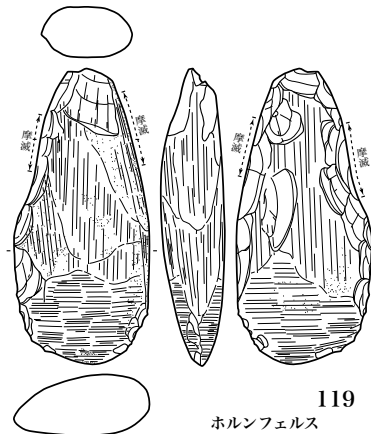
ハイアロクラスタイト 116



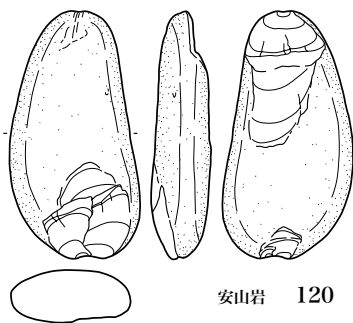
蛇紋岩 117



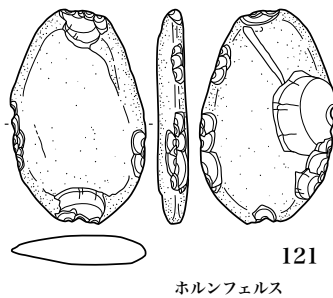
凝灰質泥岩 118



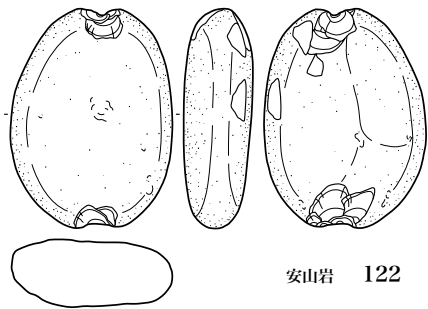
ホルンフェルス 119



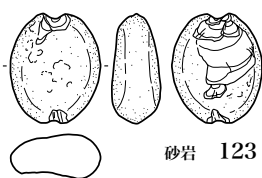
安山岩 120



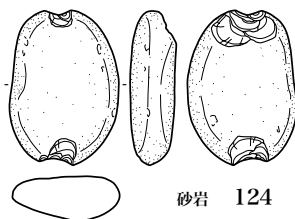
ホルンフェルス 121



安山岩 122



砂岩 123



砂岩 124

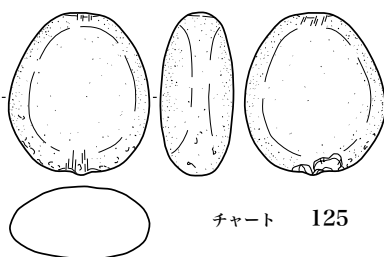
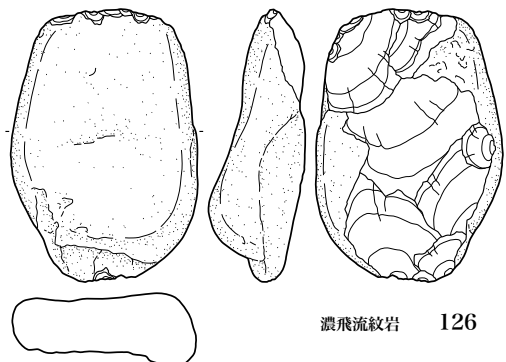
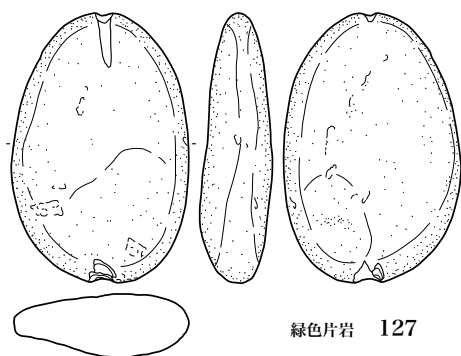


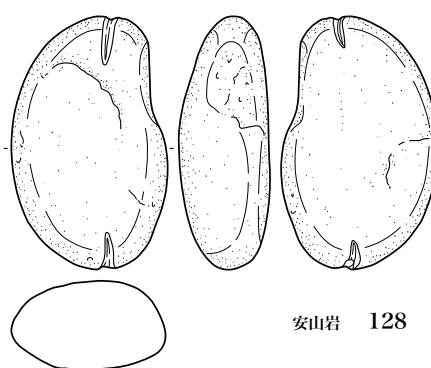
チャート 125



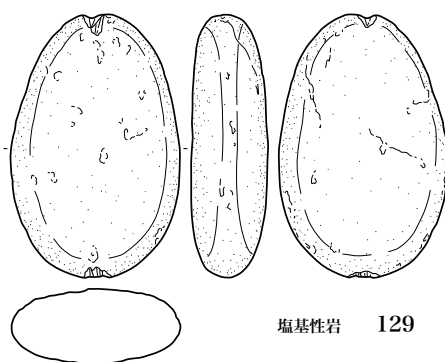
濃飛流紋岩 126



緑色片岩 127



安山岩 128



塩基性岩 129

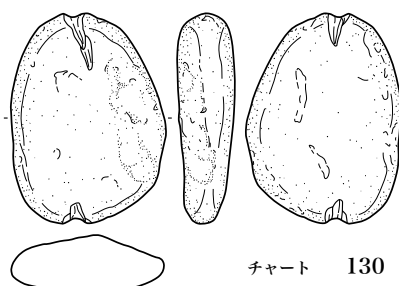
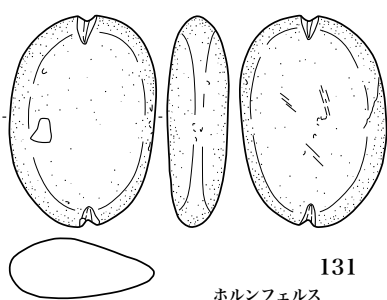
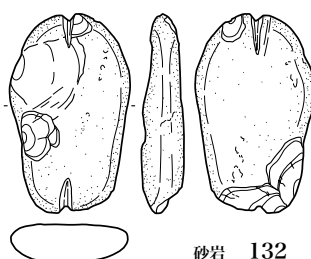


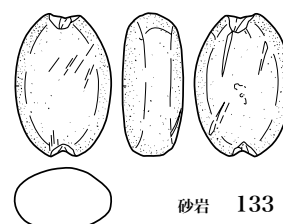
チャート 130



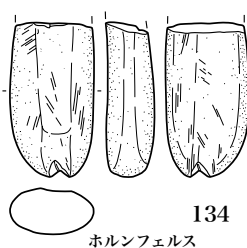
131
ホルンフェルス



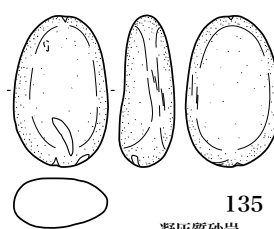
砂岩 132



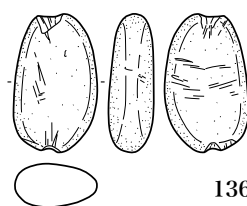
砂岩 133



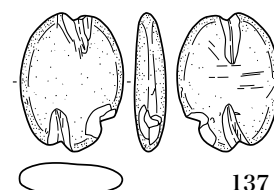
134
ホルンフェルス



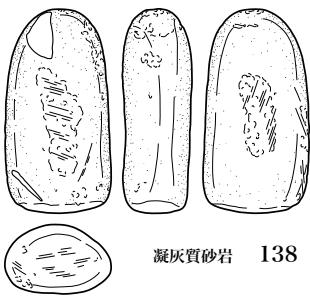
135
凝灰質砂岩



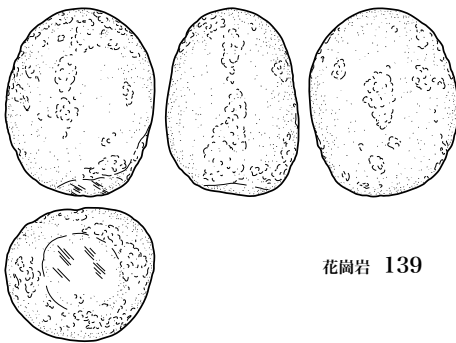
136
凝灰質泥岩



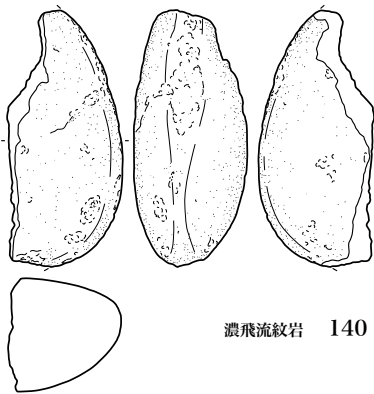
137
結晶片岩



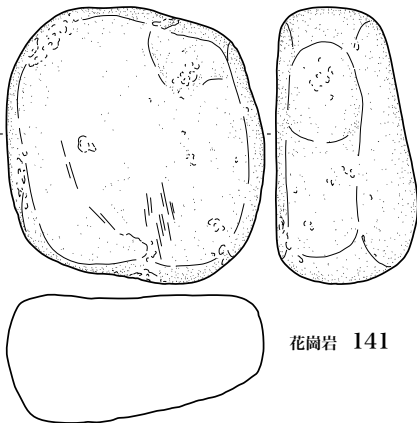
凝灰質砂岩 138



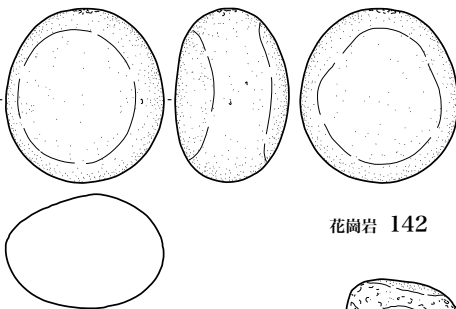
花崗岩 139



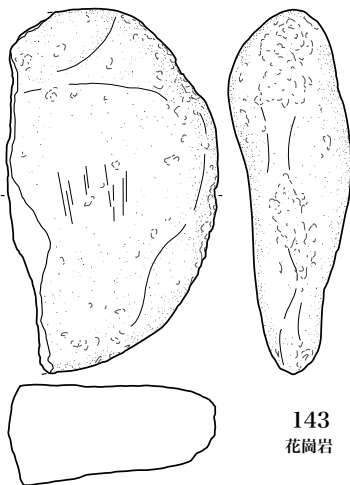
濃飛流紋岩 140



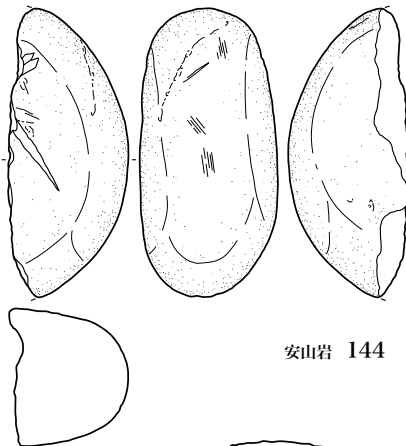
花崗岩 141



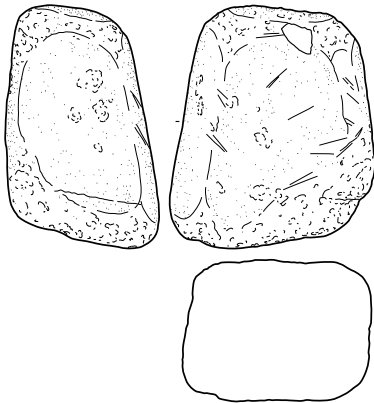
花崗岩 142



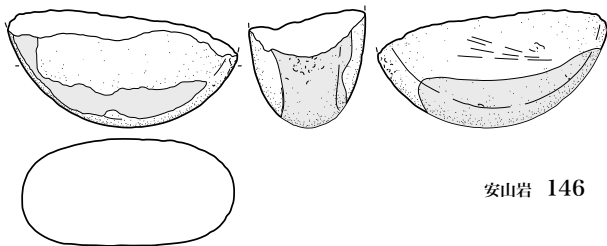
143
花崗岩



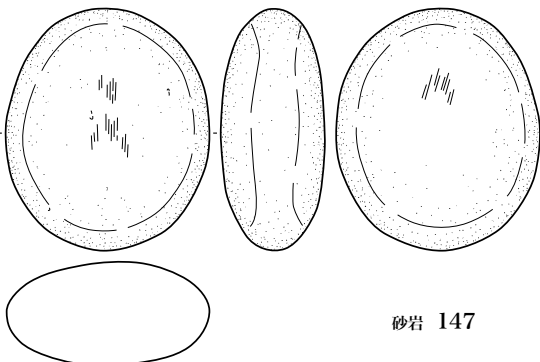
安山岩 144



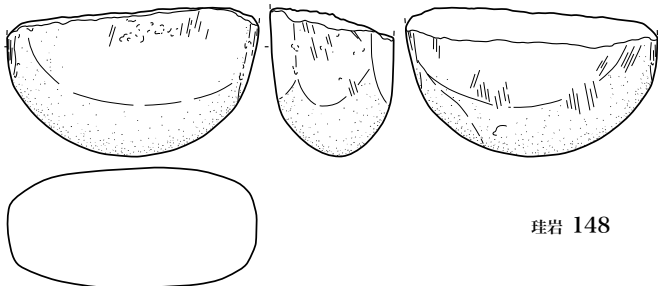
花崗岩 145



安山岩 146

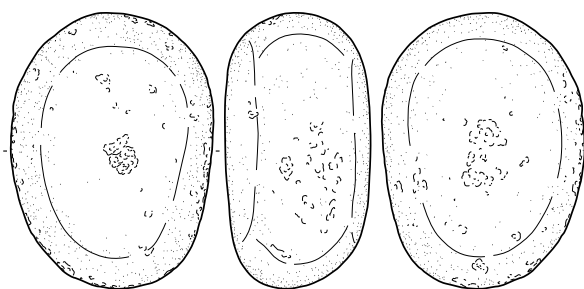


砂岩 147

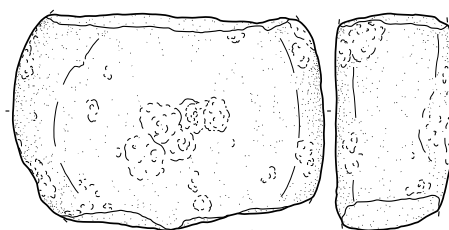
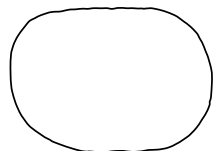


珪岩 148

遺物図版31

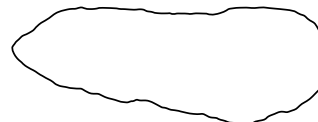


花崗岩 149

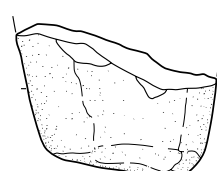
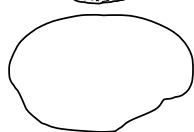


150

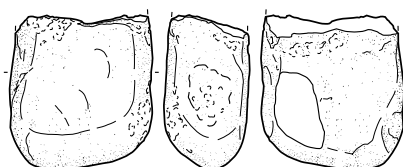
細粒花崗岩



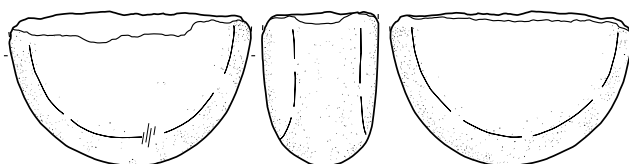
安山岩 151



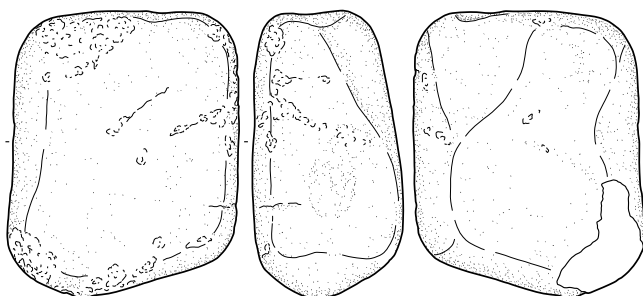
凝灰質砂岩 167



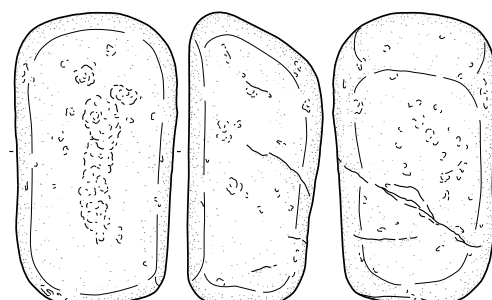
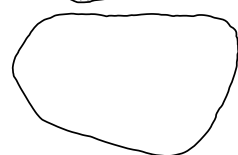
花崗岩 152



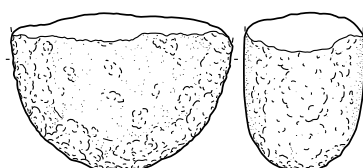
花崗岩 153



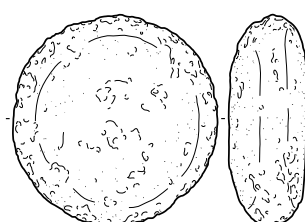
花崗岩 154



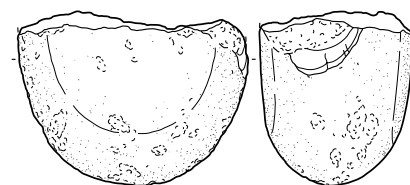
花崗岩 155



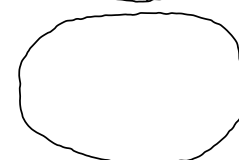
156
花崗岩



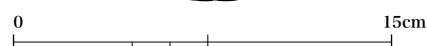
157
花崗岩



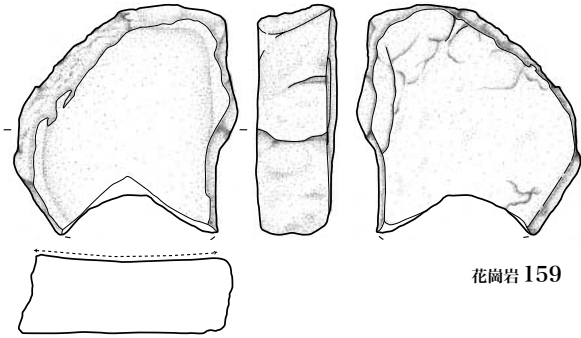
花崗岩 158



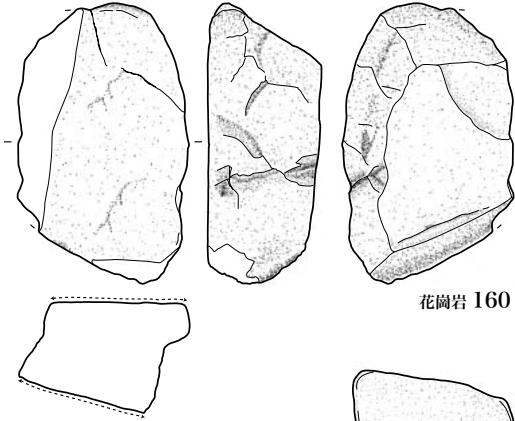
1 : 3



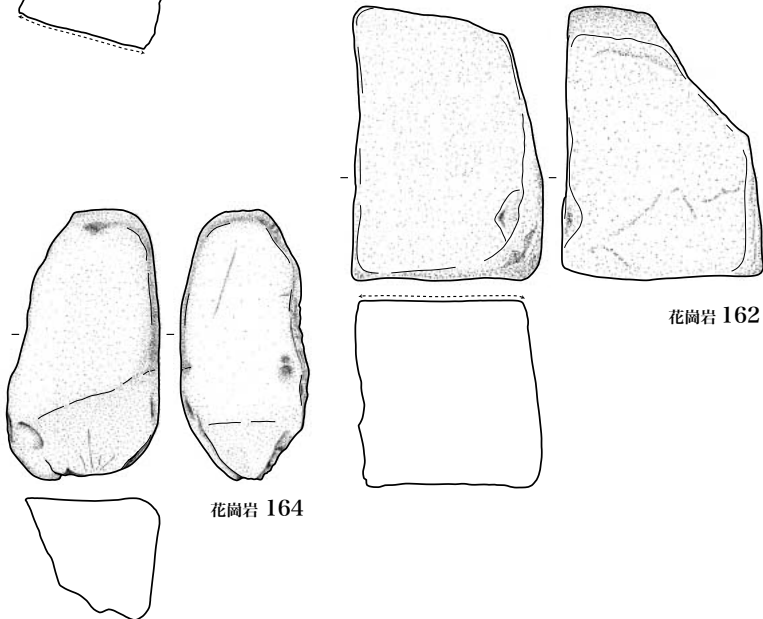
遺物図版32



花崗岩 159

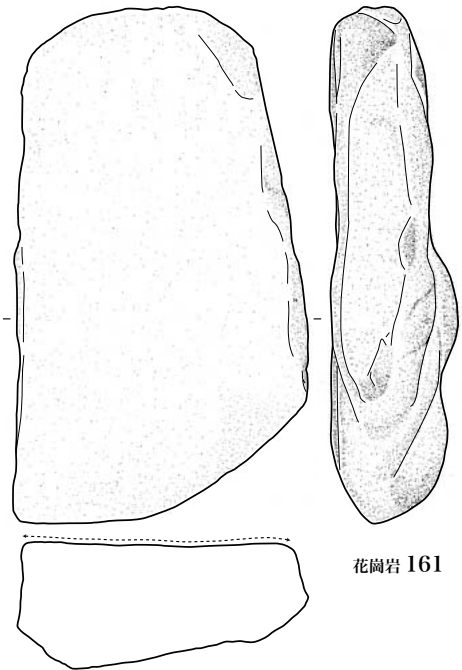


花崗岩 160

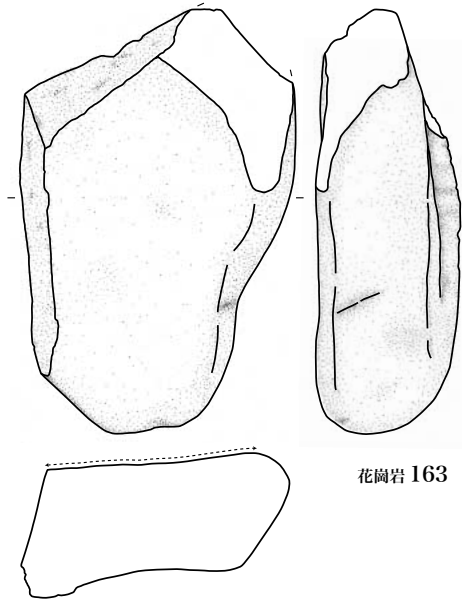


花崗岩 162

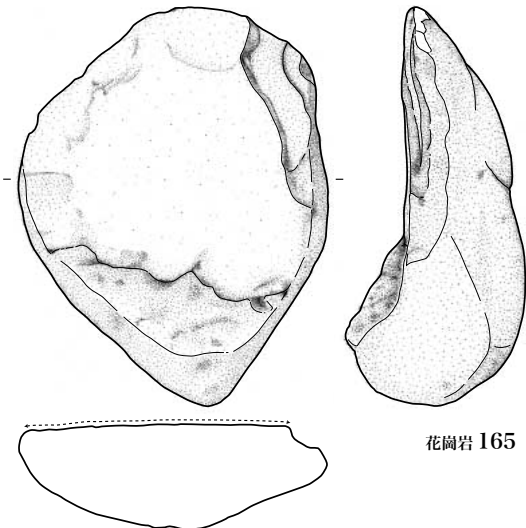
花崗岩 164



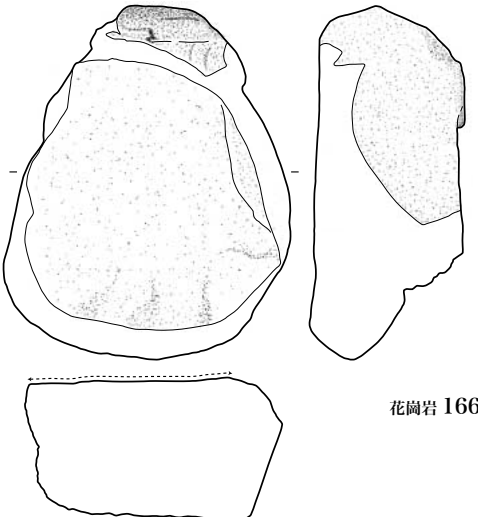
花崗岩 161



花崗岩 163



花崗岩 165



花崗岩 166

写真図版1



写真上段：00区 SA01 全景東から

写真中段左：00区 SA01 北から

写真中段右：00区 SA01 中央部分網代東から

写真下段左：00区 SA01 北西部分東から

写真図版2



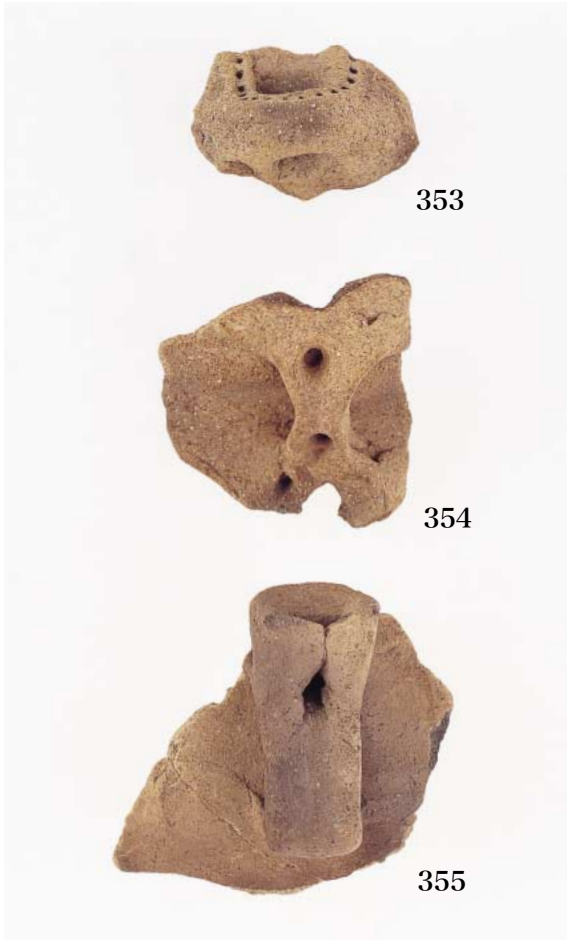
写真上段：02B 区縄文時代遺構面全景北東から

写真中段左：02B 区 SB02 完掘状況北から

写真中段右：02B 区 SB03 完掘状況東から

写真下段左：02B 区 SK14・17・70 東から







14



15



16



37



29

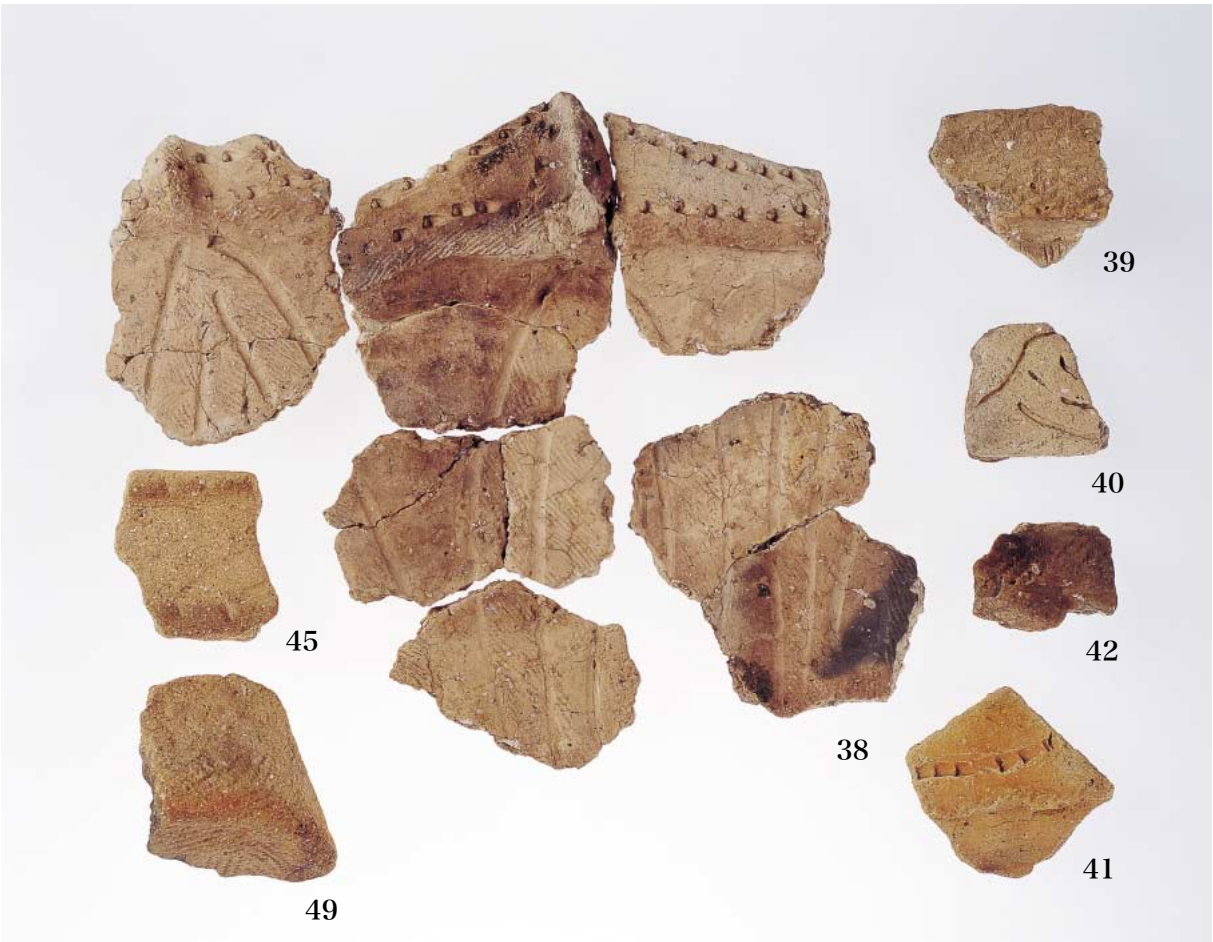
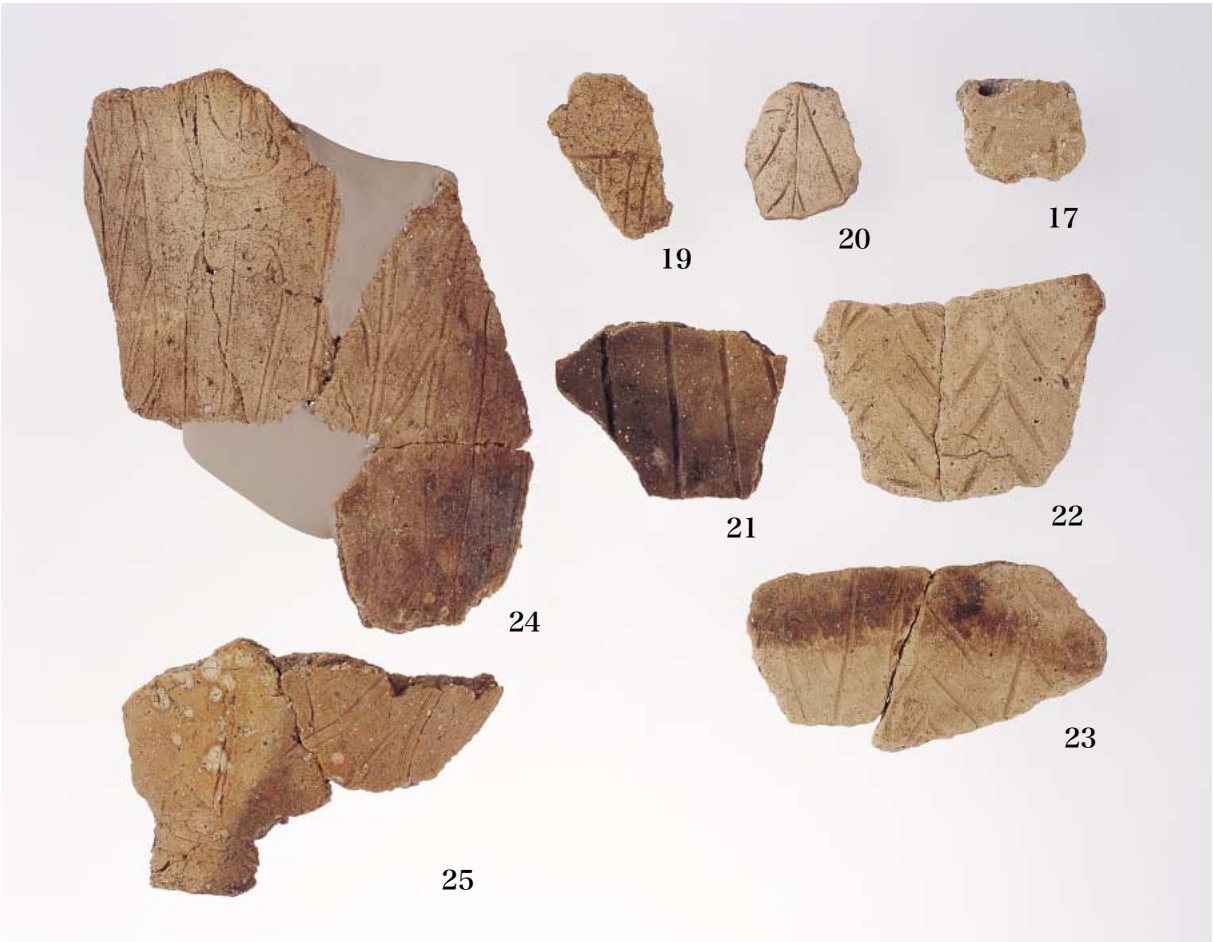


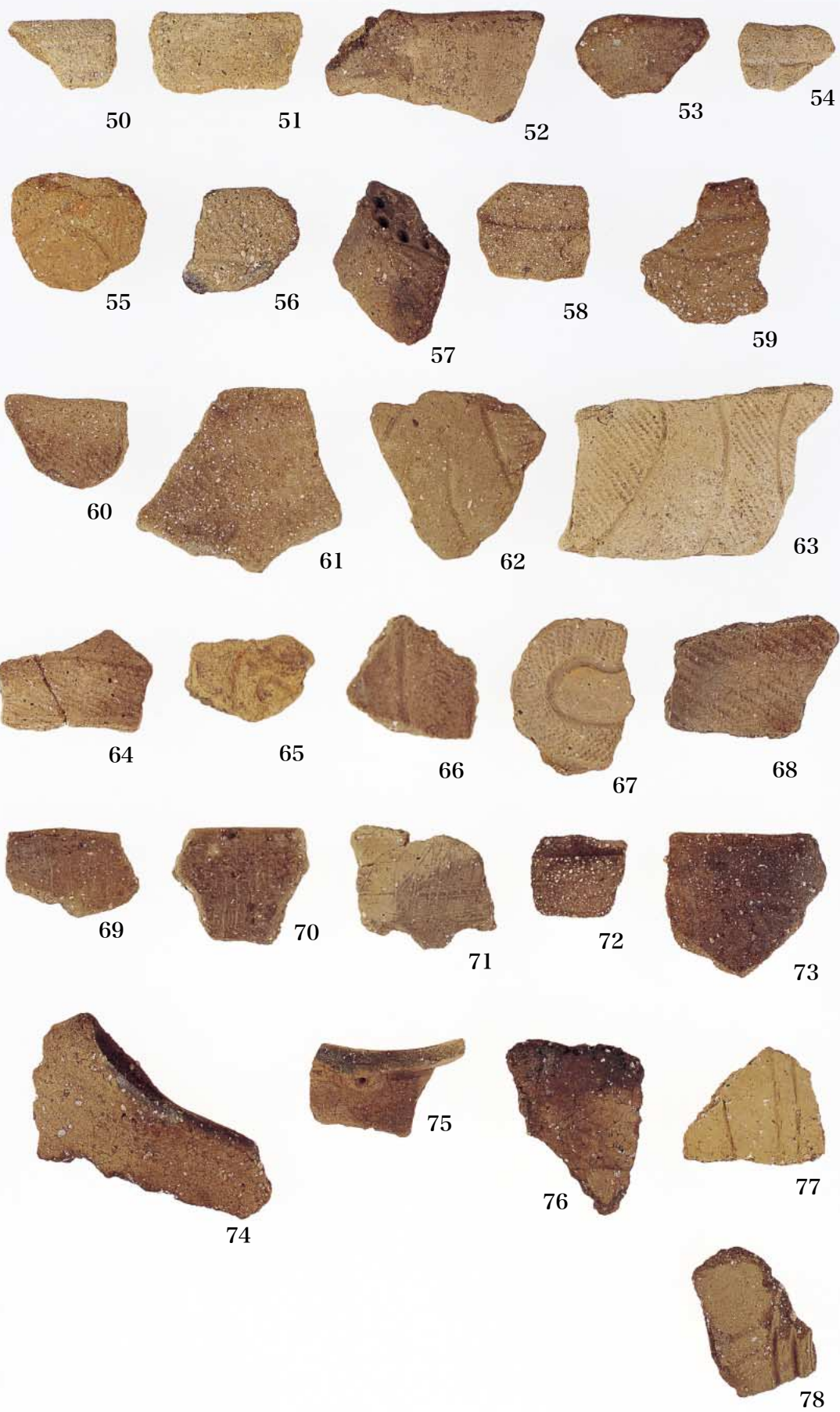
35



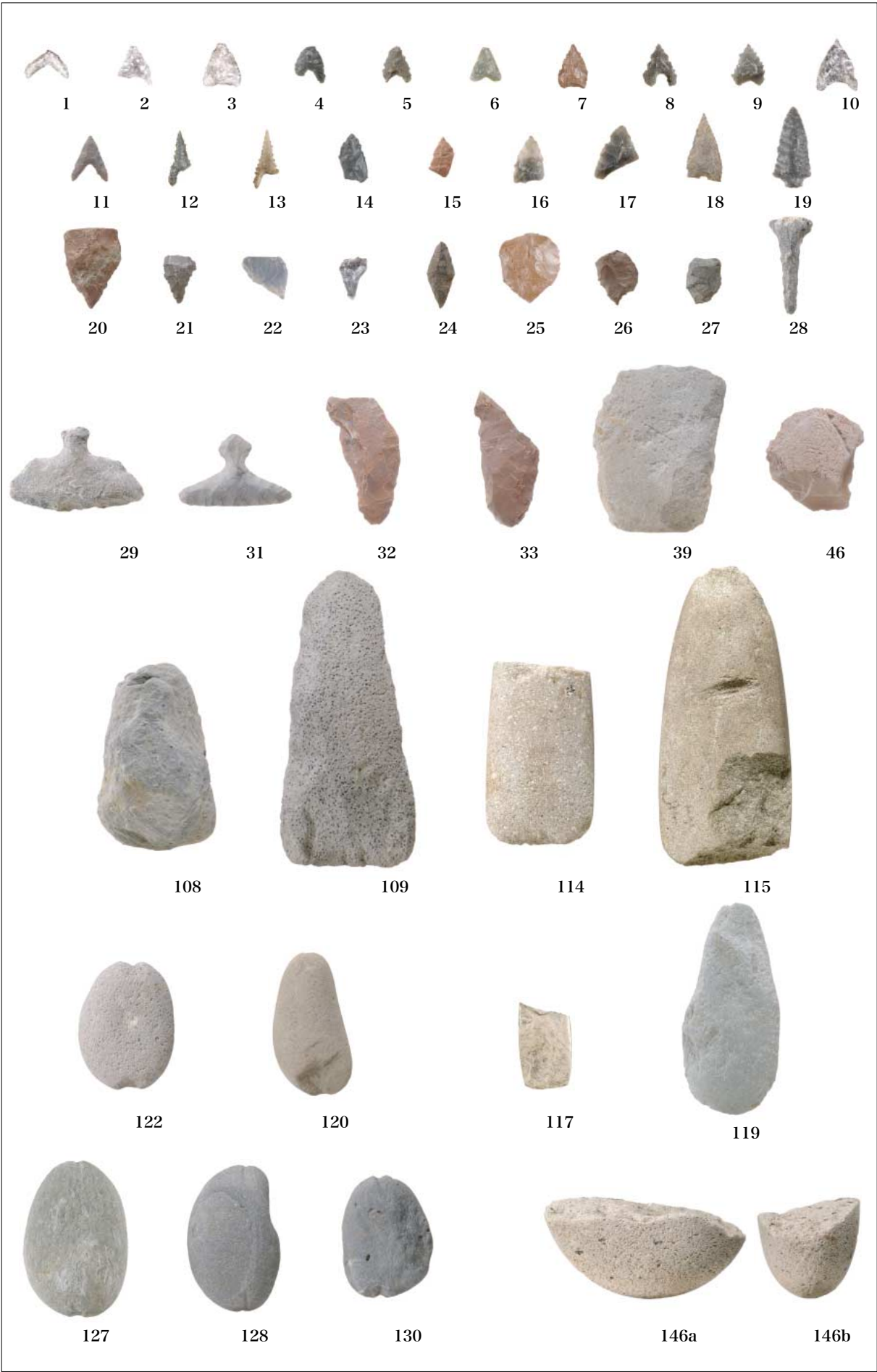
28

写真図版6





写真図版8



愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第125集

吉野遺跡

2004年8月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育サービスセンター
愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

印 刷 サンメッセ株式会社